

様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた
教科等の授業改善を通して～

令和元年度 研究紀要 第40集



中学部 1年 生活単元学習
「チーム17 ごみの分別名人になろう
～ごみの分別おしえ隊出動!～」



小学部 2年 日常生活の指導
「あきが いっぱい」



高等部 1年 家庭科
「消費生活～賢く買い物をしよう～」

目次

はじめに

校長 松井 克彦

全体研究

I 研究の概要	1
---------	---

各学部の実践

I 小学部の実践	14
II 中学部の実践	25
III 高等部の実践	42

参考資料

・資料1	小学部	目標のステップアップシート
・資料2、3、4	中学部	「なりたい自分シート」
・資料5	高等部	家庭科指導内容チェック表
・資料6	高等部	フェイスシート（記入例）
・資料7		令和元年度キャリア教育全体計画
・資料8		授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」

あとがき

教頭 熊谷 司

研究に携わった職員

横手支援学校では、昨年度から研究主題『様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり「～主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～』を掲げ、2か年の研究に取り組みました。

これまで、キャリア教育におけるライフキャリアの視点として、1「役割を果たす」2「自分らしく生きる」、3「自己表現を果たす」の3点を掲げ教育活動を展開してきました。

この教育活動の中で、校内での学びや習得したことを学校を離れた地域や家庭などでの場面で生かすということについての課題が見られ、本研究では児童生徒が定着した学びを様々な場面で活用したり、応用したりできるようになることを目指して授業改善に取り組んできました。

今年度は、小・中学部では「生活単元学習」、高等部では「家庭科」を対象とした授業づくりを行いました。中学部は昨年度の「職業・家庭科」から「生活単元学習」を対象とし、「職業・家庭科」などの教科指導と、各教科等を合わせた指導である「生活単元学習」のつながりを意識し、学びの広がりや般化を目指すこととしました。

全校で取り組むことを基本方針としながら、学部単位を基本とする研究組織をもとに、それぞれの研究テーマを設定して、実践研究を進めてきました。さらに、昨年度の授業実践のポイントをもとに「学びを生かす」ための共通実践事項を紹介します。

「学びを生かす」姿を引き出す3つのポイント

- J** 学びを実感できる工夫をしよう⇒[これ、わたしできる！やってみたい！]主体性、意欲
- A** 学び合いを生み出す工夫をしよう⇒[話合いや思考の見える化]環境設定、雰囲気づくり
- M** 学びの姿を明確にイメージしよう⇒[学習自体に興味・関心をもつことができる経験]

新学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むために、卒業までに「育成を目指す資質・能力」を明確にし、「社会に開かれた教育課程」のもと、地域の特色を生かして学校と地域が連携・協力しながら教育活動を展開することが求められています。

小学部から高等部まで、全校で100名の児童生徒が学ぶ本校は令和元年度創立40周年を迎えました。記念すべきこの年に、学校経営の重点項目の一つとして「横手が舞台」を合言葉に、地域資源を活用した学習活動の充実を図りました。併せて、本校の「学部を貫く教育課程」の実現のため、学年や学部間のつながりを意識した地域資源の活用、年間指導計画の点検と改善に取り組みました。各学部で実践している社会貢献活動や地域資源を活用した取組をまとめて「年間活動表」を作成し、「互いの学びの見える化」によって全校児童生徒、職員が互いの実践を見渡せるようにしました。このことにより、学年内の学習グループや学部内の各学年間での指導の一貫性や系統性が更に意識されることにつながると考えています。

さて、本校の授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」をベースにしながら2か年の実践研究の取組と成果を、本研究紀要にまとめることができました。ご高覧いただき、きたんのないご意見・ご指導をいただければ幸いです。皆様からいただきましたご指導を今後の取組に生かし、職員一丸となって一層実践に励みたいと思います。

結びに、研究を進めるに当たりまして、懇切丁寧にご指導・ご助言をくださいました指導助言者の秋田県教育庁特別支援教育課指導班 佐藤 圭吾 主任指導主事、清水 潤 主任指導主事、秋田県立角館高等学校定時制課程 大沢 貴子 教育専門監 の3名の先生方をはじめ、ご協力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも、本校の研究にご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

全体研究

令和元年度 秋田県立横手支援学校 全校研究概要

1 研究主題

様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり
 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～
 （2年次／2か年）

2 研究主題設定の背景、研究の経緯

(1) 様々な場面で学びを生かすことについて

本校ではキャリア教育におけるライフキャリアの視点を設定している。その視点とは、「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」の3つであり、これらの視点を基にした教育活動を展開してきた。この教育活動の中で、校内での学びや習得したことを地域や家庭などの場面で生かすということについての課題が見られた。この課題に対して、本研究では児童生徒が定着した学びを様々な場面で活用したり、応用したりできるようになることを目指してきた。また、「様々な場面で学びを生かす」ことを以下のように捉え、それぞれの場面における学びの広がり、活用を丁寧に見取っていくことを全職員で共通理解した。

○様々な場面とは

児童生徒の成長、キャリア発達などによって、学習活動や集団、役割などが広がっていく過程での一場面のこと

○学びを生かすとは

学習したことや経験したことが、学びとして定着し、他の場面や状況において活用したり、応用したりできるようになること

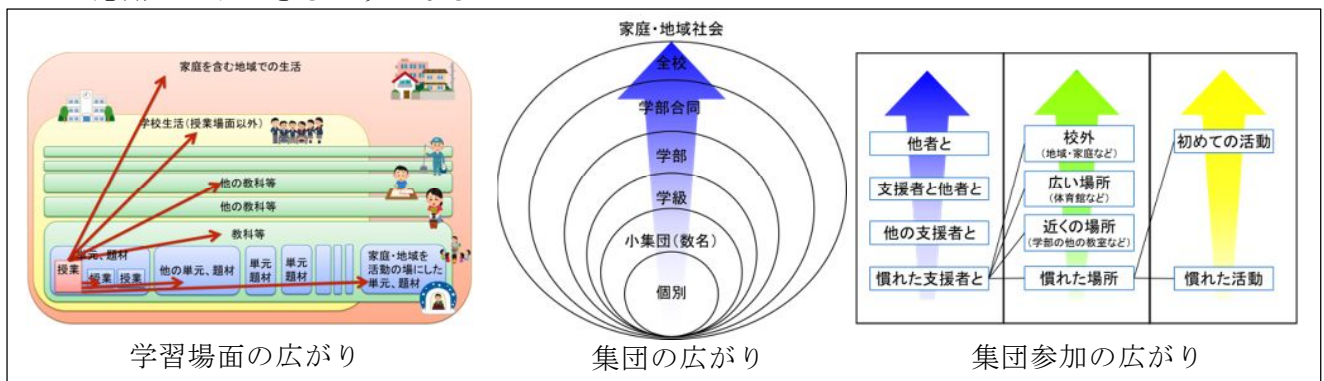


図1 様々な場面についての捉え

(2) 対象とする指導の形態について

今年度は、小・中学部では「生活単元学習」、高等部では「家庭科」を対象とした授業づくりを行った。高等部の「家庭科」については、平成29年度に中学部の「職業・家庭科」とともに新たに教育課程に位置付けた経緯がある。前述した学びの広がりについての課題に対応するため、家庭生活や地域生活をより意識した学習内容を取り上げることの必要性などが新設の理由である。また、新設した平成29年度から「職業・家庭科」、「家庭科」について研究の対象とし、授業づくりについて取り組んできた。

今年度、中学部においては研究の対象を「職業・家庭科」から「生活単元学習」に移行した。「職業・家庭科」などの教科指導と、各教科等を合わせた指導である「生活単元学習」のつながりを意識し、それぞれの学びを他方の学習場面で生かすことを通して、学びの広がりや般化を目指してきた。

(3) 教科の系統性、連続性について

過年度の研究を通して、教科の目標・内容を意識してねらいを絞ることがキャリア発達、キャリア教育に直結するということが明らかになった。しかし、教科の目標・内容の段階を踏まえ連続性を確保していくこと、児童生徒の個々の学習状況を見定め個別の指導計画に基づいた学習を行うこと、その両方のバランスの取れた指導を展開することの難しさが課題として見えてきた。また、学部内、学部間で学習内容の重複が見られたり、指導目標や学習内容の連続性が弱かったりといった課題に対して、「職業・家庭科」「家庭科」において指導内容チェック表を作成し、指導計画作成や見直しの機会を設け、系統性、連続性の確保を目指してきた。しかし、昨年度の反省から、特に学部間の連続性についてまだ不十分であるという課題が挙がった。これら教科の指導内容の連続性、個人の学びの連続性について、昨年度末に全校職員で協議する機会を設定した。そこで学習指導要領の目標・内容の段階をしっかりと踏まえた指導計画の作成を今まで以上に徹底させることが必要であるという意見が多数出された。小学部から高等部までの目標・内容の段階を意識し、児童生徒の現在の学習状況を把握した上で指導計画の作成を行った。

(4) 新学習指導要領との関連について

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学習指導要領の示す「育成すべき資質・能力」と本校の児童生徒の育てたい力とを関連させた。また、これらの「資質・能力」を育成するため、教科横断的な視点での指導計画作成などの取組を行った。また、その学び方として「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりを行った。

(5) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の視点について、「過去のよい実践との関連」「育てたい力やねらいに迫るための学び方」であるということを経験を通して共通理解できた。各学部の全校授業研究会、公開研究会などで「学びを生かすこと」「主体的・対話的で深い学びの実現」につながる授業実践を行うことができた。今年度はこれらの授業実践の成果を全ての学習グループで共有し、共通実践事項として取り組み、授業の質の向上を図った。

3 研究仮説

集団や活動場所の広がり意識した段階的で連続性のある指導計画を作成し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行うことで、児童生徒が様々な場面で学びを活用することができるようになるのではないかと仮説を立てた。

4 研究の内容と方法

(1) 取組の内容と方法

① 授業づくり

ア 指導計画の作成

既習の学習内容を確認し、中学部・高等部のそれぞれの学部における3年間を見通した指導計画を作成するために、昨年度「職業・家庭科」「家庭科」で作成した「指導内容チェック表」を活用した。

小学部、中学部、高等部の12年間の学びの連続性、教科の段階を見通すために、学習指導要領の教科の各段階の目標・内容を押さえた計画の作成を行った。そのために小・中・高等部の目標・内容の一覧を示した表を活用した。

また、年間指導計画の妥当性や効果を形成的な評価を基に修正、改善する「指導内容検討会」を定期的実施した。

また、学校経営の重点項目の1つ「横手が舞台」を合言葉にした学部を貫く教育課程の実現のため、学年間のつながりや地域資源の活用を意識した年間指導計画の点検と改善な

どを行った。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善

「単元構想図」に各小単元における「主体的・対話的で深い学び」や目標に迫るための「主体的・対話的で深い学び」の視点での具体的な手立てを記入し、視点を踏まえた単元構想を行った。

「学習指導案」については、「育成を目指す資質・能力」についての観点別評価の3観点や「主体的・対話的で深い学び」の学習活動に注目できる様式にした。

上記三つの様式を使用し、視点を絞った単元構想会や授業検討会を行った。学校全体を通した視点の共有や成果の積み重ね、他学習グループへの成果の伝達、共有などについては、授業改善コーディネーターが各構想会、検討会に参加し、その役割を担った。

全校授業研究会、公開研究会関連授業研究会においては、授業改善について、付箋紙を用いたグループ協議を行った。その際に「主体的・対話的で深い学び」の視点をもとに改善に向けた協議を行った。

ウ 共通実践事項に基づく授業実践

授業づくりの視点を共有するために、昨年度の授業づくりの成果をまとめ、特に有効であった要点について、共通実践事項として全職員で共有した。また、昨年度同様、本校の授業づくりの基礎基本を記したハンドブック「横手のスタンダード」を継続して活用した。

② 授業改善の流れ

研究の対象となる指導の形態は小・中学部：生活単元学習、高等部：家庭科とした。

対象となる指導の形態について、3学部とも全ての学習グループにおいて、授業提示と授業改善を行った（図2）。

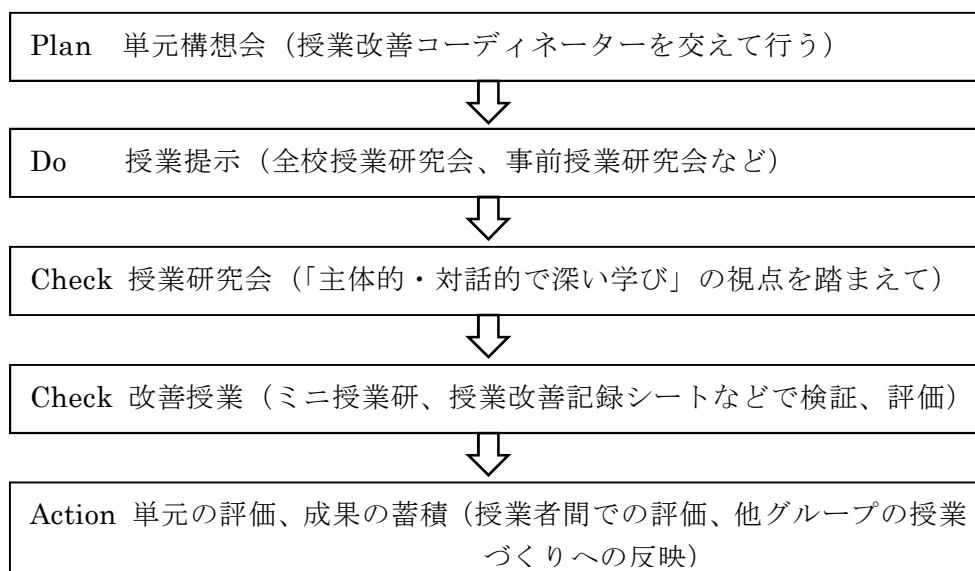


図2 授業改善の流れ

③研究計画

実施時期	実施内容
平成31年 4月	・拡大研究部会①（研究の方向性検討） ・全校研究会①（研究内容の共有、意見交換） ・学部研究会①（学部研究の共通理解） ・教育課程検討委員会①
令和元年 5月	・職員研修会①（新学習指導要領）
6月	・学校評議員会①（研究内容の説明と評価依頼） ・ミニ授業研究会【～12月】（各学習グループの授業研究） ・全校授業研究会①（小学部授業研究と学部研究推進状況の報告）
7月	・拡大研究部会②（学部を貫く教育課程の検討） ・全校授業研究会②（高等部授業研究と学部研究推進状況の報告） ・学部研究会②（学部研究の進捗状況確認） ・職員研修会②（ICT活用） ・職員研修会③（自立活動）・教育課程検討委員会②（1学期の評価及び改善案検討）
8月	・全校研究会②（進捗状況と推進の方向性の確認）
9月	・全校授業研究会③（中学部授業研究と学部研究推進状況の報告） ・学部研究会③（研究推進の中間評価）
10月	・拡大研究部会③（公開研究会に向けた方向性の検討） ・公開研究会事前授業研究会①（高等部の授業検討）
11月	・拡大研究部会④（公開研究会の運営などの確認） ・公開研究会事前授業研究会②③（小・中学部の授業検討） ・学部研究会④（授業実践の成果と課題の確認、公開研究会に向けた学部研究の確認） ・公開研究会
12月	・職員会議（紀要原稿作成について） ・教育課程検討委員会③
令和2年 1月	・職員研修会④（教科等の指導） ・学部研究会⑤（学部研究のまとめ） ・教育課程検討委員会（研究推進の評価及び次年度への改善案の確認）
2月	・全校研究会③（全校研究の成果・課題の共有、来年度の方向性について） ・研修報告会（先進校視察等の情報共有） ・学校評議員会②（研究推進への評価） ・研究紀要の作成（研究のまとめ、校外への発信）

④研究組織

研究組織については以下の図3のとおりである。

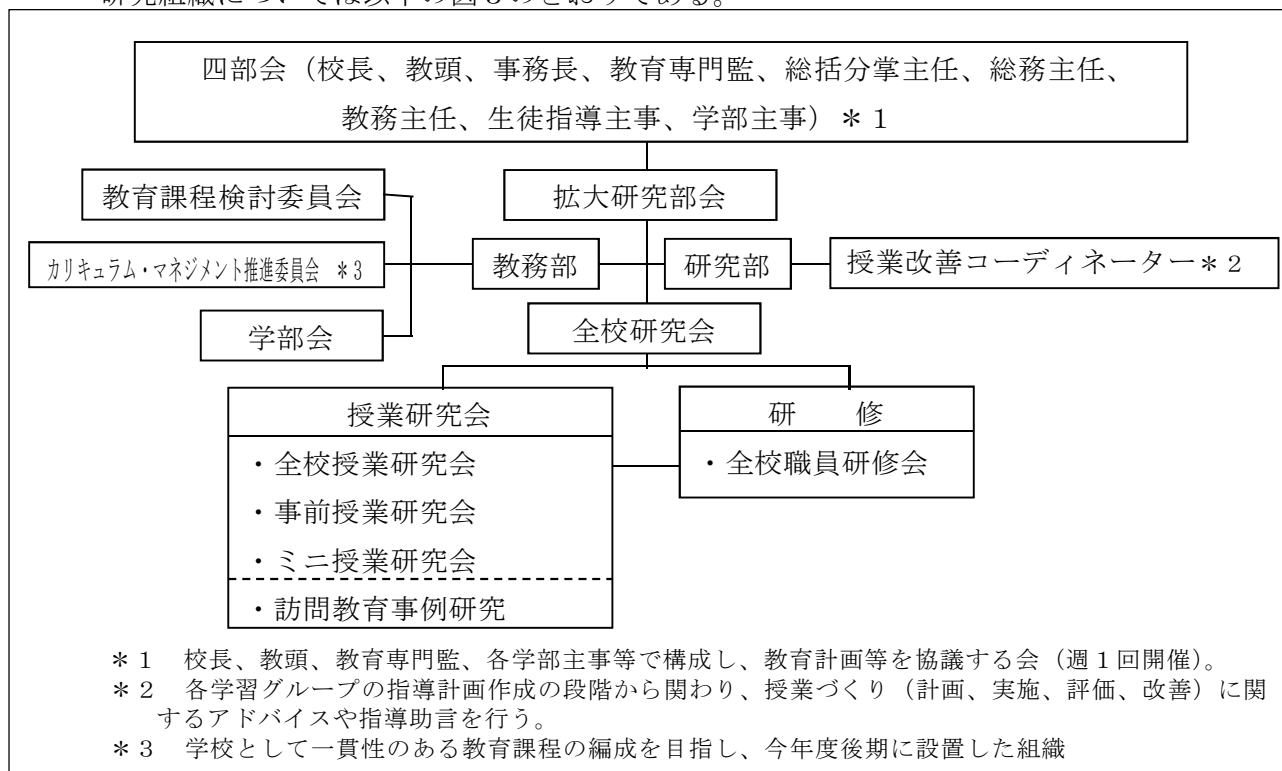


図3 研究組織図

5 取組の実際

(1) 指導計画の作成

中学部の「職業・家庭科」、高等部の「家庭科」においては、既習の学習内容を確認し、3年間の連続性のある指導計画を作成することを目指して、昨年度に引き続き「指導内容チェック表」を活用した年間指導計画の作成を行った。「指導内容チェック表」を活用することで昨年度までの学習内容の履修状況と今後履修すべき学習内容を見通すことができ、学びの積み重ねを意識した指導計画を作成することができた。

中学部においては今年度、生活単元学習を研究の対象としているが、生活単元学習の中で他教科等の学びをしっかりと生かしていくために、「職業・家庭科」について「指導内容チェック表」を活用して、年間指導計画の作成を行った。

また、「指導内容チェック表」については、より新学習指導要領の学習内容との関連をもたせるために、改訂を検討している（図4）。

高等部家庭科		年			グループ			履修チェック表			備考
内容	1段階	1年	2年	3年	2段階	1年	2年	3年			
A 家族・家庭生活	1段階				2段階						
ア 自分の成長と家族	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
イ 家庭生活での役割と地域との関わり	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
ウ 家庭生活における余暇	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
エ 乳幼児や高齢者などの生活	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
B 衣食住の生活	1段階				2段階						
ア 食事の役割	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
イ 日常食の調理	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
ウ 衣服の洗濯	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
エ 布を用いた製作	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						
C 消費生活・環境	1段階				2段階						
ア 消費生活	(ア) ㊟				(ア) ㊟						
	(ア) ㊟				(ア) ㊟						
	(イ)				(イ)						
イ 消費者の基本的な権利と責任	(ア)				(ア)						
	(イ)				(イ)						

◇記入の仕方 ㊟：メインの題材で履修 ○：他の題材で関連付けて履修
他の領域・教科で関連付けて履修：例) 生単で履修→生 数学で履修→数 自立活動で履修→自

図4 検討中の指導内容チェック表（高等部家庭科 履修チェック表）

また、学習指導要領に即した学びの連続性、系統性を実現するために、学習指導要領における教科等の各段階の目標や内容を確認しながら指導計画を立案した。作成の際の資料として、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編巻末の知的障害特別支援学校の各教科についての「目標と内容の一覧」や熊本大学教育学部附属特別支援学校が作成した小学部・中学部・高等部で取り扱う教科の指導内容を一覧化して示した「指導内容確認表」を活用した。年間指導計画作成時、単元構想時、指導案作成時などに学びのつながりを意識するとともに現在の児童生徒の学習状況がどの段階であるのかという実態把握も行うことができ、より実態に即した指導計画の作成へとつながった。

教科の系統性だけにスポットを当てるのではなく、これまでの知的障害教育の指導計画作成のプロセスである児童生徒個々の実態やニーズを基にする視点についても考慮することについて、4月の教育課程説明会の際などに全職員で共通理解する機会を設けた。学習指導要領に即した指導の系統性や個々の実態やニーズ、学校教育目標の実現のそれぞれの観点で、本校における様々な教育資料の位置付けやそれぞれの関連について教育資料説明会で確認した（図5）。

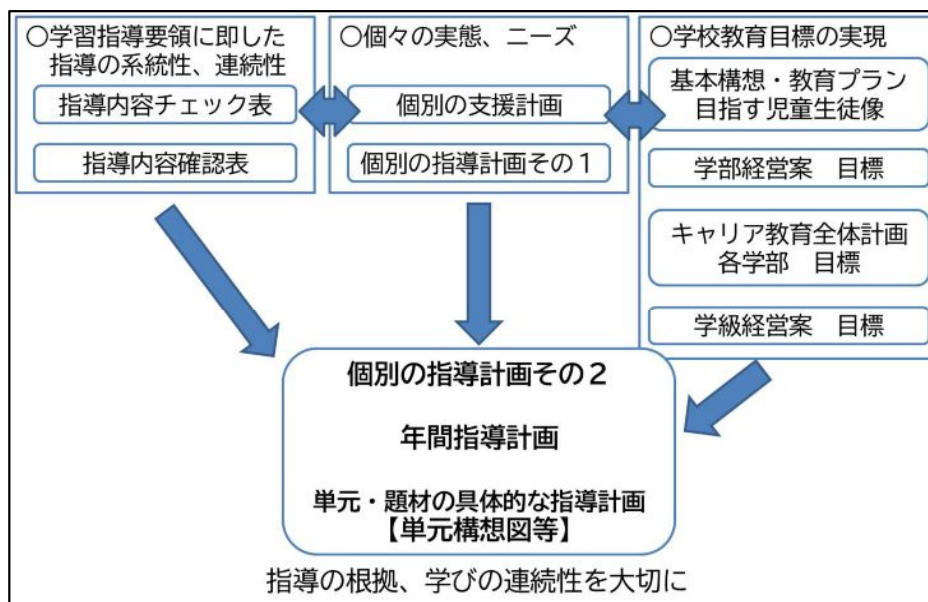


図5 指導計画作成、指導目標設定について（教育資料説明会資料）

「指導内容検討会」については、年間指導計画に記入した各単元の評価、「指導内容チェック表」、児童の変容の記録などを基に、それぞれの題材、単元の実施時期や実施内容が適切であるか、妥当であるかなどの視点で評価を行い、必要に応じて計画の変更や改善を行った。学部をまたいだ検討も年度当初予定していたが、実践を通して学年内のグループ間、学部内の各学年間での指導の一貫性や連続性に課題が見られたため、学年内、学部内での検討を中心に「指導内容検討会」を行った。

「横手が舞台」を合い言葉にした学部を貫く教育課程の実現を目指して、各学部で実践している地域貢献活動や地域資源の活用などを見直し、小学部、中学部、高等部の柱となる学習活動の検討を行っている。「横手の冬まつり」を題材にした地域貢献活動を柱の単元とする検討がなされている。また、全校児童生徒、職員が全校の実践の様子を見通せるように、「横手が舞台」単元一覧表（図6）を作成し、小・中学部校舎、高等部校舎にそれぞれ掲示し、意識付けを図っている。



図6 「横手が舞台」単元一覧表

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善

本校で授業づくりの検討の際に用いてきたツール「単元構想図」については、昨年度から、図7のように「主体的・対話的で深い学び」の視点を様式の中に取り入れた。

「学習指導案」についても、単元や本時、個別の目標を「育成を目指す資質・能力」の観点別評価の3観点「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」で整理して設定した。また、単元構想図と指導案に「主体的・対話的で深い学び」を実現するため単元全体を見通した単元計画や教師の具体的な支援について明記した。

単元構想会は、ミニ授業研究会、全校授業研究会、公開授業研究会を行う学習グループ全てについて実施した。単元構想会での検討内容について以下の表1でその抜粋を示す。また、各グループでの検討を通して共通に見られた項目についても表内に示した。

ミニ授業研究会、全校授業研究会では「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善に向けた協議を重ねた。各授業研究会とその改善授業において、授業改善の協議、指導助言などによって得られた「学びを生かすこと」につながる成果、授業づくりの要点について以下の表2に示す。

表2 各授業研究会で得られた授業づくりの成果、要点
【ミニ授業研究会】

学級・学習グループ	主な授業づくりの成果、要点
小学部1年合同	普段から学習することが楽しいという経験を積み重ねることで、「学習すること」自体に興味・関心をもち、導入から教師の話に真剣に耳を傾け、主体的に学習することができた。
小学部5・6年合同	「よいおもてなしをする」ための観点が分かりやすい言葉でしっかりと提示されていた。招待者もその観点での感想を児童に伝えることで、おもてなしの意味を児童に実感させることができた。
中学部1年 生活単元学習2グループ	思考や理解を支えるために、視覚的な教材以外にも、音楽や動作など様々な手掛かりを用意していた。前時の学習をしっかりと想起することができ、主体的な学習へとつながった。
中学部1年 生活単元学習3グループ	一人一人の役割の難易度を適切に設定することで、自分の活動に余裕をもって取り組むことができ、友達と協力することにも目を向けることができた。
中学部2年合同	「挨拶すること」の本質を丁寧に伝えることで、友達の挨拶の評価について、「声は出てないけど、相手をしっかりと見ていた」など相手を思いやった評価をすることにつながった。
高等部1年家庭科 2グループ	生徒から発言を引き出し、その発言を受けて、授業を組み立て進めていく工夫が、生徒の思考・判断、表現する姿へとつながった。発言の少ない生徒も課題について熟考する姿が見られた。
高等部1年家庭科 3グループ	学習の流れや課題を解決するポイントを、イラストなどで視覚化し分かりやすく提示することが、言葉や文字だけでは理解が難しい生徒にとっての大切な手掛かりになった。
高等部2年家庭科 1グループ	生徒の発言を丁寧に拾って、その発言をうまく活用し、知識を伝えた。自分の発言が生かされることで、生徒の知識、理解が深まった。
高等部2年家庭科 2グループ	実物の活用が効果的であった。弁当箱、実物の食品を使用することでしか体験できない「汁がこぼれる」「具が傾く、まざる」などの気付きを大切にする。
高等部3年家庭科 1グループ	授業のまとめに学習した内容を自分の生活にどう生かすかを考える時間を設定した。しっかりと整理された板書、ノートなどを手掛かりに、学びを生活と結びつけることができた。
高等部3年家庭科 3グループ	生徒の実態をしっかりと把握し、生徒ができることを柱にして個々に合わせた課題や学習内容を工夫し、設定した。意欲的に集中して、長時間活動に取り組むことができた。

【全校授業研究会】

学級、学習グループ	主な授業づくりの成果、要点
小学部 3・4年	教師の願い、単元などの目標が、児童に提示したためあてや「なかよくする」ポイントに表した。学習内容や児童のペアなど、児童がめあてを達成できるように工夫した。
高等部 3年 2グループ	具体物を操作する活動を通して、自ら考えたり、友達と意見をやりとりしたりして、学びを深めていく活動を設定した。
中学部 3年合同	題材が生徒の実生活から実際にイメージできるものであった。実感のもてる題材で成功体験を積み重ねていくということが学習への興味・関心や主体的な姿につながった。

(3) 公開研究会で得られた成果

令和元年11月27日に公開研究会を実施した。秋田県教育庁特別支援教育課佐藤圭吾、清水潤両主任指導主事、秋田県立角館高等学校定時制課程大沢貴子教育専門監には全校研究会、公開研究会事前授業研究会、公開研究会当日とそれぞれ3回の指導助言を依頼し、授業づくりについて指導していただいた。公開研究会当日の各分科会においては提示授業についての改善案の検討やそれぞれの学部の研究主題に迫る内容についての協議を行った。授業づくりについての観点、協議や指導助言を通して得られた要点は以下のとおりである。

表3 公開研究会各学部分科会で得られた授業づくりの成果、要点

提示授業	授業参観の観点	授業づくりの要点 (指導助言などから)
小学部 2年1組 生活単元学習 「あきがいっぱい」	スパイラル型の学習を通して、学びの活用や気付きにつながる工夫 ・これまでの学習を思い出し、作りたいお面をイメージして、制作に取り組むことができる導入や教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉での理解が難しい児童の気付きや思考、実感を生み出すために学習展開や教材活用の工夫をする。 より目標達成に迫ることができる教材選定や活用の工夫をする。 各教科等を合わせた指導には道徳、特別活動、自立活動など幅広い教科等の目標や内容が含まれているということを留意し、単元を計画する。
中学部 1年1グループ 生活単元学習 「チーム17 ごみの分別名人になろう ～ごみの分別おしえ隊出動!～」	<p>なりたい自分シートを活用したグループ編成と課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業・家庭科で学んだことを生かして考えた「ゴミ分別ゲーム」。友達がより楽しめるものに改善するために、主対的に意見を交換し合う生徒の姿 	<ul style="list-style-type: none"> 単元での学びを教師がしっかりと把握し、単元以外でも繰り返し学びを生かす機会を作ることで、学びの定着、般化につなげる。 「ごみ」についての学びを身近な地域の課題と結び付けることで、「横手が舞台」＝地域で学びを生かすことにつながる。 生徒のつまずきの理由を分析し、プロセスを細かく見取り、できる状況を作り出す

提示授業	授業参観の観点	授業づくりの要点 (指導助言などから)
高等部1年1グループ 家庭科 「消費生活 ～賢く買い物をしよう～」	家庭と連携し、学校の学習を家庭生活の中で生かした学習活動 ・学習を生かして家庭で実践したことを共有する活動の設定 ・相互評価を通して考えを広げたり、深めたりする場面の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・机を使わない、自分の意見を付箋に書いて友達に渡すなど、生徒同士の話し合いが生まれやすい教材や環境設定を工夫する。 ・身近な生活と結びつけ、持続可能な社会の構築という見方・考え方を働かせながら、学ぶ機会を設定する。 ・知的障害のある生徒への教育的対応の基本である「生活経験を通した」「実際の生活に即した」学習を大切にする。

また、各学部研究で検討・協議を行いたい事項について協議題を設定し、それぞれの分科会で協議を行った。各学部の研究テーマ、協議題、協議や指導助言の要点については以下の表4に示す。

表4 公開研究会各分科会における協議内容など

	学部研究テーマ	協議題	協議、指導助言
小学部	スパイラル型の学習を通して学んだことを他の場面で発揮する児童を育む ～生活科等の目標・内容を押さえた生活単元学習の実践を通して～	スパイラル型の学習の年間指導計画をどのように改善・修正していくか（年度途中での評価の方法や修正の判断基準など）	（スパイラル型の学習の中で） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考が働いているか、単に作業的になっていないか、 ・学習内容に偏りが無いか、限定された活動になっていないか。 ・単元の評価を定期的に行い、必要を感じたら、即時に改善・軌道修正を行う。
中学部	なりたい自分を目指し、主体的に学びを生かす生徒を育む ～教科の学びを生かすための生活単元学習の実践を通して～	教科の学びを他の場面で生かすための実践例や評価方法等について	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEを取り入れた国語や社会との関連付け学習を行い、エピソード記録で評価した。（他校の実践事例） ・学んだことが実生活（時間・距離・金銭・単位など）で生かされている姿を、教師が具体的に想定できているか。
高等部	よりよい生活を営むため、自ら学びを暮らしの中で生かす生徒を育む ～学びを生かす姿や場면을明確にした家庭科の実践を通して～	生徒が学びを家庭での生活で生かすための手立てや評価の工夫について	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の中でできてほしいこと、ニーズを保護者と共有する。 ・学校での実践の様子や学んだことを家庭に伝え、家庭での実践の様子を保護者から情報収集する。 ・家庭と目標や成果を共有できるようなツール（キャリアノート、家庭科通信など）を工夫する。

(4) 共通実践事項に基づく授業実践

昨年度の授業づくりの成果や要点を共通実践事項『学びを生かす』姿を引き出す3つのポイント(図8)としてまとめ、年度当初に全職員で共有した。この共通実践事項は単元構想、授業研究会等、授業づくりで活用した。この視点を共有し授業づくりを生かしたことが、前述したような授業づくりの成果の一因になったと評価できる。

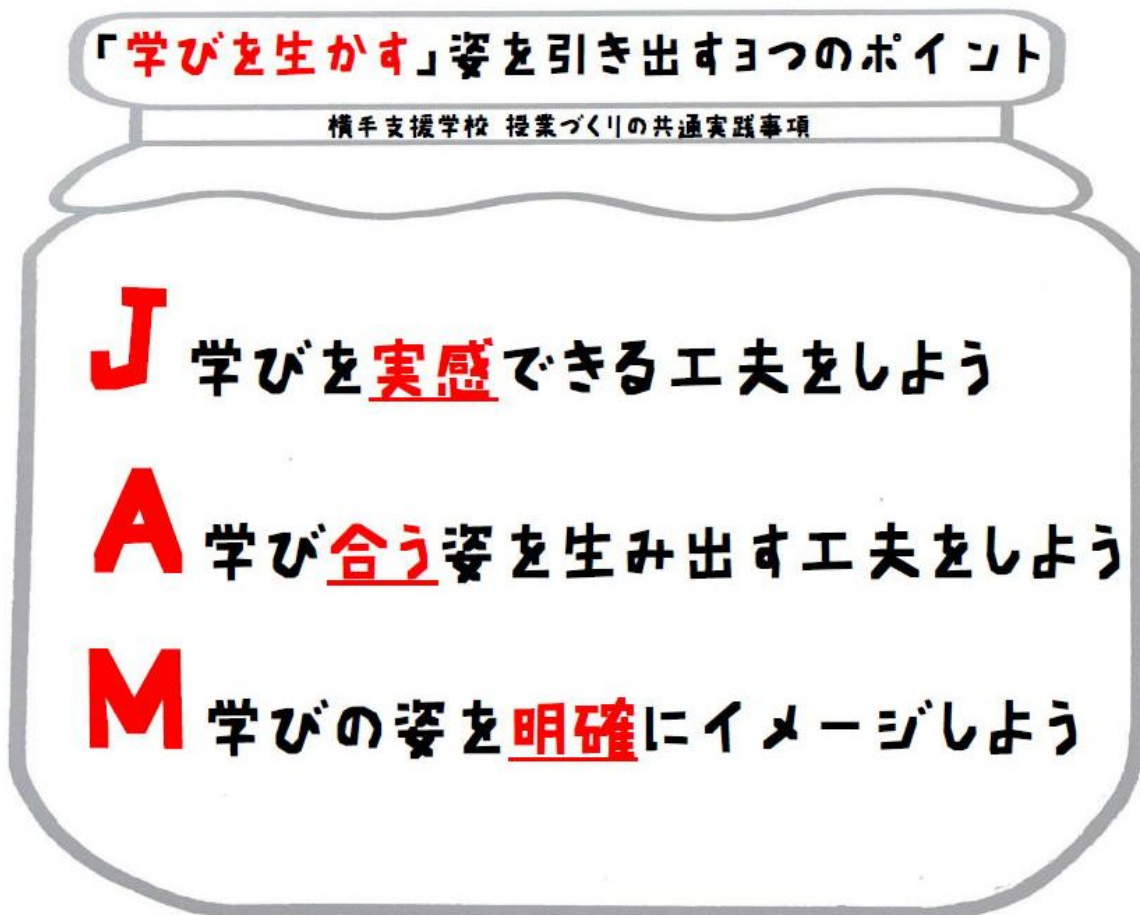


図8 共通実践事項「学びを生かす姿」を引き出す3つのポイント

6 成果と課題、今後の取組について

(1) 学びを生かす場面を想定することについて

授業づくりを行う上で、各学部それぞれに「様々な場面で学びを生かす姿」につながる取組を行ってきた。小学部では「スパイラル型の学習の設定」、中学部では「なりたい自分シーターの活用」、高等部では「フェイスシーターの活用」を軸に昨年度から研究実践を積み重ねてきた。昨年度の成果、課題を受けて今年度の取組を行ってきたが、「様々な場面で学びを生かす姿」を引き出すためには、「学びを実際に生かす場面を明確に想定して」指導計画を作成したり、学習を展開したりしていくことが有効であるということが示された(表5)。(詳細については各学部の実践を参照。)共通実践事項の一つ「学びの姿を明確にする」こととも関連し、今回の研究における授業づくりの要点の一つと言えよう。

今後、児童生徒に必要な学びをより明確にするためには、どのように具体的な場面の設定や目標を個別の指導計画、個別の支援計画などの教育資料に落とし込んでいったらよいかについて、研究を重ねていく必要がある。

表5 学びを生かす姿の想定について

学 部	学びを生かす姿の想定工夫
小学部	「スパイラル型の学習 目標のステップアップシート」に学びを生かす場面を明記、児童の変容のエピソード評価を行った。
中学部	「なりたい自分シート」で、各教科等で生徒がどんな力を付けたいのかを考慮し、それぞれの教科等での学びを想定した授業づくりを行った。
高等部	学習指導案に学びを生かす場面を明記、その場面での具体的な活動や評価基準を設定し、本時との関連をもたせた。

(2) 児童生徒の変容（エピソード評価を通して）

各学部とも児童生徒の変容については、エピソード評価を通して行った。前述したように想定した学びを生かす場面における評価を中心に行った。学びを生かす姿の想定が校内の場合は児童生徒の変容の見取りや評価が比較的容易であるが、過年度からの課題である学校を離れた場面における学びを生かす姿の評価については、今後も検討の必要がある。家庭と連携したキャリアノートの活用や地域資源を活用した学習などの検討を続けていく。本校で活用しているキャリアノートがあまり有効に活用されていないという現状があるため、作成・活用の意義の再確認や内容の整理等の作業を現在行っている。来年度当初に全職員でキャリアノートの新様式の提示、意義を確認する機会を設ける予定である。

表6 エピソード評価を通じた児童生徒の変容について

学 部	児童生徒の変容
小学部	友達との適切な関わり方についての学習の後、家庭で母親に対して「今度から妹を呼ぶ時に優しくトントンしてあげよう」と話し、実際に関わりが変化した。 (小学部ステップアップシート エピソード記録欄から)
中学部	「やさしい保育士になりたい」という「なりたい自分シート」に記載した将来の夢と関連付け、座布団カバー制作や保育園との交流の時に、相手が喜んでくれるためには、どうしたらよいかを考えて、積極的に学習に取り組むようになった。 (中学部 エピソード記録票から)
高等部	学びを生かす姿を具体的に想定した授業を展開することで、現場実習期間中に家庭で冷蔵庫にある食材を使い、3つの食品グループを意識した色合いのよい弁当づくりに取り組む姿につながった。 (高等部 母親からの聞き取りから)

(3) 研究関係資料の整理、成果の財産化

2か年で様々な取組を行い、授業づくりのポイント、新学習指導要領の趣旨などに関する様々な資料を提示し、職員への共有を図ってきた(表7)。しかし、多くの資料が存在し、研究の成果、授業づくりの要点が捉えづらくなっている現状がある。研究のまとめとしてこれまでの成果を要点として整理し、今後も授業づくりで生かしていきたい項目を精選して、本校が長年授業づくりの基礎・基本として活用してきている「横手のスタンダード」(図9)への記載、改訂を行う。改訂内容として、学習指導要領の目標内容を踏まえるということや主体的・対話的で深い学びの視点についてなどを予定している。

表7 2か年の研究で活用した資料一覧

- ・横手のスタンダード
- ・研究用語集（平成30年度版、令和元年度版）
- ・指導内容チェック表
- ・指導内容一覧表（熊本大学教育学部附属特別支援学校作成）
- ・特別支援学校学習指導要領解説各教科編 教科の目標・内容一覧
- ・特別支援学校学習指導要領解説総則編 主体的・対話的で深い学びの3つの視点の具体的な内容
- ・学びを生かす授業づくりのポイント（共通実践事項）
- ・スパイラル型学習 目標のステップアップシート
- ・目標達成シート
- ・なりたい自分シート
- ・フェイスシート
- ・「横手が舞台」単元一覧表

など

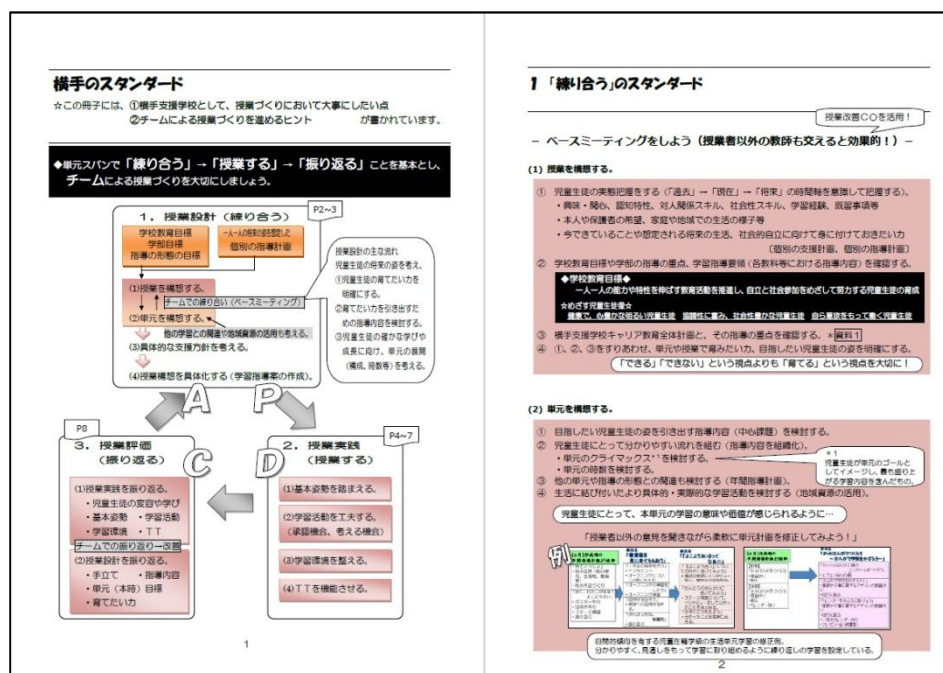


図9 横手のスタンダード（抜粋）

(4) 学校全体での取組、特色ある教育活動との関連

よりよい授業づくりを目指して取り組んできた本研究であるが、「横手が舞台」を合い言葉にした学部を貫く教育課程の実現や家庭や地域での「様々な場面で学びを生かす姿」の評価などについては、研究部だけでなく、他分掌や3学部の連携が欠かせない。それぞれが役割を明確に理解し、学校全体での取り組みにつなげていく必要がある。

また、今後は「横手が舞台」の取組や言語活動の充実につながる読書活動の推進などの本校の特色ある教育活動を関連させ、学部、学校を貫く柱となる教育活動を通した「様々な場面で学びを生かす姿」の実現を目指して、今回の研究の成果を生かしていく。

こうした課題を受けて、管理職、分掌部主任（教務部、進路指導部、研究部）、学年主任などで構成する「カリキュラム・マネジメント推進委員会」を組織した。学校として一貫性のある教育課程の編成に取り組んでいる。

各学部の実践

I 小学部の実践

1 研究テーマ

スパイラル型の学習を通して学んだことを他の場面で発揮する児童を育む
～生活科等の目標・内容を押さえた生活単元学習の実践を通して～

2 テーマ設定の理由

(1) 児童の実態

小学部の児童は、身辺自立の面でほぼ自立している児童や教師の指差しや言葉掛け、手順表などを頼りに活動する児童、また、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般で支援が必要な児童と、実態は様々である。コミュニケーション面でも、言葉でやりとりする児童、単語や指差しなどで自分の気持ちや要求を伝える児童、表情や発声で快・不快等を表す児童と様々な実態の児童が在籍している。

過年度の研究実践から、繰り返しの活動の中で、集団の友達と関わろうとする姿や見通しをもって進んで学習に向かい、役割を果たす姿ややり遂げようとする姿が見られるようになった。

(2) 今年度の研究

過年度の研究では、生活科の目標や内容を押さえた日常生活の指導や生活単元学習の授業づくりを行った。成果は、目指す姿を絞り込んだ具体的な目標設定がなされ、根拠をもった指導ができるようになったこと、児童が繰り返しの中で発展的な学習に取り組みながら、学びを定着させ、生かして活動するようになったことである。課題として、年度をまたいだ学びの段階を視野に入れた、発展性のある目標設定や授業づくりがあげられた。

今年度も昨年度の研究を継続・発展させたいと考え、生活科等の目標や内容を押さえた生活単元学習の授業づくりを行う。どのような資質・能力の育成を目指すのか（何ができるようになるか）を指導のねらいとして明確に設定する。前年度までの学びや経験をベースに、目標を焦点化、細分化させ、学習内容（何を学ぶか）を、少しずつレベルアップさせながら繰り返し、段階的に積み重ねられるようにスパイラル型の学習を計画する。その中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行うことによって、児童が活動を見通し、理解し、できる力を伸ばし、学びを深化させ、活用の幅を広げることができると考える。また、学んだことを発揮する姿を各教科等との関連性を押さえながら具体的に想定して、細かく見取り、児童が教科の「見方・考え方」を生かし働かせながら活動に取り組めるよう指導計画や方法を評価・改善していく。

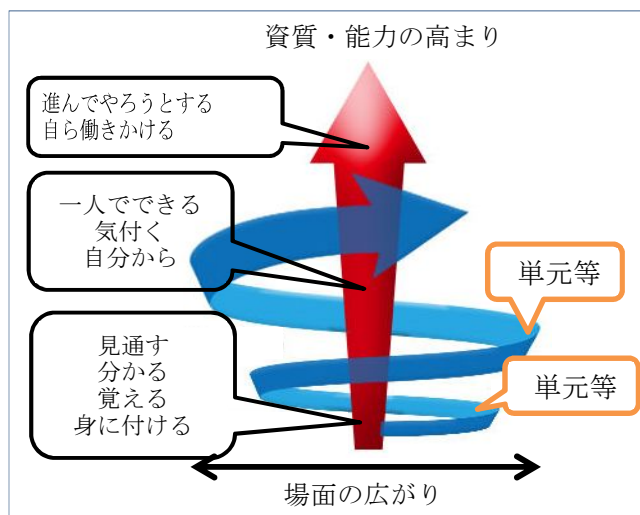


図1 スパイラル型の学習のモデル

3 研究仮説

生活単元学習において、スパイラル型の学習の指導計画を作成し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行い、学びの定着を図ることで、児童が学んだことを他の場面で活用することができるようになるのではないかと。

4 研究の計画

月	日	主な活動及び予定
4	25	学部研究会①（全校研究の確認と小学部の研究の内容と方向性について）
5	31	単元構想会（3・4年）
6	26	全校授業研究会（3・4年）→11/22改善授業
6	28	単元構想会（5・6年）
7	25	学部研究会②（全校授業研究会を受けて）
7	26	単元構想会（1年、2年）
9	2	ミニ授業研究会（1年）→12/11改善授業
10	3	ミニ授業研究会（5・6年）→11/28改善授業
11	6	事前授業研究会（2年）
11	8	学部研究会③（授業実践の成果と公開研究会に向けて）
11	27	公開研究会（2年）→12/4改善授業
1	7	学部研究会④（今年度のまとめ、来年度の方向性の確認等）

5 研究の実際

(1) 教育課程の検討（4月、7月、9月、12月、3月 学部全職員で実施）

① 学部会における検討

今年度の教育課程について、学部の経営方針、努力事項、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。

② アンケートによる成果と課題の整理

前期の実践を振り返り、アンケートを元に成果と課題を整理した。

(2) 目指す姿と目指す授業の検討（4～7月 学部、学年で実施）

① 研究テーマの捉えと確認（4月 学部）

小学部の研究テーマの中にある「スパイラル型の学習」「他の場面」について、学部で捉えを確認した。

「スパイラル型の学習」とは、同じ課題の設定と構成を繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく学習である。小学部では、同じような活動を繰り返していく中で、目標をレベルアップさせながら、知識や経験を積み重ねていく学習スタイルをとらえている。繰り返しの積み重ねには、

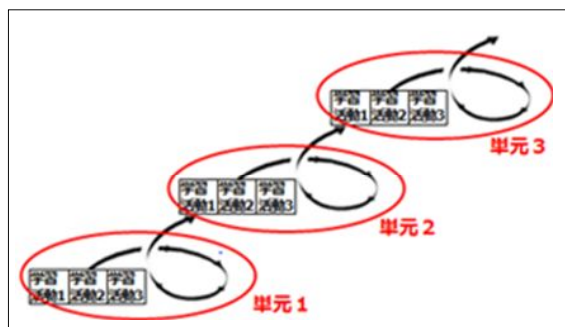


図2 「スパイラル型の学習」の指導計画の例

単元ごと、単元の一授業や小単元ごと、又はそれらを合わせた形がある。加えて、今年度は、前年度の学びや経験の上に立つ、学年をまたいだ大きなスパイラル型の学習も考慮していくことを確認した。

また、全校研究を受けて学部で話し合い、小学部の児童が学びを生かす場面を、以下のような身近な範囲として整理し、確認した。この範囲を、全校研究テーマの「様々な場面」の中でも、「一単位時間の授業以外の場面」という意味で、「他の場面」として表すこととした。

- ・人の広がり（友達、先生、家の人、身近な人）
- ・教科の学習（国語、算数、音楽など）
- ・場所の広がり（小中校舎、高校舎、学校周辺、校外学習の場所、家、家の近所）
- ・集団の広がり（学年、学部、遊びの指導）
- ・次の活動（一つ上の目標、単元の目標）
- ・他の活動（単元の学習以外の日常活動など）

② 単元構想会等における検討と確認

目指す姿の具体とその実現のために目指す授業を学年ごとに、単元構想会の中で協議、確認し、授業研究会を通して学部で共通確認した。

③ 年間指導計画の作成と検討（学年）

年度当初に学部全職員で、学習指導要領の各教科等の目標・内容を押さえて年間指導計画を作成することを確認した。年間指導計画の作成に当たっては、各段階の目標・内容を一覧で見通せる資料を用意して、目標や内容を確認しながら行った。

夏季休業中に、学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の第4章第1節から第3節までを読み込み、知的障害の特徴や学習上の特性等への配慮等の上に立つ授業計画や授業構成になっているかの確認と修正を行った。

(3) 生活単元学習の授業づくりの検討（6月～学年ごとに実施）

① 単元構想会の実施

単元計画を基に、どのようなスパイラル型の学習を設定してねらいに迫るかについて確認、検討した。各学級とも7月までに実施し、年間の見通しをもってスパイラル型の学習の構成や計画を確認、検討できるようにした。その際、前年度までの学習や経験から、目標や学習内容のステップアップ化が図られているかについても検討した。

② 単元の一授業又は小単元ごとの目標設定と評価

授業研究会を行う単元の主な目標について、「目標のステップアップシート」を作成した。これは、一授業や小単元の目標を一覧にした表である（資料1）。繰り返しの活動の中で目標がステップアップし、積み重なるように設定されているか、目標の積み重ねが単元の目標達成につながっているかという視点で作成し、整合性の確認を行った。

また、学習内容の妥当性の評価、効果的だった手立てや、学びを生かしている場面と姿を記入し、単元終了時の評価及び、次単元の目標や学習内容の見直し、改善につなげた。

③ 授業を通して得られた授業づくりの要点

授業研究会を通して得られた授業づくりの要点は以下のとおりである。

- ・児童が学ぶことに興味関心をもち、学習内容やめあて（ゴール）に意欲やイメージをもって活動に取りかけられるような、価値のある教材の選定。また、その教材をどのように使用し、どうやって教えるかを吟味し、効果的に活用した導入。
- ・児童に付けたい力に沿った、単元での学びの明確化と、その実現に向けシンプルに構成した学習活動。
- ・児童が相手を意識し、思いを共有するなどしながら、自分の思いを広げ深めることができるための、互いの様子が見える配置や制作物等を見合う場面の設定。児童の発言への教師の共感や他児への発信。
- ・教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けて、児童の気付きから学びの深まりをつくりだすための、新しい知識の教授や次の活動に結びつける発展的な学習展開。
- ・児童が取り組む題材の本質に迫る、題材の意味や価値を他者の視点を踏まえた形で実感できる経験の繰り返しや押さえ直しができる学習活動の展開。

④ 年間指導計画の評価及び見直し

単元終了後、単元全体を評価し、次単元の指導計画や時数を見直し、学習が発展的に積み重なるように修正した。

⑤ 授業実践の成果の共有

授業研究会を通して得られた有効だった手立て等を学部職員で共有すること、「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点の深い理解を図ること、児童の学びと手立ての関係性を明確にした授業改善を行うことを目的に、授業研究会の成果と課題を再分析、再整理する活動を行った。

(4) 児童の変容の評価

- ① 個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）
- ② 授業研究会の単元の評価（スパイラル型の目標のステップアップシートの活用、記入）
- ③ 連絡帳や学年通信等での保護者への伝達、情報共有（随時）
- ④ 保護者との面談や連絡帳などでの評価（随時）

単元を開始する段階で、想定される学びを生かす姿や場面を目標のステップアップシートに記入しておくことで、細やかな見取りや評価の積み重ねができた。また、研究授業参観後の合同の学習場面等で、他の学級の教師が児童の変容を見取り、それを担任と共有するということもできるようになった。

6 授業づくりの実際



2年生（公開研究会）
単元名「あきが いっぱい」



3・4年生（全校授業研究会）
単元名「みんなでのしく〜わくわくパーティー2をしよう〜」

小学部2年 単元名「あきが いっぱい」

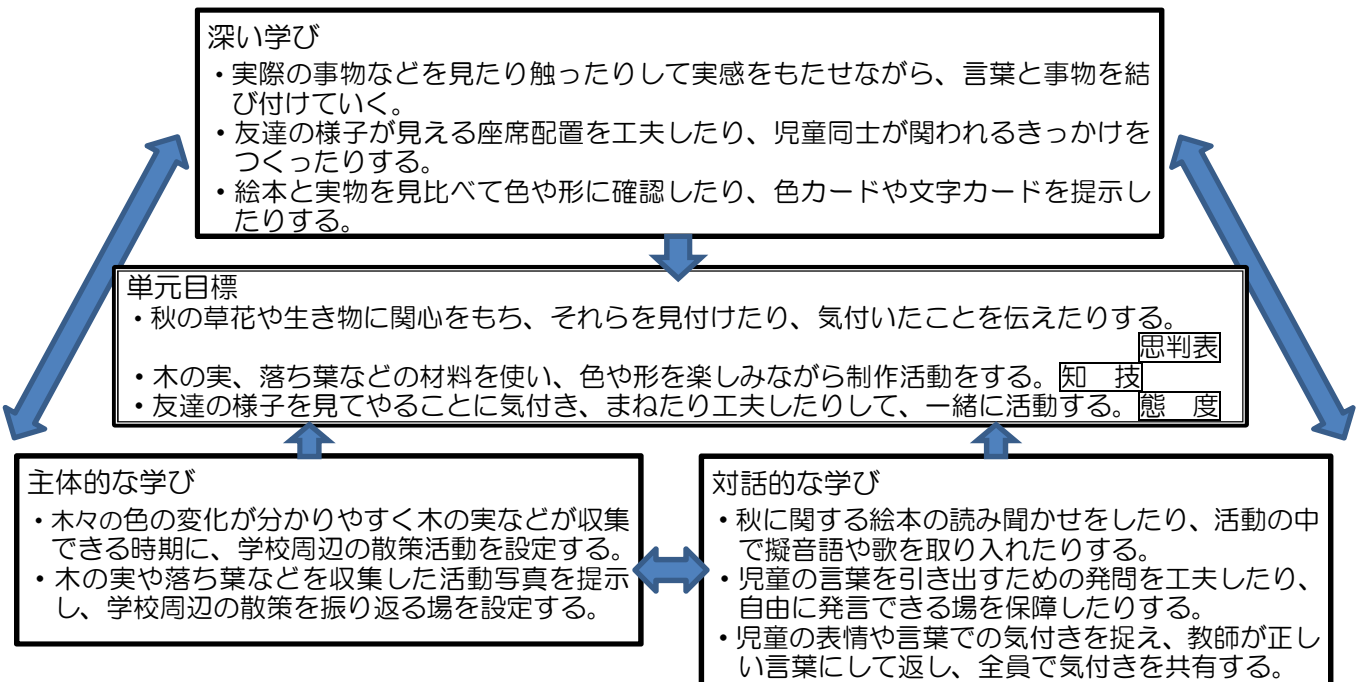
1 単元構想図

- | | |
|--|--|
| ◆児童（保護者）の思い、願い <ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く楽しい学習をたくさんしたい。 ・身の回りのこと（着替え、排せつ、片付けなど）を自分でできるようになってほしい。 | ◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする。 ・自分の気持ちを身近な人に伝える。 ・やることが分かりきまりを守って活動する。 |
|--|--|

本単元の概要
 男子4名の学級で、全員が簡単な言葉（発声）や身振り（表情）などで意思を伝えることができる。これまでの学習では、季節を感じ自然に関心をもてるように、教師や友達と一緒に春や夏の草花や虫を見付けたり、それらに関する色を意識した壁面制作をしたりする学習を展開してきた。本単元では、秋をテーマに学習を展開する。秋は、ブドウなどの秋の果物、秋の木の実や落ち葉の収集、葉っぱが色付く紅葉など、体験的な学習の機会が多くあることで、さらに身の回りへの興味・関心の幅が広がり、「やってみたい」「伝えたい」という気持ちが育ち、様々な活動に自分から向かうなど、学びを生かす機会も増えるのではないかと考える。

対象児童	小学部2年1組	指導の形態	生活単元学習	
単元名	「あきが いっぱい」	時数	10時間	
単元計画表				
小単元名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
「あきがきた」	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の絵本の読み聞かせ ・秋の果物の名前 ・ブドウの味見 ・ブドウの壁面制作 	主 対	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の味覚を味わう。 ・秋の果物が分かり、色や形を考えて作品を作る。 	1
「いろいろなあきを見つけよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の絵本の読み聞かせ ・学校周辺の散策（木の実と落ち葉の収集） ・簡単制作遊び ・秋の歌 	主 対	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の色、草花や生き物な関心をもち、見付けたり、周囲に伝えたりする。 ・色や形を楽しみながら、教師や友達をまねて制作遊びをする。 	6
「いろいろなあきでつくってみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の絵本の読み聞かせ ・木の実、落ち葉などを使った制作遊び、秋の壁面制作 ・秋の歌 ・いろいろな秋の振り返り 	主 対 深	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の様子を見て、気付いたり工夫したりして活動する。 ・気付いたこと、楽しかったことなどを言葉や身振りで伝えたり、発表したりする。 	3

目標達成に向けての支援



小学部2年 単元名「あきが いっぱい」

◇ 授業の概要

年間を通して春夏秋冬と関連のある、身近な事物をテーマに、見る、聞く、触れる、作る、探す、遊ぶなどの具体的な活動や体験を通して学習する。昨年度も取り組んだ題材であるが、本単元は、目で見て分かりやすいブドウなどの秋の果物、秋の木の実や落ち葉の採集、葉が色付く紅葉など取り上げる素材を広げ、体験的な学習の機会を多く設けることで、さらに身の回りの事物や事象への興味・関心の幅が広がり、「やってみたい」「伝えたい」という気持ちが育つと考える。集団活動においても、活動内容や友達に関心をもって参加し、周囲との言葉や身振りでのやりとりが広がるなど、生活の中でも学びを生かす機会が増えるのではないかと考えた。

2 授業実践について

提示授業（公開事前授業）の成果・課題・改善案	改善授業（公開研究会）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ ・落ち葉を使った壁面の制作 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○秋の落ち葉に関連する絵本の読み聞かせを取り入れ、児童が採集した落ち葉を使用。</p> <p>○互いの活動が見える座席配置と色分けした落ち葉の準備。</p> <p>◇改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が作るもののイメージをもって活動できる工夫 	<p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に出てくるお面と同じ形の台紙や手元におけるお面カードを用意した。 ・制作途中でお面を見合う場面を設定した。 ・音楽に合わせてポーズをとる発表を取り入れた。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○自分が作るお面のイメージをもてる教材の工夫</p> <p>○友達に関心をもって見たり、友達のお面をヒントに考えたりできる活動内容や展開</p> <p>●時間いっぱい着席して活動することが難しい児童への教師の働き掛けや誘い掛けの工夫</p>
<p>◇児童の変容、学びを生かす姿の評価</p> <p>絵本や台紙を指さして、自分が作りたいお面を伝えることができた。また、手元のイラストカードを見て、お面の台紙と見比べながら色や形を考えて制作する様子が見られた。友達のお面をヒントに鼻や口を付けたり、台紙いっぱいに落ち葉を貼ったりした。頑張り発表の場面では、軽快な音楽をきっかけに、友達の発表に気付いて注目したり、発表することを楽しみながら、自信をもって自分のお面を披露したりした。</p> <p>学校周辺で採集した身近なものを使い、時間内で完成するおもちゃや作品作りなどを同じ流れで繰り返したことで、毎時間の活動を楽しみにして授業に向かっていた。また、授業で作ったおもちゃなどを休み時間に自分から手に取り、友達同士でやりとりしながら遊ぶ姿も見られた。</p>	

3 主体的・対話的で深い学びの視点から

(1) 主体的な学び

子どもたちの意欲、作りたいという思いを上手に意欲、主体性へとつなげることができた。特に、導入で使用した絵本教材が効果的であった。普段の児童の実態を基に、様々な教材を吟味し、その価値を理解して活用することが大切である。

(2) 対話的な学び

制作の様子がお互いに見える環境や手を止めてお互いのお面を見合う機会を設定することで、友達の様子を手掛かりに、自分の制作にすることができた。言葉でやりとりするだけではない他者の様子を見ることで、自分の考えが広がり深まるということも対話的な学びにつながる。

(3) 深い学び

特に導入において選択した教材をどのように使用するか、どうやって教えるかということについて、しっかりと検討して、効果的な方法を検討することが大切である。導入を工夫することで主体的・対話的で深い学びに自然につながっていく。

4 所感

毎時間秋や本時に関連する絵本の読み聞かせを取り入れたことで、見通しをもったりイメージしたりして活動に向かうことができ、効果的だった。何のための活動か、どのようになればゴールなのか、などについて、児童が理解して活動に向かうためのめあての提示や伝え方を今後も検討していきたい。

1 単元構想図

- ◆児童（保護者）の思い、願い
 - ・伝える力を付けてほしい
 - ・自分の力で取り組んでほしい

- ◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
 - ・友達への関心ややりとりする力
 - ・役割を果たす力

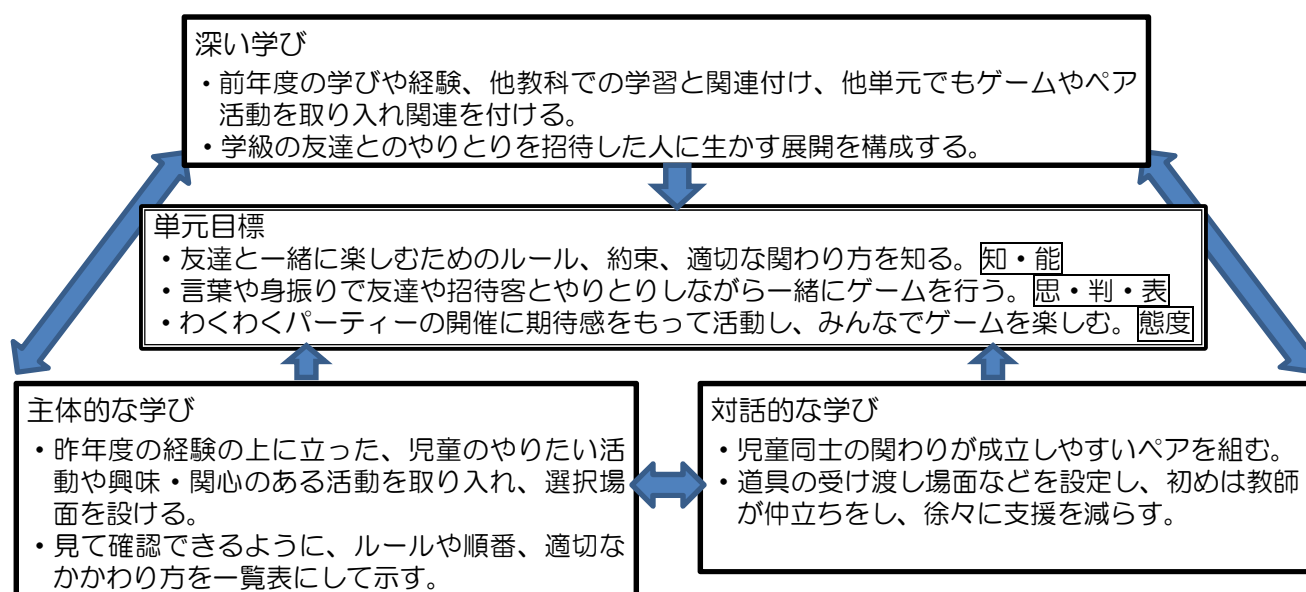
本単元の概要

全員が自分の要求を言葉や発声等で伝えることができ、人と関わることが好きである。気持ちを表現したり受け止めたりすることが未熟なため、児童同士の関わり場面では教師の仲立ちが必要である。

本単元では、児童が昨年度楽しんで取り組んだ「わくわくパーティー」を継続して行う。一人で行っていたゲームをペアや複数人で行うものに変えることで、パーティーへの期待感やゲームを楽しみたいという欲求を原動力に、自らゲームのルールを守り、友達と適切な関わり方をしようとするようになることを考えた。繰り返しの活動や学びを通して、他の学習や日常生活場面でも児童同士の適切な関わりが増えていくことを期待して、本単元を設定した。

対象児童	小学部3・4年	指導の形態	生活単元学習	
単元名	「みんなでなかよく～わくわくパーティー2をひらこう～」	時数	22時間	
単元計画表				
小単元名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
「ゲームをたのしもう」	・いろいろなゲームを体験する。	主 対	・ゲームのルール、楽しさを知る。	3
「きめよう」	・ゲームを選ぶ。 ・招待する人を決める。	主 対 深	・みんなが楽しいゲームやルールを選んで決める。 ・一緒にゲームをしたい人を決める	2
「れんしゅうしよう」	・ゲームをする。	主 対	・友達とのやりとりの仕方を知る。	4
		主 深	・友達とやりとりしながら一緒にゲームをする。	
「〇〇せんせい、ようこそ！」	・招待した人と一緒にわくわくパーティーをする。	主 対 深	・友達や招待客とやりとりしながら一緒にゲームをする。	12 (4×3)
「ふりかえろう」	・ビデオを見て振り返る。	対 深	・自分や友達の様子やその結果との関わりに気付く。	
「まとめをしよう」	・頑張ったことやできたことをまとめる。	主 深	・できるようになったことが増えたことに気付き、自信や達成感を得る。	1

目標達成に向けての支援



小学部3・4年 単元名「みんなでたのしく～わくわくパーティー2をしよう～」

◇ 授業の概要

身近な教師を招待して「わくわくパーティー」を4回行う。ゲームを楽しみながら、友達や招待客に合わせて動きや関わり方を調整したり、楽しさを共有し合ったりする中で、自分の適切な関わりや行動がパーティーの楽しさにつながることに気付くこと、繰り返しの活動を通して、教師の仲立ちなしで友達と簡単なやりとりができるようになることをねらった。

2 授業実践について

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくパーティー」の練習として、ペアごとに、くじを引いて、ゲーム（おみこし運び、ぬいぐるみ運び、まね歌）を行う。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○視覚的教材や掛け合いを取り入れた、仲良くすることが楽しさにつながることをイメージできる導入の工夫。</p> <p>●ゲーム性を高め、待ち時間への配慮をする。</p> <p>◇改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのゴールを明確にする。 ・役割を増やして待ち時間を減らす。 	<p>◇主な改善点（次の単元で実施した）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗や順位が明確になるゲームを設定した（風船バレー、パズルでゴー）。 ・準備や得点係も役割としてペアごとに分担して行うようにした。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○児童同士がお互いの姿に気付き、自分から、友達に働き掛けたり、動きだしたりできるような、間接的な言葉掛け。</p> <p>○準備も児童が行うこととしたことで、進んで活動する姿や児童同士の自然な関わりが増えた。</p> <p>●児童や招待客が平等に楽しめるゲームの設定。</p>
<p>◇児童の変容、学びを生かす姿の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招待状の作成や準備物の準備等も誘い合って、二人でペースや力を合わせて行えるようになった。 ・音楽、体育などの教科や日常生活場面でも、友達の動きを見て自分から活動を始める、友達の言葉掛けに応じて返事をする等、友達と一緒に、同じように活動しようとする意識が高まり、教師に頼らず児童同士でやりとりしながら活動を進める場面が増えた。 	

3 主体的・対話的で深い学びの視点から

(1) 主体的な学び

「楽しいパーティーにする」ために、「友達と仲良くゲームをする」という学習のめあてとゴールを、児童の意欲と関連付け、視覚的教材なども取り入れながら分かりやすく提示することができた。

(2) 対話的な学び

仲間との協力が必要となるゲームを学習活動に設定することで、必然的に友達と「なかよく」関わって活動することができた。友達の動きを待ったり、優しく接したりする姿につながった。

(3) 深い学び

関わり場面を、単元以外の場面の日常生活でも生かすことができる内容（肩を叩いて優しく呼びかける、友達が来るまで待つ）にし、授業以外で生かす場面をしっかりと想定することで、他の場面で本単元の学びを生かす姿へとつながった。

4 所感

繰り返しの活動の中で、児童一人一人が友達とのよい関わり方を習得していった。ペアの友達への意識が高まり、自分から誘ったり、友達の様子から気付きを得て活動に取りかかったりする姿が増えた。集団の一員としての自分に気付き、集団の中で言動のコントロールができるようになったと考える。今後、このことを基盤としながら、様々な教科等から幅広く活動内容を取り入れ、つながりをもたせたり応用の幅を広げたりする学習の展開によって、児童の力を伸ばしさらに発揮できるようにしていきたい。

小学部 1 年合同 単元名「あきをかんじよう」

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の目標

- ・秋の行事、植物、生き物に興味をもち、名前を覚えたり、気付いたことを伝えたりする。
- ・興味をもったものの形や色などの特徴に気付き、紙粘土や絵の具などで表現する。
- ・友達と道具の貸し借りをしたり、作り方をまねたりして、一緒に活動する。

◇授業の概要

身の回りにある生命や自然への興味や関心を広げ、今年度以降の学校生活への見通しにつなげていくための年間を通した単元である。本時は、9月の草花や生き物と行事についてのクイズや制作活動を通して、気付いたことを伝え合う授業を行った。

2 授業実践について

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の○×クイズ ・コスモスととんぼの壁面飾りづくり <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○導入で、知識の確認と本時の活動の見通しをもたせるためのクイズ</p> <p>●コスモスやとんぼの特徴に気付くための手立て</p> <p>◇改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きを制作に生かすための教材や発問の工夫 	<p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色に気付くような見本の提示 ・児童同士の関わりを広げる教師の働き掛け <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○組み合わせる紙の形や向きなど、見本や友達の様子からの気付き</p> <p>●制作を通して何を学ぶのかを明確にした児童の気付きやイメージを広げる教師の問い掛け</p>
<p>◇児童の変容、学びを生かす姿の評価</p> <p>児童の気付きにつながるような○×クイズの内容や見本を工夫したことで、季節にちなんだものの色や形をまねて作ったり、特徴を言葉で伝えたりすることが増えた。身の回りのことへの興味が広がり、遊んでいるときに学習した植物を探したり、給食に出た野菜の名前などを話したりするようになった。</p>	



3 主体的・対話的で深い学びの視点から

(1) 主体的な学び

導入から、学習に期待感をもって、教師の話に真剣に耳を傾けていた。興味・関心があるから意欲的になるという段階から、学習自体に興味・関心をもつ段階へと育っていた。学習することが楽しいという経験の積み重ねが成果として見られた。

(2) 対話的な学び

児童が作成したとんぼを持ってはねを揺らしたり、「目が大きいね」と話したりする気付きの行動に対して、教師が共感したり、他の児童に伝えたりすることで、お互いに相手を意識して思いを共有しながら制作することにつながる。

(3) 深い学び

トンボやコスモスの実物や実物提示が無理ならば写真などを用意し、子どもたちからその色や形の特徴への気付きを制作に生かすというような展開があってもよかった。

例)「トンボの体は3つに分かれているね」という気付き→胴体のストローを3つに切ってみる。

4 所感

繰り返しの学習を通して、集団参加が難しかった児童も学習に見通しをもち、友達と関わりながら学習できるようになった。学習したことを思い出し、普段の生活で気付いたことを話すことも増えてきた。今後もスパイラル型の学習を通して、どんな力を育てていくのかを明確にして取り組んでいきたい。

小学部5・6年 単元名「ありがとうの会をひらこう①」

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の目標

- ・簡単なお菓子の作り方や、お茶の入れ方、メッセージカードの作り方、教室の飾り付け方が分かり、教師の言葉掛けを聞きながら取り組む。
- ・自分で気付いておもてなししたり、歓迎や感謝の気持ちを自分の言葉で伝えたりする。
- ・自分の役割が分かり、お客様への感謝の気持ちや会への期待感をもちながら、進んで会の準備やお客様のおもてなしに取り組む。

◇授業の概要

児童2名は、昨年度まで、行内の友達を招いて特異なことを生かした発表会を経験してきた。今年度は、2名が利用している放課後支援サービスの職員を毎回一人ずつ招待し、感謝の気持ちを伝えるために、手作りのお菓子やお茶でもてなす「ありがとうの会」を年間5回行う。本授業は第1回目である。

お客様に喜んでいただくために、できるだけ一人でお客様の出迎えや会の進行をし、大きな声であいさつしたり、お茶をすすめたりする児童の姿をねらった。

2 授業実践について

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様に喜んでもらうために大事なことを知る。 ・お茶やお菓子、感謝の言葉でおもてなしする。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○導入で、導入で「うれしい」「がっかり」という観点で相手の気持ちを考える学習</p> <p>●一人で取り組むことをねらう活動の絞り込み</p> <p>◇改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出迎え」「お茶のおもてなし」「あいさつ」で児童が一人で判断、表現することをねらう。 	<p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出迎え」「あいさつ」について、再度、望ましい態度や言葉についてを考える学習を設けた。 ・「お茶の入れ方、差し出し方」について、教師が演示した動画で所作を確認した。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>○「出迎え」「あいさつ」について自分の言葉でもてなす姿を引き出すことができた。</p> <p>●児童が自分で気付いて動いたり、自信をもって関わったりする姿を引き出す支援の工夫。</p>
<p>◇児童の変容、学びを生かす姿の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉でお客様を出迎えたり、おもてなししたりできるようになった。また、他の学習場面でも大きな声であいさつしたり、自分から友達に話しかけたりできるようになった。 ・お茶の入れ方だけでなく、お茶を差し出すときのマナーなども意識できるようになってきた。 	

3 主体的・対話的で深い学びの視点から

(1) 主体的な学び

目標を達成するためには、児童の一人でできる活動を中心に学習内容を絞ることが必要である。その児童に付けたい力に沿って、単元での学びの明確にし、学習内容に反映させていく。

(2) 対話的な学び

招待者からの「おいしい」の声や「とても楽しかった」の感想に対して、よい表情をしていた。会を準備をしてよかったという実感がもてた場面である。頑張りを評価してもらい、頑張ると人が喜んでくれるという経験の積み重ねが大切である。

(3) 深い学び

おもてなしというのは、自分が好きなようになればいいのではなくて、相手の立場を考える必要があるということ、を、「うれしい」「がっかり」という相手側の視点に立った観点が与えられていた。また招待者が感想で「うれしい」「がっかり」の観点到触れていた。招待者とも目標を共有し、振り返り、押さえ直すことでおもてなしの本質に迫ることができる。



4 所感

「ありがとうの会」を繰り返し開催することで、児童が活動に見通しをもって準備やおもてなしの活動に取り組む姿が見られた。また、相手が「うれしい」または「がっかり」する言動について繰り返し考えたことで、個々の課題を解決しながらもてなすことができるようになった。お客様に喜んでもらったことが児童の自信につながり、他の学習場面でも自分から友達と関わるなど、学びのスパイラルの高まりを実感できた。

7 学部研究の成果（○）と課題（●）

（1）生活科等の内容を押さえたスパイラル型の指導計画の作成

○2年生以上の学年では、単元構想会において、前年度の経験や学びを踏まえて今年度目指す学びが設定されているかを確認、検討することで、年度をまたいだステップアップができるスパイラル型の学習の計画や目標設定がなされた。1年生においても、次年度の学校生活につながるようなスパイラル型の学習が計画された。その中の一授業や小單元ごとの目標を明確にしていくことで、単元の目標を見据えた授業を積み重ねることが定着した。それらが、児童の学びの積み重ねや深化につながった。

○生活科以外の教科についても学習指導要領を改めて確認し、関連する事柄を指導案に記載することで、教科間のつながりや各教科等の「見方・考え方」の視点を昨年度以上に明確にもって授業を展開するようになった。

●生活単元学習の年間目標に迫るために、年間を通じたスパイラル型の学習の指導計画や評価についても吟味が必要と考える。年間を通じて、単元間でどのように学びを関連付け、広げ、深めていくかという一年間の学びの筋道を反映させた計画の作成、評価や見直しを効果的に行い、年間の目標に迫る授業を展開していきたい。

（2）「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を行い、学びの定着を図ること

○授業研究会で出された成果と課題を「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点に基づいて分析、整理したことなどにより、3つの視点の理解が深まった。また、学部職員が同じ視点で学習活動や手立てを捉えられるようになり、有効な学習展開や手立ての共有ができた。

○導入に、前単元を含む前時までの学習を振り返る活動を取り入れるなど、授業の振り返りと次時の導入のつながりを大切にした授業展開がなされるようになった。学びの確認や補完が効果的に行われ、児童の確かな学びの定着につながった。

（3）児童が学んだことを他の場面で活用すること

○授業改善を経て、児童が他の場面で学んだことを活用しながら活動する姿が多く見られるようになった。具体的には、1年生で、日常生活場面や遊びの場面で、学んだことを思い出したり、目の前の活動と結びつけて捉えたりする姿や友達への関心や同属意識の高まりなど。2年生で、国語の時間に絵本や図書コーナー、読み聞かせを見て、学んだことを思い出したり結びつけたりして気付いたことや思ったことを積極的に伝える姿、日常生活場面で季節の特徴に自ら気付き伝える姿など。3・4年生で、日常生活場面で友達に優しく関わる姿や教室以外の場所でも活動に最後まで集中して取り組み、やり遂げる姿など。5・6年生で、合同遊びの終了時に、自分から進んで片付ける姿、学部集会などの場面で大きな声であいさつをする姿などである。事前に学びを生かすと想定される場面や姿を目標のステップアップシートに記入しておくことで、生活単元学習以外の場面での児童の姿の見取りがより丁寧になされ、当初想定していた以外の場面で学びを生かす姿が認められた児童もいた。

●各教科等を合わせた指導としての生活単元学習の特徴を生かし、児童が学びうる最大限の学習内容を取り入れつつ、無理のない学習計画を作成し、学習内容を深めたり、知識を関連付けて広げたりできるような学習を展開していくことで、活用できる学びそのものの幅を広げていきたい。

II 中学部の実践

1 研究テーマ

「なりたい自分を目指し、主体的に学びを生かす生徒を育む
～教科の学びを生活に生かすための生活単元学習の実践を通して～」

2 テーマ設定の理由

(1) 生徒の実態

中学部の生徒は、言葉によるやりとりが可能な生徒、簡単な言葉や身振りなどで意思や要求を伝える生徒、発声や表情で自分の気持ちを表現する生徒など実態は多様である。集団での活動や慣れない学習などに苦手意識をもつ生徒もいるが、友達や教師との関わりを楽しむ生徒も多く、生徒同士で言葉を掛け合ったり、頑張りを認め合ったりしながら学習活動に取り組む場面が増えてきている。

昨年度の研究と授業実践において中学部では、職業・家庭科で、一年生段階では家庭分野の割合を多くし、家庭等と連携して進めていったことで、学習で得られた知識を、実際の生活の場で活用していく姿が見られるようになった。また、学年が進むにつれて自分の進路や、将来の生活を考え、主体的に学びに向かう姿を目指し、職業分野の割合を多くしたことで、職業生活への意識の高まりを感じることができた。しかし、職業・家庭科で学んだ清掃や洗濯の手順を家庭での役割に生かす生徒は少なく、学びが自信となり、場面や状況の変化に対応できる力が十分育まれたとは言い難い。また、授業以外の場でも般化への兆しが見られたが、まだ十分とは言えないのではないかという課題も挙げられた。

(2) 今年度の研究

昨年度の研究では、職業・家庭科を取り上げ、職業分野を中心に実践研究を進めた。状況や学習の場、周りの人などが変化したときに対応できる力を培うことができるように、学習がどのように将来の自分と結びつくのかを明確に示して授業を展開することで主体性を育むことができた。また、授業の振り返りや評価を充実させることで、学習に対する自信や意欲が高まり、自分から様々な場面で学びを生かすことができるようになってきている。

今年度、様々な場面で生かすことができる学びの習得を目指し、授業づくりについて学部で話し合った。そこで、中学部においては研究の対象とする指導の形態を「職業・家庭科」から「生活単元学習」に移行することとした。その理由は以下の枠線のとおりである。

- ・職業・家庭科で学んだことを各教科等を合わせた指導である「生活単元学習」で生かす。
- ・合わせた指導の場で感じた課題を、職業・家庭科の教科の目標を達成する中で解決していく。その後、合わせた指導の場に立ち戻り、身に付けたことを生かしてより良く課題を達成していく。
- ・職業・家庭科で学んだことを生活単元学習の中で評価し、自信を高めることでスムーズに家庭生活での活用へと移行できる。

生活単元学習で学びが身に付いたと実感できるよう、教科との関連を深く意識した授業づくりを行う。そうすることで、身に付いた学びを生かして主体的に様々な課題に取り組む生徒を育てていくことができると考え、本テーマを設定した。

なお、ツールには「なりたい自分シート」を用いる。「なりたい自分シート」は、将来のなりたい姿と今の学習が関連していることを知るツールであり、過年度の研究でも学習への主体性が向上したことが示されている。また、教師が生徒の変容を「エピソード記録」として記録し、成長を具体的に評価していく。

3 研究仮説

主体的に行動目標の設定や評価を行いながら、なりたい自分を目指して学習を積み重ねることで、探究心が高まり、場面が違っても学びを生かせることが自信につながり、さらに、様々な場面や状況に対応できる力を育むことができるだろう。

4 研究の計画

月	日	主な活動及び予定
4	12	プレ学部研究会（前年度学部研究の内容と方向性について共通理解、アンケート実施）
	25	学部研究会（今年度の学部研究の内容と方向性について共通理解）
5	31	単元構想会（中2合同）
7	1	ミニ授業研（中2合同）→改善授業（7/8）
	25	単元構想会（中3合同）
	25	学部研究会（学部研究の進捗状況の確認と「なりたい自分シート」に関する情報交換）
8	22	単元構想会（中1・1、2、3グループ）
9	3	事前授業研究会（中3事前授業研究会）
	11	全校授業研究会（中3合同）→改善授業（9/24）
10	29	ミニ授業研究会（中1・3グループ）→改善授業（11/5）
11	5	学部研究会（公開研究会に向けて）
	13	事前授業研究会（中1・1グループ）
	27	公開研究会（中1・1グループ）→改善授業（12/10）
12	3	ミニ授業研（中1・2グループ）→改善授業（12/10）
1	7	学部研究会（学部の原稿の確認と調整）
1	24	紀要原稿回収・「学部研究のまとめ」アンケート実施

5 研究の実際

(1) 教育課程の検討（4月、9月、12月、3月 学部全職員で実施）

学部会における検討

「1年生段階では『職業・家庭科』は週1時間とし、教科のめあてと、生活単元学習の活動との相互補完を図ってはどうか」などの意見が挙げられた。個人の意見を学部で共有し議題として検討する機会をもった。その積み重ねの中で、「生活単元学習では生活単元学習のねらいを、日常生活の指導では、日常生活の指導としてのねらいを再度確認して、授業づくりに取り組んでいく」「学級又は学年の生単で段階的、発展的な学習を計画して取り組んでいく。」など、教育課程の検討をする中で、「全ての教科のめあてを達成しうるような生活単元学習の授業づくり」についてアンケート集計結果をもとに話し合うことができた。

(2) 中学部で育てたい力の検討及び評価（4～6月、各学期末 学部全職員又は学年で実施）

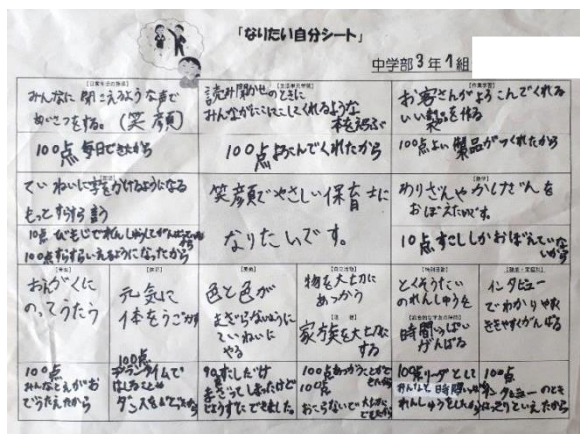
- ①各学年・学級での支援目標（重点目標：中学部で伸ばしたい力）の確認と検討及び共通理解
- ②学部研究会における学部全体での共通理解（学部経営目標やキャリア教育の重点との関連）
- ③年間指導計画と地域資源の関連の検討（学年又は学習グループ）

- ・年度当初に、各学年・学級で個別の育てたい力の確認と検討を行った。合わせた指導の場で各教科の見方や考え方を生かした授業づくりや、単元づくりができるように、各学習場面の関連性についても吟味して年間指導計画を作成した。授業実践を行う中で学びの結びつきを確認し、計画的に指導計画や構成を再考して修正を行った。
- ・①、②に関しては、学部会や学部研究会の場において、全職員で検討した。キャリア教育や道德教育の視点を大切にした「目指す生徒像」を具体化し、日常における支援目標の共通理解が図られた。
- ・③に関しては「横手が舞台」を合言葉に、次年度から本格始動するプランに向けて、年間を通じた地元横手を資源とする各学年の取組の洗い出しと、校内掲示を行った。

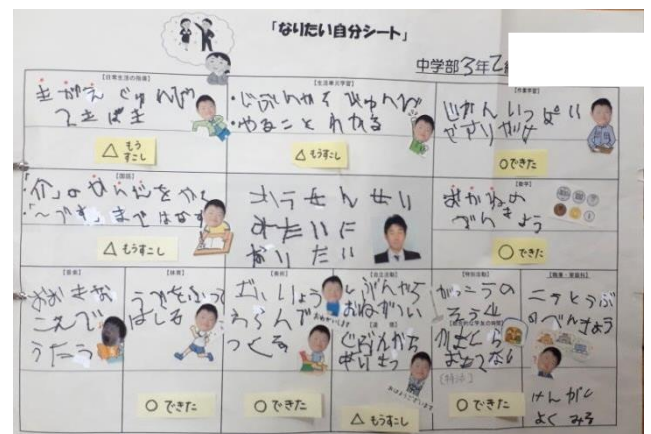
(3) 自己理解を深めるための「なりたい自分シート」の実践（6月、各学期末、学年又は学級で実施）

- ①個別の支援計画や個別の指導計画から支援目標や願いを確認、「なりたい自分シート」を立案
→個別面談を行い、「なりたい自分（職業、具体的な人物、活動）」を明確にして各教科・領域・合わせた指導において必要となる行動目標や具体的な取組を明記した「なりたい自分シート前期版」を作成した。生徒の記入した「なりたい自分シート」とその作成の手順については図1から図3のとおりである。
- ②「なりたい自分シート」の作成（個別面談による「なりたい自分」や行動目標の設定、シートへの記入、掲示等）及び活用の機会の設定（生徒自身と日々の授業と行動目標の関連性の確認、次の課題の確認及び修正、行動目標の気付きの促しなど）
→学習や生活場面と将来の「なりたい自分」との関連が分かるよう、教室に掲示し、普段の生活や授業を通じた達成度合いを確認するなどの活用をした。
- ③個別面談による「なりたい自分シート」の行動目標の自己評価、見直しの機会の設定
→前期・後期という単位で「なりたい自分シート」を見合わせながら個人面談で振り返りを行った。生徒の実態に応じて、数値化したり、「◎、○、△」などの記号を用いたりして自己評価を行った。達成の度合いに応じて、次の行動目標を設定したり、修正したりすることを重要視した。
- ④「なりたい自分シート」の見直しと改善
→より生徒の思いを反映できるような「なりたい自分シート」の作成手順や、有効な指導場面での活用方法について夏季休業中の学部研究会で作成時の工夫や活用の仕方について意見交換を行った。「シートへの作成に家庭を巻き込むことで、より一層、授業づくりや日常生活に生かしていくことができるのではないか」という、活用に関する意見や、授業づくりへの有効性、作成時の工夫などたくさんの成果が挙げられた。一方で、思いを表出することが難しい障害の重い生徒や、将来への不安から「なりたい将来像」を思い描きにくい生徒がいたという課題もあった。10月に面談を伴う自己評価を行い、後期の「なりたい自分シート」を作成した。

その際、1年生はよりシンプルな様式にし、2・3年生は生徒から挙げられた要素に対して、後から「教科」や「合わせた指導」名を入れる（例：要素「相手の顔を見て元気なあいさつをする」→『日常生活の指導、生活単元学習、職業・家庭科』）ことで、より「なりたい姿」と現在がつながりやすい様式にするなどそれぞれ新しいシートの型についても検討、実施した。



生徒が自己評価したものを掲示した

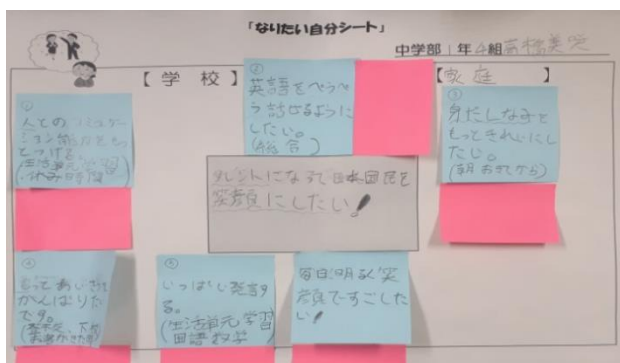


実態に合わせて、イラストを用いて表現したもの

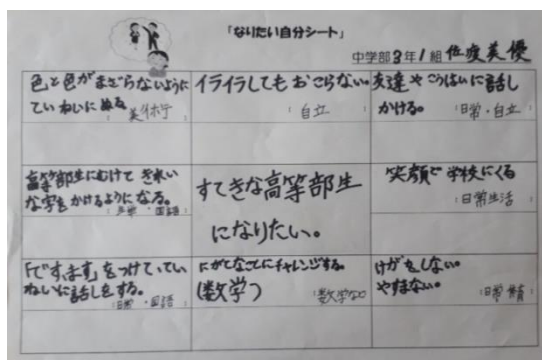


図1 教室に掲示した「なりたい自分シート」(前期版)





1年生用



2・3年生用

図2 なりたい自分シート（後期版）

① 「なりたい自分」の姿を書く

- ・職業、人間像、今は現実にそぐわない夢としての「なりたい自分」であっても構わない

② 「なりたい自分」に近づくための行動目標を書く

- ・生徒の実態に合わせ、「実際の活動」「イラスト」などで表現する

③ 単元や学期末に振り返りを行い、どこまでできているか、何が足りないかを自己評価する

- ・生徒の実態に合わせて、点数、「○、△」、イラストなどを用いて評価を行う

図3 「なりたい自分シート」の作成手順

(4) 生活単元学習の授業づくり（4～12月、学年合同で実施）

・単元構想会及び指導案検討会の実施

ミニ授業研究会、全校授業研究会、公開授業研究会における単元構想会を実施した。単元構想図を基に、授業改善コーディネーターからの助言を受けながら授業づくりについての話し合いを行った。生活単元学習としての「ねらい」や、他教科で学んだ見方・考え方を生かす機会の設定、生徒のねがいから生まれた「なりたい自分の姿」との関連を重点的に検討し、単元全体の構想や授業づくりを行った。また、全校授業研究会、公開授業研究会において、学年部や学部職員全員で指導案検討を行い、授業改善コーディネーターや教育専門監等からの助言からさらに検討を重ねた。学年部での指導案検討会では全職員が一人一発言すること、授業研究会では「主体的・対話的で深い学び」の視点から挙げられた意見を、「学びの視点」で、カテゴリー化して協議をもつ方法を重ねたことで、活気ある協議スタイルが定着しつつある。

(5) 授業研究会から

・授業研究会を通して得られた授業づくりの要点と研究仮説との関連

授業改善の要点	研究仮説から
① 基礎的な知識技能の習得と実生活に生かすための思考力・判断力・表現力	状況の変化への対応力
② 目標設定やめあての提示、まとめや振り返り、評価の工夫	学習の積み重ね
③ 「なりたい自分シート」の活用や関連	探究心の高まり 学びへの意欲

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の主な目標

- ・ごみに関する知識を生かし、自分の思いを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりして、みんなにごみの分別の大切さを伝えるゲームを考える。**思判表** **態度**
- ・ごみの分別ゲームを、自分たちで役割分担して作ったり、ゲームの進行をしたりする。**思判表**
- ・ごみの分別ゲームにおける自分の役割が分かり、自分から進んで活動する。**知 技** **態度**

◇授業の概要

- ・家庭科分野の「ごみの分け方とリサイクル」という学習をもとに、本単元では、ごみの分別について、身近な人に楽しんで知ってもらうためのゲームを作り、ゲームの実践、振り返り、改善を繰り返した。ゲームの振り返りでは、VTRを見ながら自分たちの活動している様子を見て、「良かったところ」「もっと良くしたいところ」について意見を出し合い、次のゲームにつながる改善点を出し合った。ゲームは、最初は、同じ学年の友達と実践し、単元の最後に、学部集会で学部の生徒全員で実施する機会を設定した。

2 授業実践について

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VTRを見て、前時に行ったゲームを振り返る。 ・次のゲームで改善したいことについて意見を出し合う。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 <ul style="list-style-type: none"> ○映像（VTR、写真）が授業の中で、効果的に活用されていた。 ●VTRを見る際に、教師の発問が抽象的で分かりにくかった。 ●T1の役割が多く、生徒に目が届いていないときがあった。TTの役割分担を検討し、明確にした方が良い。 ・対話的 <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の実態に応じて、活動量を調整した方が良い。 ●話し合うための座席の配置、ツールの工夫が必要。 ・深い学び <ul style="list-style-type: none"> ○家庭科で学んだ知識が活用されていた。 ○ホワイトボードを活用し、生徒の意見が視覚的に分かりやすいように、掲示されていた。 ●机上での学習がほとんどであったが、体験的な学びが必要。生徒同士のやり取りや役割をもう少し増やした方が良い。 	<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VTRを見て、前時に行ったゲームを振り返る。 ・次のゲームで改善したいことについて意見を出し合う。 <p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VTRを見るポイントを具体的に提示する。 ・T1の役割の一部をT2に任せたり、T2がロールプレイの時に、生徒役になったりする。 ・生徒の実態に応じて、自分の意見をまとめるためのワークシートを作成する。 ・話し合うときに、相手の顔が見えるように、座席を馬蹄型にする。 ・ロールプレイを活用した意見交換場面を設定する。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 <ul style="list-style-type: none"> ○VTRを見るポイント、意見を出すポイントが具体的になり、生徒が主体的に考えることができた。ちょうど良い情報量だった。 ○TTの役割が明確になり、生徒への支援が整理されていて良かった。 ・対話的 <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの活用により、生徒が考えを整理し、発表につなげることができた。 ●教師対生徒のやりとりが多く、生徒同士の関わりが少なかった。ペアになる、小グループでの話し合いなど、場面設定の工夫が必要だった。 ・深い学び <ul style="list-style-type: none"> ○ロールプレイをすることで、生徒が実際の場面をイメージしながら、考えを導き出すことができた。

◇評価 ～生徒の変容、主体的に学びを生かす姿～ （エピソードのミーティングを通して）

- ・最初は教師の言葉掛けで行動することが多かったが、授業を進めていくうちに、生徒が自分で考え、主体的に行動することができるようになってきた。また、自分の役割には責任をもって取り組もうとする気持ちが高まった。
- ・困っている友達に教えたり、助けようとしたりする姿が見られるようになった。
- ・ごみに対する関心が出てきて、生徒から「これは何ごみ？」という質問が出たり、「(家庭で) ごみを出す手伝いをします。」と話したりする場面が見られた。



3 授業改善の要点 ～研究仮説から～

家庭科で学んだごみに関する知識だけでなく、友達とゲームを考えたり、準備したりする中で、今まで覚えた知識を定着させ、新しい知識を得ることができるような場面の設定をした。ゲームで使用するごみについては、生徒から出た疑問をみんなで調べて解決した。また、ゲームを行う時に、困っている友達への対応の仕方について、ロールプレイをしながら考え、実際のゲームの場面で実践することができた。

「なりたい自分シート」の中で、コミュニケーション面で自分で課題があると感じ、直したい、うまくできるようになりたいという思いをもつ生徒をグルーピングし、授業の中で課題を解決できるような場面を設定した。最初は慣れない友達との学習に緊張している様子が見られた。授業を進めていく中で、友達同士で声を掛け合ったり、隣の友達同士で話し合ったりする場面が見られるようになった。

4 所感

今回の単元では、生徒がごみの分別に関するゲームを作り、ゲームの実践、振り返り、改善を繰り返すことで、活動に見通しをもち、主体的に取り組む姿を引き出すことができた。ゲームを振り返る場面では、映像を活用し、生徒に見るポイントを具体的に提示したことで、生徒自身が「次はこうしたい。(直したい)」という考えをもつことができた。

意見を出し合う場面では、自分の意見をもっていても、友達の前で発表することが難しい生徒が多かった。「発表する」という行為を細分化し、生徒一人一人がスモールステップできるような場面設定、教材の工夫等が必要だと感じた。併せて、「なりたい自分シート」に生徒が出していた課題や願いに関しても、授業の中でどのように解決していくかをさらに検討していく必要があると感じた。

◆学校教育目標◆

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

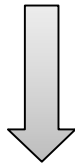
☆めざす児童生徒像☆

健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒



◆生徒（保護者）の思い、願い

- ・家族や友達と楽しく生活したい。
- ・自立に向けて一人でできることが増えてほしい。
- ・人と関わる力を付けてほしい。



◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より

- ・日常生活に必要なスキルや社会のルールや基本的なマナーを身に付ける。
- ・自分のやること分かり、目標や目的をもって最後まで学習に取り組む。
- ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする力を付ける。



本単元の概要

- ・個々の実態の差は大きいですが、学級の中でお互いに声を掛け合ったり、助け合ったりする場面が見られるようになってきた。国語・数学、美術、職業・家庭の時間は、学年合同で学習を行っており、国語と数学は課題別のグループで学習している。
- ・2学期、家庭の授業の中で「ごみの分け方とリサイクル」という単元で、ごみの種類や分別の仕方、ごみの出し方やリサイクルについての学習をした。実際に「ごみ」となる物を見たり、触ったり、分別したりすることで、体験を通して学ぶことができた。家庭で手伝いをしている生徒は少ないが、家族の為に何か役に立ちたいという気持ちをもっている生徒もいる。
- ・今回の単元では、最初に学校周辺のクリーンアップ活動を行う。実際に拾ってきたごみを分別することで、生徒にとって「ごみ」が身近に感じられるものとなり、体験を通して分別することの大切さを感じることができるのではないかと考える。また、家庭で学んだ「ごみの分別とリサイクル」の知識を身近な人伝えるにはどうしたらよいか、きれいな環境で生活するためには何が必要か等の課題を見つけ、友達と一緒に話し合ったり、活動したりすることで、解決することができるようにしたいと考えた。そして、さらに、学習したことが家庭や施設で生かせるようにしたいと考える。

対象児童生徒	中学部1年（1グループ）	指導の形態	生活単元学習
題材単元名	「チーム17 ごみの分別名人になろう！～ごみの分別おしえ隊 出動！～」	時数	17時間

単元計画表

小単元名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
1「学校の周りをきれいにしよう～クリーンアップをしよう～」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かり、友達と一緒に学校周辺のごみを拾う。 ・拾ってきたごみを見分けて、種類ごとに分ける。 	主 対	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かり、友達と一緒に学校周辺のごみを拾う。 ・拾ってきたごみを見分けて、種類ごとに分ける。 	5
2「ごみの分別のし方を友達に伝えよう～ごみの分別おしえ隊 出動！～」 ①2グループの友達と一緒にゲームをしよう ②3グループの友達と一緒にゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別をするゲームを考え、友達と一緒に制作する。 ・2グループや3グループの友達とゲームをする。 ・ゲームを行っている映像を見て、良かった点、直したい点をワークシートに書く。 ・こうすればよくなる、もっと楽しくなる方法を、友達と話し合い、練習する。 	主 対 深	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と役割分担し、協力して、ゲームを作る。 ・自分の役割が分かり、自分から進んで活動する。 ・ゲームをしたときの映像を見て、振り返り、よかったこと、直したいことに気付く。 ・自分の考えを伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、話し合い活動をする。 ・話し合いをもとに、変えた部分を理解し、自分から練習に参加する。 	9
③中学部のみんなと一緒にゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学部集会で、中学部の他学年の生徒と、ゲームを行う。 	主 対 深	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かり、自分から進んで活動する。 ・友達に声を掛けたり、助けたりしながら、協力して活動する。 	3

目標達成に向けての支援

深い学び

- ・家庭科で学んだ「ごみ」についての知識を身近な人に伝えるための手段を話し合い、実践するための活動内容、計画を立てる。
- ・生徒が自ら気が付いたり、考えたりして活動できるように、教師の支援を徐々に減らしていく。

単元目標

- ・ごみの分別に関するゲームの内容、やり方等について、自分の意見を伝えたり、友達の意見を受け入れたりしながら、話し合いをする。【思 判 表】 【態 度】
- ・友達と役割分担しながら、協力して活動する。【思 判 表】
- ・活動内容や友達の役割が分かって、自分から進んで製作活動をしたり、ゲームの進行をしたりする。【知 技】 【態 度】

主体的な学び

- ・自分のやることや役割が分かって、進んで取り組むことができるように、写真や絵カード、手順表を提示する。

対話的な学び

- ・活動の中に、考えを発表したり、友達の意見を聞いたりして、話し合う場面を設定する。
- ・友達の様子を見たり、まねたりできるような環境を設定する。

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の主な目標

- ・「みんなのために」という気持ちを持ち、準備や制作活動等における自分の役割に責任をもって取り組む。
- ・活動内容や自分の役割が分かって進んで制作に取り組んだり、友達や教師と工程等について確認・相談しながら制作を進めたりする。
- ・制作物の工程や道具の使い方を知り、安全に制作を行う。

態度
 思判表
 知 技

◇授業の概要

本学年は、中学部入学以来「みんなのために」という単元名で、清掃や除雪、読み聞かせ会の立案・実施など校内外での奉仕活動等に取り組んできた。今年度は、中学部最高学年として中学部の先生方や後輩に感謝や応援の気持ちを伝えるため、卒業制作として学校生活で役立つ物を作ってプレゼントする学習活動を設定した。

制作する物は、職業・家庭科や作業学習で学んだ技術を生かしたいという生徒の意見を取り入れて、かまくら学習で使用する座布団カバーにした。



2 授業実践について

授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動（座布団カバー作り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ→ミシン掛け、縫い代の印付け ・Bグループ→アイロン掛け、縫い代の仮止め <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 <ul style="list-style-type: none"> ○「卒業制作」という特別感とプレゼントしたいという思いが動機付けとなり、主体的な行動につながった。 ・対話的 <ul style="list-style-type: none"> ○プレゼントする相手や生徒がお互いを意識できる環境設定、教師の言葉掛けがよい。 ●生徒同士の直接のやりとりや協力する場面が少なかった。 ・深い学び <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自分で考えて判断できるような教材・教具等の支援があった。 ●めあての「丁寧」という言葉の定義が曖昧。評価基準を明確にする。 	<p>◇主な活動（プレゼントの準備、ラッピング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイロンプリントシールを貼る ・手紙やラッピングの袋に写真やラベルを貼る <p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が直接関わり合うことができるようなペアリングや活動の設定をする。 ・「丁寧」の評価基準となるように、「きれいポイント」を提示する。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的 <ul style="list-style-type: none"> ○ペアで活動することで、生徒同士のやりとりにつながった。 ・深い学び <ul style="list-style-type: none"> ○「きれいポイント」や見本の提示が生徒自身で判断できる評価基準になっていた。 ●「失敗しないための」手立てもよいが、「失敗から学ぶ」手立てのある授業を組み立てる。
<p>◇評価 ～生徒の変容、主体的に学びを生かす姿～（エピソードのミーティングを通して）</p> <p>座布団カバーを作り上げたことや、プレゼントして「すごい」「上手」などの称賛をもらったことは、生徒の自信につながった。また、ミシン掛けの経験は、家庭でポーチなどの小物や枕カバーを作ったり、高等部作業学習体験でミシン掛けをしたりすることにつながった。試行錯誤しながら根気強く制作に取り組んだことで、他の学習活動でも失敗を認めて受け入れ、やり直したり諦めずに取り組んだりする姿が見られた。</p>	

3 授業改善の要点 ～研究仮説から～

本単元では、作業学習で習得した計測や布の裁断等のスキル、家庭科の小物作りの経験を生活単元学習での制作活動に生かすことができるように、工程分析や学習活動の設定を行った。また、教科の目標や内容を生活単元学習の活動のどこに生かすのか意識することで、教科との関連を明確にして授業を計画することができた。

「なりたい自分シート」の活用という点では、「時間いっぱい活動する」「物を大切に使う」といった行動面の目標と、「イライラしない」「苦手なことにチャレンジする」「自分の役割に責任をもって取り組む」といった精神面の目標を単元目標や個人目標に取り入れた。「なりたい自分シート」を生徒自身が意識できるように、日常的に教師が言葉掛けをして学習活動との関連付けを図っている。教師が「なりたい自分シート」を意識した目標や活動設定、継続して言葉掛けを行うことで、生徒自身が自分の言動を見直す機会につながった。また、「なりたい自分シート」を作成したことで自分の将来について考えるきっかけとなり、制作活動をとおして「将来は保育士になりたい。ミシンで何か作ってあげられるかもしれない」と具体的に将来のイメージをもつ生徒もいた。




4 所感


今回の単元では、生徒が「座布団カバーをプレゼントする」という目的のもと、一丸となって学習を進めることができた。授業改善の結果は、生徒たちの主体的に学ぶ姿や経験の積み重ね、達成感につながった。特に、活動の中で生徒自身が失敗を認め、試行錯誤し、失敗を乗り越えたことで「できた」と感じるに至った場面が複数あったことは、生徒の学びや成長につながったと感じている。

「実態差を生かしてこそ生活単元学習である」という指導助言の言葉が印象に残っている。今回の単元では、それぞれの生徒が自分の役割を果たし、座布団カバーを作り上げることができた。生徒1人1人が活躍する授業を作っていけるように、今回の授業改善の経験を今後に生かしていきたい。


単元構想図

◆学校教育目標◆
一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

☆めざす児童生徒像☆
健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒 

◆生徒（保護者）の思い、願い 

- 様々な経験を通して、将来の生活に必要な力を身に付けてほしい。
- 自分の意思を伝えてほしい。
- 友達との適切な関わり方を身に付けてほしい。

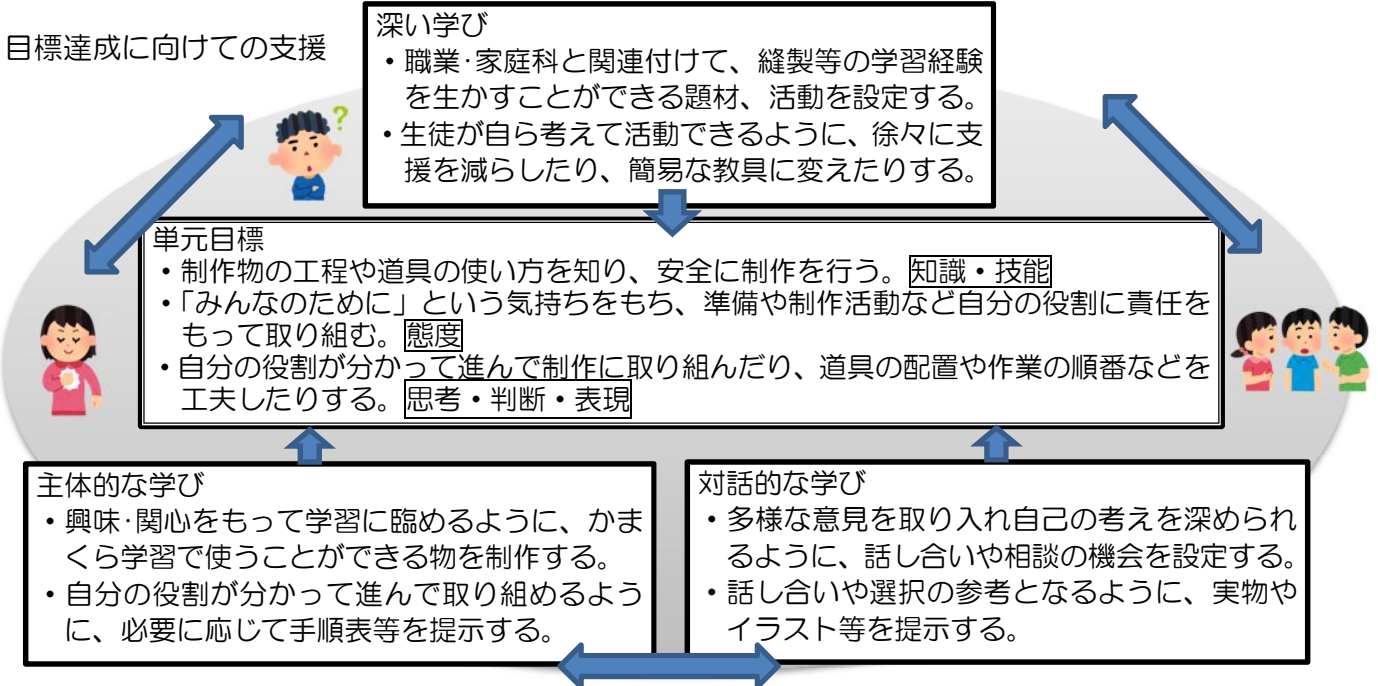
◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より 

- 日常生活のスキルやマナーを身に付けて、生活に生かしてほしい。
- 自分や友達の良いところ、得意不得意を知ってほしい。

本題材の概要

- 2年生では、「みんなのために」という単元で奉仕活動等に取り組んだ。
- 「みんなのために」という気持ちを持ち、自分の役割に進んで取り組んだり、自分で工夫したり友達と協力したりして課題を解決しようとする姿を目指す。
- 職業・家庭や作業学習等で得たスキルを活用できる題材として、かまくら学習に向けてかまくら内で使用する座布団作りを設定する。

対象児童生徒	中学部3年	指導の形態	生活単元学習	
題材 単元名	「みんなのために～卒業制作 座布団作り～」	時数	16時間	
単元計画表				
小題材名	学習活動内容	ねらいに迫るための学び方	主なねらい	時数
みんなのために～卒業制作をしよう～	• 中学部のみんなのためにできること、制作できる物を考え、話し合って決める。	主 対	• 卒業制作について考え、意見交換をしたり、作りたい物を選択したりする。	2
みんなのために～座布団作り練習～	• 卒業制作に向けて、作り方を覚えたり、練習したりする。	対 深	• 作る物や自分の役割が分かり、工程や道具の使い方を覚えたり、練習したりする。	2
みんなのために～座布団作り～	• 役割を分担して制作活動を行う。	主 対 深	• 作る物や自分の役割が分かり、進んで活動する。	10 (5/10)
みんなのために～プレゼントの準備をしよう～	• 話し合っ制作物の説明や手紙を書いたり、役割を分担してラッピングしたりする。	主 対	• 友達と意見交換をしたり、役割分担をしたりして、協力して準備をする。	2



1 題材（単元）の目標と授業の概要

◇単元の主な目標

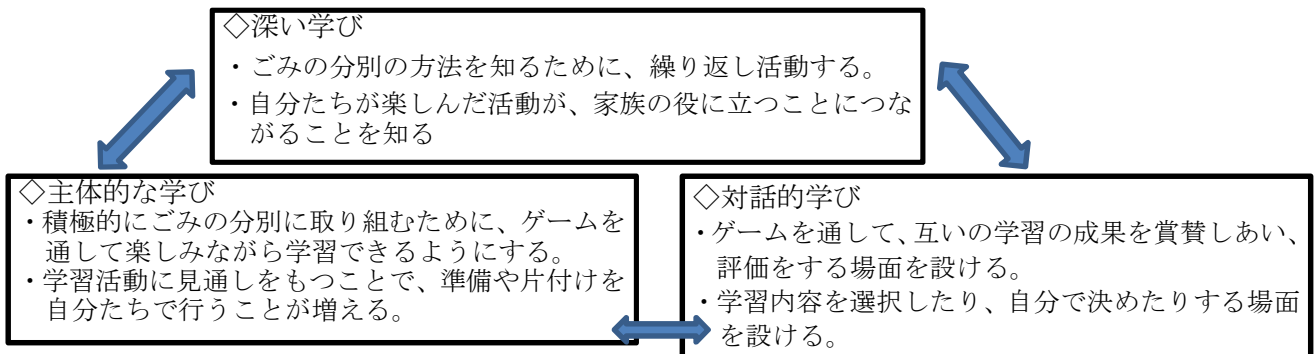
- ・ごみを分別して捨てたり、ごみを減らしたりすることを体験する。 **知技** **思判表** **態度**
- ・教師の話聞き、活動に取り組む。 **知技** **思判表** **態度**

◇授業の概要

- ・本グループは、体験を通して学んでいくことができる生徒が多い。本単元では、家庭科の学習で学んだ「ごみの種類と分別の仕方」の学習を基に、ペットボトルをはじめ、様々なごみの分別を、ゲームを通して体を動かしながら理解する学習を中心に進めた。
- ・単元の後半では、これまでの学習内容をクイズ形式で振り返り、その活動そのものが保護者に向けた発表会の練習につながるように設定した。保護者に向けた発表の練習を通して、学習の定着を図りたいと考えた。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの支援



(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで2グループで取り組んできた活動を、クイズ形式で振り返る。 ・PTAの日に保護者の前で発表する内容を知る。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 ●学ぶ環境（机の有無、配置）の整理が必要。 ●個に応じた教材の工夫が必要。 ・対話的 ●クイズの答えを生徒が見えるように、ホワイトボードに貼った方が良いのではないか。 ●生徒の活動量を増やしても良いのではないか。自己選択できる場面を設定できれば良いのではないか。 ・深い学び ●クイズの並べ方や答えの出し方、文言の分かりにくさがあった。生徒が分かるような文言の使い方が必要。 	<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループで取り組んできた活動を、クイズ形式で振り返り、PTAの日に保護者の前で発表する内容を練習する。 <p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机は使用せず、話を聞く場面と活動場面で、教室の使い方を変える。 ・クイズを生徒に分かりやすい言葉で出題し、回答用のカードを作成する。 ・問題と回答のカードをホワイトボードに掲示し、生徒が学習したことを見て分かるようにする。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 ○活動が分かりやすくなり、生徒が主体的に学習する場面が増えた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的 ○クイズの問題や答えを生徒に見やすく掲示したり、回答する際に選択肢を用意したことで、生徒が積極的に発表できるようになった。 ・深い学び ○生徒に分かりやすい言葉で出題したことで、生徒が主体的に考え、回答しやすくなった。
<p>◇評価 ～生徒の変容、主体的に学びを生かす姿～ （エピソードのミーティングを通して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を進めていく中で、生徒は、自分の役割が分かり、自分から準備や片付けをすることができるようになった。 ・冬休みに、自宅で保護者と一緒に「ごみ箱」を作ってきた生徒がいた。PTAでの発表をもとに、生徒だけでなく、保護者にも、ごみに対する関心を広げるきっかけとすることができた。 	

3 授業改善の要点 ～研究仮説から～

授業改善したことで、今何をする活動場面なのか生徒自身が判断しやすくなり、より主体的に活動に参加できるようになった。また、体験的な活動を繰り返すことで、「ごみの分別」のスキルを高めるという目標を達成することができた。

保護者の前での発表というモチベーションが高まる活動の機会を得たことで、まとめの活動にも意欲的に取り組み、生徒は自分の学習の成果を発表することができた。

グループ分けや目標の設定、単元構想を練る段階で、「なりたい自分シート」を活用した教師間の話し合いを行うことで、より効果的な学習を作ることができると感じた。

4 所感

今回の単元を通して、家庭分野で学習したことを体験を通して繰り返し学習したことで、知識を実生活に生かすきっかけをつくることができた。生徒の実態に応じて、学習環境、教材の工夫等、生徒にとって分かりやすい授業作りが必要だった。TT 同士の意見交換や授業準備の大切さを改めて感じ、今後も大切にしていきたいと考える。

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の主な目標

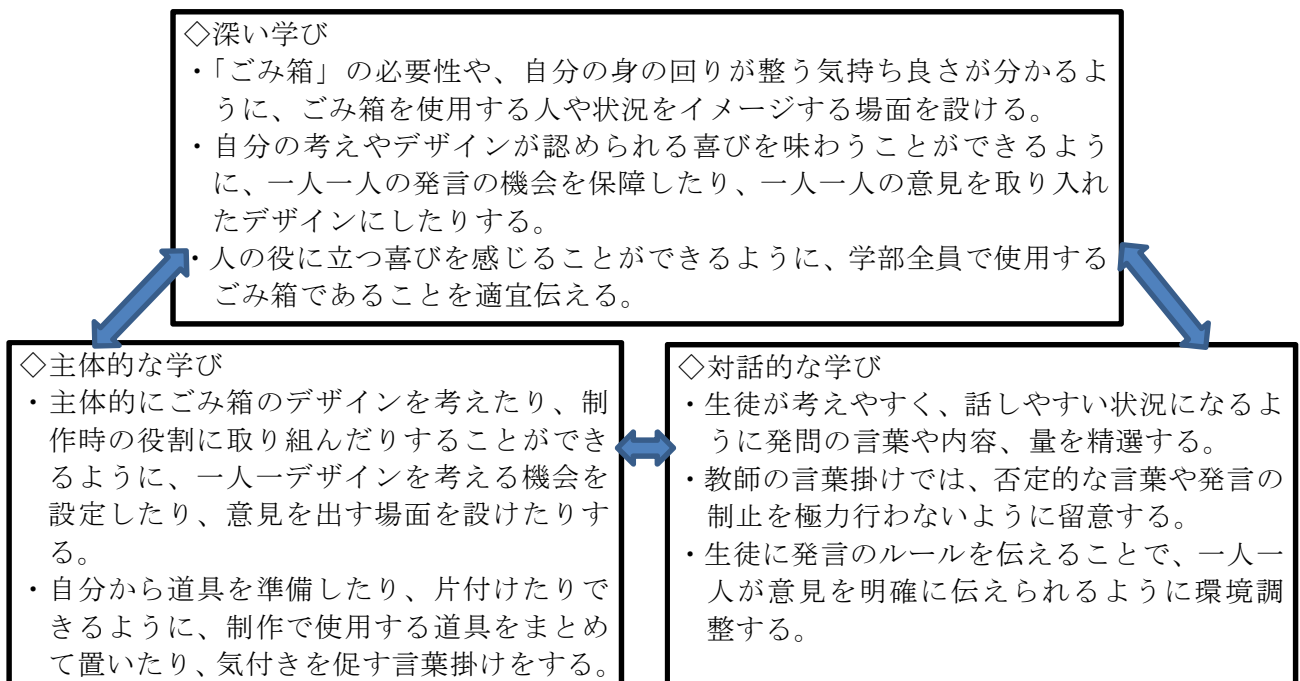
- ・ごみ箱の用途を知り、ごみ箱のデザインを考える。知識・思考・判断・表現・態度
- ・ごみ箱の作り方が分かり、自分から友達と協力しながらごみ箱作りをする。知技・思考・判断

◇授業の概要

- ・自分の考えを伝えたり、友達や教師と相談したりしながら、作りたいごみ箱のデザインを決め、役割分担して段ボール箱に装飾する。どうしたらごみをごみ箱に入れようとするのか、ポイ捨てしないで捨てようという気持ちになるのか、という課題意識をもってデザインを考える。グループの友達同士で役割分担し、ごみ箱の装飾を通して互いに協力し合うことや、目的を達成する喜びを感じながら制作することなどもねらいとして取り組んだ。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの支援



(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えたり、友達や教師と相談したりしながら、作りたいごみ箱のデザインを決める。 ・友達と役割分担をして、ごみ箱を作る。 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的 ○取り組む活動内容が分かりやすく、生徒の得意な活動を取り入れたことで、時間いっぱい集中して取り組んだ。 	<p>◇主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と役割分担をして、ごみ箱を作る。 <p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成がイメージしやすいようにごみ箱の見本を提示する。 ・生徒の活動内容を整理し、活動場所や道具の置き場所など環境を整える。 ・本時のねらいやそれが達成された姿を具体的に示し、教師の支援を精選する。

<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が自主的に道具や行動を判断するために、ごみ箱の見本など視覚的な支援が必要であった。 ・対話的 ●教師の働きかけに対して生徒がどう反応するかを予測し、具体的な行動目標を検討する必要があった。 ・深い学び ●教師が「ごみ箱作り」に生徒を誘導する割合が多く、考えさせたり、考えの手助けとなるような言葉掛けが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇成果（○）と課題（●） ・主体的 ○生徒に応じた活動内容を提示したことで、隙間なく貼る、時間いっぱい紙をちぎるなど集中して取り組んだ。 ○ごみ箱の見本があったことで、活動内容が具体的なり、見通しをもって生徒が自主的に制作活動に取り組めるようになった。 ・対話的 ○生徒のねらいを明確にしたことで、どのように支援したらよいか具体化され、ねらいの達成度が上がった。 ○教師の言葉掛けを減らし、必要な場面で適切な言葉掛けをするようにしたことで、生徒の主体的な動きが増えてきた。
<p>◇評価 ～生徒の変容、主体的に学びを生かす姿～（エピソードのミーティングを通して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の仕方を具体的に確認したり、話を聞く場所と制作場所、道具の置き場所などの環境を整えたりしたことで、生徒が主体的に行動することができた。見本の提示や生徒に応じた活動内容の精査で、長時間集中して取り組む姿も多かった。 	

3 授業改善の要点 ～研究仮説から～

「ごみ箱」を自分達で作った経験を通じて、身の回りを整理整頓し、きれいな環境で過ごすための提案（ごみ箱を活用すること、自分でも作れること）ができたと考える。ごみ箱作りそのものは、ちぎり絵を応用した難易度の高くないものであったが、活動の繰り返しの中で、道具の使い方や友達との協力体制などを工夫しようとする生徒の姿が見られたことは、生徒たちの日常生活にも生きる思考力や判断力の基礎を培う活動としても有効であったと考える。

普段の学級ではないグループでの学習であったが、効果的な学習のためには、集団の力を基盤とすることが大切であった。生徒達に分かりやすく、協力し合うことで達成できる目標を設定することで、目的に向かう集団が育ち、生き生きとした学習活動になることをねらった。「学部の食堂や教室で使用するごみ箱を作る」という目標は、そのねらいに則していた。出来上がったごみ箱が実際に使われる様子は、自分たちの活動の「評価」として、今後生徒達に体験的な理解をもたらすものとする。

授業における個別の目標とその評価については、道具の取り扱いや手順の理解、友達との協力など、ごみ箱の制作に偏ってしまったため、単元で育てたい力を具体的にイメージすることが必要であった。

本単元における「なりたい自分シート」の活用に関しては、グループ編成において同じような課題や、課題達成のために効果的なグルーピングを行う上で比較検討した。学習のマナーを身に付ける時期であり、友達や教師をモデルに「より良い自分」を模索する時期でもあることから、授業の土台となる生徒各々の中心課題に迫る必要性がある。生徒達の「なりたい姿」を教師が意識して接していくために、それぞれの「なりたい自分シート」を比較していくことも必要であったと考える。

4 所感

グループの生徒達が作ったごみ箱は学部集会で披露したことで、より達成感や自己有用感を味わうことができたと考える。グループとしての仲間意識が高まり、グループの一員として自ら進んで集まったり、誘い合ったりすることが増え、集団として成長したと感じる。本単元を通して自分の意見が受け入れられる、協力して制作する楽しさを味わうことができたと思う。今後もこのような経験を積み重ねることで、主体性や深い学びにつなげていきたい。

1 単元の目標と授業の概要

◇単元の主な目標

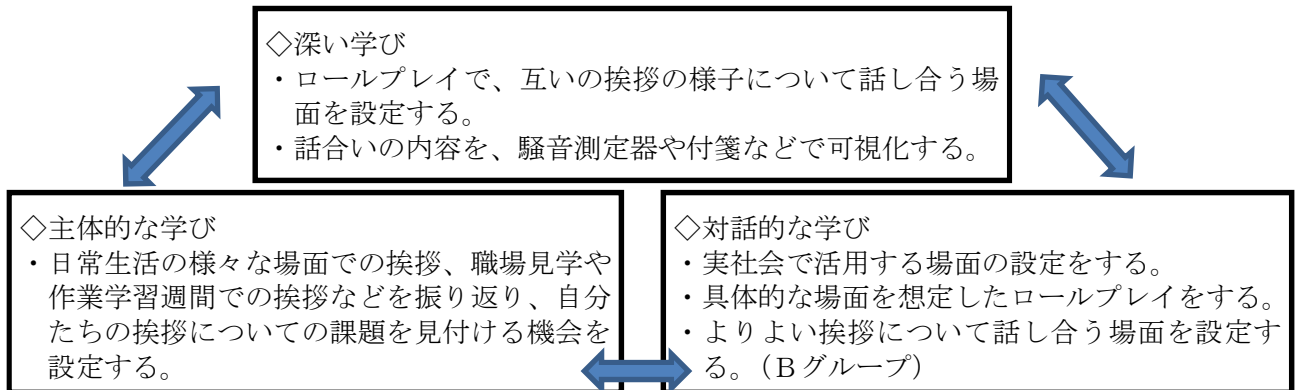
- ・〔Aグループ〕相手が気持ちよくなる挨拶ができる。 知技 思判表 態度
- ・〔Bグループ〕挨拶は、相手が気持ちよくなるように行うことが分かり、実際に行う。 知技 思判表 態度

◇授業の概要

- ・日常生活や職場見学、作業学習週間などで挨拶をする機会があった。今後は、宿泊学習も行われる。そこで、挨拶についてのロールプレイや話し合いを通して、気持ちよい挨拶をしたり、挨拶は「互いに気持ちよく生活を送るためにする」という挨拶の意義について気付かせたりしたい。Aグループの目標は、小学校学習指導要領道徳編の第1学年及び第2学年段階、Bグループの目標は同第3学年及び4学年相当である。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの支援



(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題
<p>◇主な活動</p> <p>〔Aグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習の場面を想定した挨拶のロールプレイ。 <p>〔Bグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい挨拶についての話し合い。 <p>〔共通〕・A、Bグループが互いの挨拶を相互評価。</p> <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>主体的</p> <p>〔共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全般における様々な場面での挨拶について振り返った。 ●「宿泊学習で気持ちのよい挨拶をしよう」という本時のめあての文言、表現に課題があった。 <p>〔Aグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの朝の挨拶の様子の映像を、身近なこととして捉え、集中して見たり考えたりした。 <p>〔Bグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師が良い挨拶と悪い挨拶を提示することで、課題意識をもって見たり考えたりすることができた。 	<p>◇主な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあての変更 「宿泊学習で気持ちのよい挨拶をしよう」 ↓ 「明るく、相手の顔を見て、笑顔で宿泊学習の挨拶の練習をしよう」 <p>◇成果（○）と課題（●）</p> <p>〔Aグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶のポイントを具体的な言葉で表した。「明るく」「相手の顔を見て」「笑顔で」挨拶をすることを目指し、ひとつひとつ実践しながら自分の挨拶の仕方を確認した。 ○日頃の挨拶の様子を思い出したり教師の助言を手掛かりにしたりして、自分の挨拶のよい点を確認したり、繰り返して実践したりした。 ○他の学習場面での挨拶の様子を教師が伝えることによって、友達の良さを新たに知ったり自分の良さをみんなに知ってもらったりして、お互いにうれしい気持ちを味わった。 ○宿泊学習を想定し、場面ごとの挨拶を練習した。「ユースパルに着きました。」と教師が言うと、生徒の一人が「お世話になります。よ

<p>対話的 〔Aグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手の顔を見て会釈をする様子を捉えた「よく見ていましたね」という教師の肯定的な言葉が、「気持ちの良い挨拶」「されてうれしい挨拶」について気付くきっかけとなり、言葉でなくても挨拶ができることを知った。 ○お互いの挨拶の良い点について気付いたことを短く簡単な言葉で紙に書いて提示することで、自分の挨拶について考えることができた。 <p>〔Bグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の生徒の発言をホワイトボードに書いて視覚化することで、話し合いが深まった。 ○騒音測定器を使って声の大きさを測定し、その結果を視覚化することにより、「声の大きさ」と「元気な声」が関係していることに気付いた。 <p>深い学び 〔共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の相互評価では、「最後の『ました』が聞こえた」「部分的にはっきり聞こえた」等、友達の挨拶のよい点について気付いたことを言葉で伝えたり、少しずつできるようになってきている友達のことを思いやったりするような優しい感想が聞かれたりした。 	<p>ろしくお願いします。」と率先して言い、他の生徒がその声に合わせて部分的に声を出したり、頭を下げたりすることがあった。</p> <p>〔Bグループ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロールプレイでは、騒音測定器で声の大きさを図ったり、「声や表情は明るいか」「相手の顔を見ているか」「笑顔で挨拶をしているか」などをポイントに、お互いに評価し合ったりすることができた。 ○自分では大きい声を出しているつもりでも相手に聞こえていなかったり、笑顔でいるつもりでも無愛想な表情に見えたりすることがあることを知った。お互いに評価をしあうことで、相手の立場に立って考えることのきっかけとなった。 ○声の大きさ、表情、相手の顔を見ることなどについて、それぞれに得意なことと苦手なことがあることを理解した。 ○友達の挨拶の仕方を見たり、友達からの評価を受けたりしたことに刺激され、自分の苦手な所を少しでも克服しようと努力した。大きな声が出るように咳払いをしたり、相手の顔を見る時間を延ばしたり、自分ができる方法を考えて実践することができた。
<p>◇評価 ～生徒の変容、主体的に学びを生かす姿～（エピソードのミーティングを通して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶は互いに気持ちよくするために行う」ということが、ロールプレイや話し合い活動を通して実感でき、その後の生活において元気な挨拶を心掛けたり挨拶運動に生かそうとしたりすることが増えた。 ・学校を離れた宿泊学習の場面で、教師の促しや言葉掛けを受けながらではあるが、「明るく」「相手の顔を見て」「笑顔で」挨拶をすることを意識することができた。 	

3 授業改善の要点 ～研究仮説から～

「なりたい自分シート」を使って、具体的に自分の将来について考え、そのために自分がどうすれば良いのか、今何をしなければならぬのかについて考えたり、知ったりすることができた。その際、生徒たちからは必ず、「挨拶が大切」「挨拶ができるようになれば良いと思う」といった言葉が聞かれた。そのため、「挨拶」を題材とする授業を取り入れた。日常的に行っている挨拶を題材とし、これから行う宿泊学習で実践するという場面設定をしたことで、学習場面の広がりや学びのつながりをもたせることができたと考えた。

生徒一人一人のこれまでの経験や実態により、挨拶の発達段階と指導方法を明示している小学校学習指導要領道徳編を参考にしてグループ編成をし、「気持ちのよい挨拶をする」段階、「相手の立場に立って考え挨拶をする」段階のポイントを絞った指導を行い、それぞれのねらいに迫ることができた。

4 所感

日常的に習慣的に行っている挨拶が、互いに気持ち良く生活を送るために大切なことであるということに気付く良いきっかけとなった。自分の言動を見つめ直したり友達の良さを認めたりすることができたことを生かし、今後の生活において同じ視点をもって学年集団として成長していけるよう、指導を継続していきたい。教師が良い見本となり、毎日継続して学習できる環境を整えていくことが大切であると考える。

7 学部研究の成果（○）と課題（●）

(1) 生活単元学習における、教科との関連を深く意識した授業づくり

○年間計画を作成する際、「職業・家庭科における指導目標及び具体的な指導内容表」を参考に、担当者が話し合う機会を設定した。職業・家庭科で学んだことを、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習でも確認する機会を意図的に設定できた。

●この単元のこの部分では、どの教科の「ねらい」や「見方・考え方」と関連付くのかという視点を教師がもっているか、日常的な授業づくりにおける授業力の向上が必要である。

●各学年段階の学習履歴を振り返ったり、相互補完できる学習内容を確認したりすることで更に計画的に学びを積み重ねることができるとは必ずしも一致しない。単元の開始時やまとめの時期に他教科との関連を深く意識した振り返りや評価、スモールステップでの新たな課題の設定を行い、生活単元学習の年間指導計画が改定できれば、学習の積み重ねに更に厚みが増していくはずである。

(2) 「なりたい自分」を目指した行動目標の設定や評価

※学部職員へのアンケート結果から

・「なりたい自分シート」の作成について

○形式が変わり、生徒にとって「なりたい自分」につながる項目をより自由に挙げる事ができた。学年により、形式を変え、教科の枠を取り払ったことで自由度が増し、生徒に合ったシートの作成につながった。

●「なりたい自分」というテーマを具体化することが難しい生徒から思いを引き出し、どのようにシートを作成していくか聞き取り方に課題が残った。面談の様子のビデオ撮影や視聴などを通じて、聞き取り方のレベルアップを図っていくなどの工夫も必要である。

・「なりたい自分シート」の活用について

○教室に掲示することで、単元や行事、月ごとの振り返りへの活用がなされ、言葉掛け、授業の題材や目標への参考になった。

○面談資料として、生徒と保護者の思いを繋ぐ資料ともなり得た。学校・家庭（施設）と共通理解した支援につながった。

●常時活用し、意欲的な学習につなげるためにも本人が元気に頑張れる「励みにできるような記述」にしたり、各学習場面に携帯できるよう工夫したりする必要がある。

●「なりたい自分シート」を十分活用しきれていない場面も多くあった。単元づくりや授業づくりなど実践的な有効活用例を紹介したり、研修場面を設定したりして活用していきたい。

・「なりたい自分シート」は、生徒が自己理解して目標をもったり、授業づくりをしたりするために作成しやすく活用しやすかったか。指導と関連付けしやすくするためにも、「なりたい自分シート」をプロフィール表やキャリアノートといった位置づけで継続していきたい。本人及び保護者を交えて話をする場を設定し、具体的に行動目標を書き、作成時期を早め、家庭生活と関連付け、同じ方向を見ていくことでより存在価値が上がるのではないかと考える。施設入所生や、障害が重く発語の難しい生徒に向けた作成、活用のパターンを探っていく、キャリア教育の充実や作成時のひな形づくりに生かしていきたい。

(3) 様々な場面や状況に対応できる力を育むことができたか

○生活単元学習という合わせた指導の場であるからこそ深まる、教科の学び、意欲的な姿が確認された。目標を細かく段階的に設定し、経験を積み重ねていくことで、自信が育まれた。自信と意欲が相乗効果となり、様々な場面で学習成果を見取ることができた。

●主体的・対話的な深い学びの実現や、キャリア教育の充実、あらゆる場面で生徒が主役となる教育活動が展開されていくように「なりたい自分シート」の効果検証の積み重ねは今後も続けていくべきものであると考える。



Ⅲ 高等部の実践

1 研究テーマ

よりよい生活を営むため、自らの学びを暮らしの中で生かす生徒を育む
～学びを生かす姿や場면을明確にした家庭科の実践を通して～

2 テーマ設定の理由

(1) 生徒の実態

高等部は、身辺処理が概ね自力でできる生徒のほか、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般において支援が必要な生徒も在籍する。また、コミュニケーション面では、言語によるやりとりが可能な生徒のほか、発声や身振り、表情などで意思や気持ちを伝える生徒もいる。

昨年度までの2年間で家庭科を取り上げた研究実践では、話合いや体験的な活動を通じて、自らの家庭生活について現状を把握し、今後の生活を充実させるための課題を考えたり、生活の質を向上させるための知識や技能を学んだりすることができた。一方で、学習して学んだことや身に付けたことに実際の暮らしの中で取り組み、家庭生活をより豊かにしようと実践する姿や、主体的かつ継続的に家族の一員として役割を果たす姿を引き出す必要性があると考えられる。

(2) 今年度の研究

高等部では平成29年度より、家庭科を教育課程に位置付け、生徒が望む生活に向け、自己選択や自己決定したり、環境や状況に対する判断や調整する力を身に付けたりすることを主眼に研究を進めてきた。その中で、年間指導計画に生かすための「家庭科指導内容チェック表」(資料〇〇)を作成し、各学年の家庭科担当者が既習事項を確認するなど、授業づくりの際に活用した。また、ICFの観点を取り入れた「フェイスシート」(資料〇〇)を作成することで、実態把握や授業づくりでの支援方法の見直しを図るとともに、「〇〇のような支援があればできる生徒」という観点で授業づくりを進めることができるようになった。

一方で、家庭科を教育課程に位置付けた意義を再確認し、生徒が豊かな生活を営むために、積み重ねた経験を様々な場面で発揮することが課題として挙げられている。また、家庭科指導内容チェック表のより有効な活用方法、授業の環境設定としての板書や発問、話合いの在り方の検討も課題とされている。

そこで、今年度の研究は、①家庭科指導内容チェック表や生徒本人と家庭環境の関連を示したフェイスシートを活用し、生徒の豊かな家庭生活につながるための指導計画を立案し、②主体的・対話的で深い学びにつながる板書や発問、生徒が協働した学習活動の設定など授業の環境設定や手立てに関するレベルアップを図り、③生徒が家庭科の授業での学びをどの場面でどのように生かすかを明確にした授業づくりを行う。学校と家庭が連携し、以上の三つの観点に基づいた授業づくりの実践と評価を行い、生徒が学びを日々の暮らしの中で生かそうとする姿を育むことにつながるかを検証する。

3 研究仮説

家庭科の授業づくりにおいて、生徒の豊かな家庭生活につながる指導のねらいや内容を設定し、学びを生かす姿や場면을指導計画に明確に位置付け、家庭と連携した実践と評価を行うことで、よりよい生活を営むために自らの学びを日々の暮らしの中で生かそうとする姿を育むことができるだろう。

4 研究の内容と方法（おおよその日程）

(1) 教育課程の検討（4月、7月、9月、12月、3月 学部全職員で実施）

- ・学部会や学部研究会で時数やグルーピング、指導内容などを検討
- ・教育課程に関するアンケートによる課題の整理
- ・年間指導計画の確認及び修正（随時）

(2) 目指す姿と目指す授業の検討（4～6月）

- ・学部研究会における協議・共通理解
- ・学習指導要領や家庭科指導内容チェック表などを活用した年間指導計画の作成

(3) 家庭科の授業づくりの検討（6月～ 学習グループごとに実施）

○授業研究会

①単元構想会→②授業提示（事後研究会を含む）→③改善授業研といった一連の流れで実施する。

全校授業研究会（3年2グループ）	授業提示7月、改善授業9月
公開授業研究会（1年1グループ）	事前授業研究会10月、授業提示11月 改善授業12月
ミニ授業研究会（各学習グループ）	9～12月に随時

○授業づくりに係る取組

- ・主体的・対話的で深い学びに関わる学習会（7～11月に数回）
→板書や発問などに関する実践的な研修の実施
他の自治体や機関などによる先行研究の情報収集
- ・家庭科の指導内容の検討（随時）
→家庭科指導内容チェック表の妥当性の検討（学年縦割りグループ）

(4) 生徒の実態把握及び変容の評価（4～12月）

- ・個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）
- ・フェイスシートの活用（随時）
→生徒の「できる状況」の検討、家庭環境を含めた実態把握
- ・ワークシートや授業中の発表内容などによる評価
→単元構想図及び学習指導案に評価規準や期待する姿の明記
- ・面談や連絡帳などでの評価（随時）
- ・学校と家族が連携したキャリアガイド（仮称）の開発

5 研究の計画

月	日	主な活動及び予定
4	25	学部研究会（今年度の全校及び学部研究の内容と方向性について）

6	20	単元構想会（高3・2グループ）
7	17	全校授業研究会（高3・2グループ）→改善授業（8/28）
	25	学部研究会（学部研究の進捗状況の確認と授業に関する学習会）
	29	単元構想会（高3・1グループ）
8	1	単元構想会（高1・2グループ）
	23	単元構想会（高2・2グループ）
	29	単元構想会（高2・1グループ）
9	2	ミニ授業研（高1・2グループ）→改善授業（10/16）
	3	単元構想会（高1・3グループ）
	4	ミニ授業研（高3・1グループ）→改善授業（9/11）
10	1	単元構想会（高1・1グループ）
	2	ミニ授業研（高1・3グループ）→改善授業（10/16）
	9	ミニ授業研（高2・1グループ）→改善授業（10/21） ミニ授業研（高2・2グループ）→改善授業（10/21）
	30	公開研究会事前授業研究会（高1・1グループ）
11	5	学部研究会（公開研究会に向けて）
	27	公開研究会（高1・1グループ）→改善授業（12/11）
12	2	ミニ授業研（高3・3グループ）→改善授業（12/9）
1	7	学部研究会（今年度のまとめ、来年度の方向性の確認等）

6 研究の実際

(1) 学部研究テーマについての共通理解

学部研究会で学部研究テーマについてグループ協議を行い、主に以下の2点が話題となった。

- ①「よりよい生活」とは何か
- ②「学びを生かす姿や場面」をどう明確にするか

現時点では、以下のように考えたい。

①よりよい生活とは…

生徒が自分の希望や願いの実現や課題の解決、目標の達成に向けて主体的に活動することで、充実感や達成感を得たり、家族の一員としての役割を自覚したりすることができる生活

②学びを生かす姿や場面

・学びを生かす姿

→生徒がよりよい生活を営むために、習得した知識や技能を実際の家庭生活の場面で思い出しながら活用しようとしたり、工夫しようとしたりする姿

・学びを生かす場面

→全校研究で示されているように、様々な場面があり、「個から集団」、「学校から家庭や地域」と広がりがあるものとする。生徒や学習グループに応じた指導目標や指導内容を基に想定される学びを生かす場面を指導計画に盛り込んだ。

(

2) 授業づくりの実際について

①家庭科指導内容チェック表とフェイスシートを活用した指導計画立案と実態把握

年間指導計画作成の際に、家庭科指導内容チェック表を活用し、学習指導要領に示されている学習内容の履修状況や、他の各教科等と関連付けて指導する内容を確認した。また、授業で取り上げる題材の指導計画立案の際にも、具体的な内容を想定したり、指導内容の順序を考えたりする際にも活用した。

フェイスシートは、生徒及び学習グループの実態や家庭環境等を整理することで、授業の際の環境や手立ての方向性を構想することに活用した。

②生徒が学びを生かす場面を明らかにした授業づくりに向けて

今年度の学部研究テーマを受け、生徒が学びを生かす場面を明らかにするための方法を試行するために、学習指導案に生徒が「学びを生かす場面」の欄を設けた。

そこには、「学びを生かすことを想定する場面」、「具体的な活動の姿」、「評価規準」を記入することとした。加えて、評価規準については育成を目指す資質・能力の三つの柱の観点も、題材の目標と関連付けて記入した。

③主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり

授業研究会の単元構想会にて、主体的・対話的で深い学びの視点がどのように反映されるのかを授業者、研究主任、学部研究担当で協議した。

その中で、主体的・対話的で深い学びを実現するために、今年度の高等部では、以下の視点を大事にした授業づくりに取り組むこととした。

ア 具体物の操作を介した学び合いの設定

→より実際の生活場面に活用できる知識・技能の獲得を目指す手立てとした。

イ 「一人でやってみて→みんなで考えて→自分のものにする」という授業構成

→個々の生徒が自ら考えたり、判断したりする時間を確保しつつ、集団による学習の深まりを図る。そして、授業の終末に個々の生徒が自分の言葉や行動で学習したことを表現することで知識・技能の定着を図る授業づくりに取り組んだ。

④家庭と連携した実践と評価

生徒が学習したことを家庭などの生活の場で表現することができたか、また、自分から取り組もうとすることができたかを評価するために、学校で学んだ知識や技能を実際の家庭生活で試行する活動を指導計画のポイントとした。「学校で学び→家庭で試して（評価を受け）→学校に持ち帰って確かめる」といった流れを家庭科の学習のスタンダードにすることで、日々の暮らしの中で学びを生かす生徒の育成を図った。

家庭への学習成果の持ち帰り及び家庭からの評価については、ワークシートや写真、ノート等を家庭に持ち帰り、生徒が活用したり、家族が評価を記入したりすることで、生徒本人、学校、家族の三者で学びや育ちを共有できるようにする取組も進められた。

(3) 授業研究会の実際

今年度の授業研究会では、特に下表に示した三つが授業改善の要点として得られた。

授業改善の要点	研究仮説との関連
①具体物の操作を介した学び合いの設定	・よりよい生活への意欲
②「一人でやってみて→みんなで考えて→自分のものにする」という授業構成	・自らの学びを暮らしに生かそうとする主体的な姿
③家庭と連携し、知識を活用する場面を具体化かつ共有した授業づくり	・学びを生かす姿や場面の明確化 ・家庭と連携した実践と評価

ここからは、高等部で提示された授業研究会の中から、上記の授業改善の要点に基づいた特徴的な4事例を示す。四つの事例に関して、共通している観点は、一つの題材が終了したとき、生徒が生活に生かすことのできる知識・技能が明確になっているか、また、身近な題材を選択することで、生徒の興味・関心、学習意欲を高めることができたかという二点である。

高等部1年1グループ「消費生活～賢く買い物をしよう～」※公開研究会提示授業

1 題材（単元）の目標と授業の概要

◇題材の目標 (1)商品を選ぶ際に手掛かりとなる情報を理解する。 知・技 (2)商品の品質や価格などの情報を基に、自分なりの判断基準をもって選択する。 思・判・表 (3)商品の選択・購入や消費トラブルについて学んだことを実生活に生かそうとする。 態度	
◇題材の概要 本題材では、商品の選択・購入に必要な価格や品質表示などの情報を適切に選択するための知識を身に付け、衣服を購入する機会を設定することで商品の選択・購入について学びの定着と活用をねらいとしている。買い物の振り返りでは、家族からの評価も取り入れ、今後の買い物場面で生かせるようにしたい。	
☆想定される学びを生かす場面と期待される姿	
・学びを生かす場面 ・家庭での買い物場面	・期待される姿 ・商品の価格やサイズ、品質などの情報を確認して必要なものを購入する。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの手立て

◇主体的な学び

- ・実際の場面を想定して学習できるように、これまで購入したことがある物や欲しい物など身近な物を取り上げてどのような情報が表示されているか商品や写真などの具体物を活用する。
- ・実生活に結び付けて考えやすいように、生徒自身や家族、教師などの身近な購入事例を取り上げたり、実際の商品や表示内容を提示したりする。

◇対話的な学び

- ・話し合いや意見交換の場面では、事前に考える観点を明確にして伝え、個→グループ→個の流れで考えられるように設する。
- ・意見を整理して考えられるように、付箋やホワイトボードなどを活用して視覚化する。

◇深い学び

- ・学校で学んだことを家庭と共有して実践できるようにキャリアノートを活用する。
- ・家庭でも実践できるように、衣服の購入について学習したことを家庭と共有したり、実践を生徒同士で評価する学習を設定したりする。

(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題・生徒の変容等
◇主な活動 ・様々なデザインや素材の衣服から自分が購入したいと思うものを選択する。	◇前回からの主な改善点 ・板書のカード化やワークシートの簡略化
◇成果（○）と課題（●） ○具体物を活用した実際の場面を想定した活動 ●意見交換後の黒板への視覚化	◇成果（○）と課題（●） ○家庭での実践の評価を共有 ●生徒の活動と役割分担 ●教師対生徒でなく生徒同士での対話
☆生徒の変容等 ・授業の中で店での買い物場面を想定して服を複数準備してその中から選択する活動を設定したことで、家庭での実践でも値段や素材、自分の好みなどを考えて服を購入することができ、自分の服や友達の服を選んだポイントに興味をもったり、服の良さを話題にしたりする姿が見られた。	

4 所感

学習場面において具体物を活用することでより実際の場面に近づけた学習を行うことができ、家庭での実践につなげることができた。今後は店舗での購入だけでなく、ネットでの購入や消費トラブルなどについても学習していきたい。また、学習の中で生徒同士の対話的なやりとりを増やしていけるように学習の流れや活動を検討していきたい。

◇単元構想図

◆学校教育目標◆
一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する
☆めざす児童生徒像☆
健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒

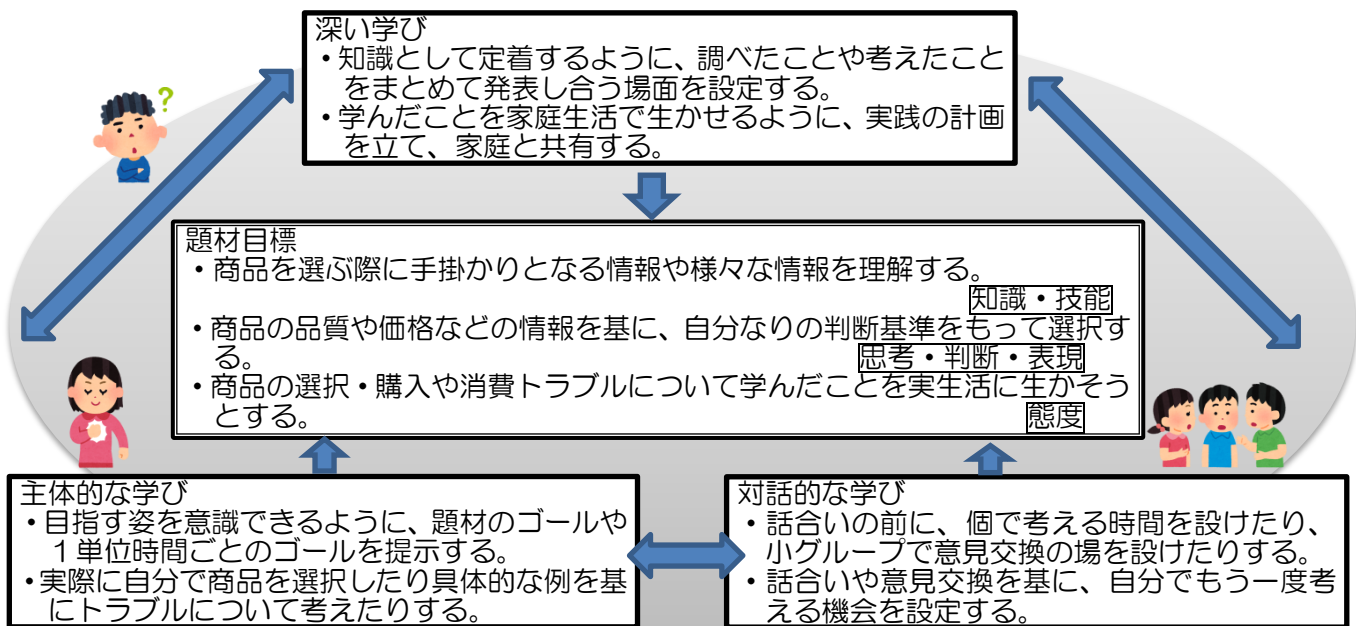
◆生徒（保護者）の思い、願い
・卒業後は仕事をして、自立した生活を送りたい。
・将来の自立に向けて自分でできることを増やしてほしい。

◆教師の願い（育てたい力） 個別の支援計画より
・自分のことは自分でできるようになってほしい。
・社会生活に必要な知識・技能・態度を身につけてほしい。

本題材の概要
・これまで、家庭の中で、家族が担っている役割や家事について学習してきた。本題材では、消費生活について取り上げ、商品の選択・購入の際に必要な知識や技能、実践的な力を身に付けることをねらいとしている。
・実際にそれぞれの家庭で商品購入の際にどんなことに気を付けているかなどをアンケートや聞き取りを行いながら学習したことを今後の生活で実践できるようにしていきたい。

対象生徒	高等部1年 家庭科1グループ	指導の形態	家庭科	
題材名	「消費生活～賢く買い物をしよう～」	時数	9時間	
題材計画表				
小題材名	主な目標	期待する学び	学習活動内容	時数
身近なお金の使い道	・自分のこれまでの買い物を振り返り、消費生活に関心をもつ。	国	・物資やサービスとしての商品 ・これまでの買い物の経験の振り返り	1
賢く買い物をするために	・商品を選択・購入する際にどんなことに気を付けるかを考える。	国 国	・商品の選択に必要な情報と自分なりの判断基準	4
こんなときどうする？	・購入時のトラブルへの対応と予防の方法を考える。	国 国 国	・購入時のトラブルについて	1
家庭で実践しよう	・これまでの学習を生かし、商品を選択する。	国 国	・家庭での実践計画の立案 ・実践の発表	3

目標達成に向けての支援



高等部2年1グループ「健康に暮らす～日々の食事を通して～」 ※ミニ授業研究会

1 題材（単元）の目標と授業の概要

◇題材の目標	
(1) 食材や食品に含まれる栄養素の種類やその働きを理解し、自分の健康のために適切な食事の取り方が分かる。 知・技 (2) 普段の自分の食生活や自分の健康状態から自分に必要な栄養素や食事の取り方を考える。 思・判・表 (3) 健康や栄養の面から地域の食材や食文化を生かした1食分の献立を考えて調理したり、家庭で実践したりする。 態度	
◇題材の概要	
本題材では、生徒たちが健康で生活するために必要な食事の役割や食品の栄養などの基本的な知識を理解し、日々の食生活と自分の健康を結び付けて考えられるようになることをねらいとする。さらに、自分たちの住む地域の食文化も健康と結び付いていることを知ったり、学んだ知識を日常の食事で考えたりすることができるように、身近な食事である給食や普段の家庭での献立も授業で扱う。	
☆想定される学びを生かす場面と期待される姿	
学びを生かす場面 ・家庭や学校での食事場面 ・自分で調理計画を立てる場面	期待される姿 ・栄養バランスがとれた食事の取り方や自分に必要だと思う栄養素が分かり、摂取しようとする。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの手立て

◇主体的な学び

- ・栄養素と食材について結び付けて考えられるように食材カードを使用する。
- ・普段の食事と結び付けて考えられるように給食の献立や家庭での献立を取り上げる。

◇対話的な学び

- ・調理実習で協力してスムーズにできるように、話し合いによる役割分担決め。

◇深い学び

- ・既習事項を踏まえた課題設定や学習したことを踏まえた家庭での調理計画と調理。



(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題・生徒の変容等
◇主な活動 ・給食の写真から共通点を見付け、バランスのよい食事が分かり、自分が食べた前日の夕飯を自己評価する。 ◇成果（○）と課題（●） ○生徒から出た一つの疑問を生徒全員で共有し考えることができた。 ●生徒同士で話し合いや意見交換が活発にできるような学習活動の検討。	◇前回からの主な改善点 ・生徒同士で意見交換が活発にできるように、友達の考えた献立を見合って栄養やバランスの観点から評価したり感想を伝えたりする活動の設定。 ◇成果（○）と課題（●） ○献立を並べて掲示し見合ったことで、学習したことを基に生徒同士で意見交換しながら評価することができていた。 ●活動量や情報量の精選。
☆生徒の変容等 ・普段の食事で摂取している食材や食品を振り返り、献立の構成や栄養について学習したことで、自分の体に必要な栄養素が多く含まれる食材を摂取しようとするようになってきた。	

4 所感

食材や食品の栄養やバランスのよい食事について基本を押さえた上で、自分たちでバランスのよい献立を考えたり、よこて発酵文化研究所の方を講師に招いて地域の食材や食文化のよさについて話を伺ったりした。自分なりの健康ポイントを考えて家庭での調理にも取り組み、「今度作るときは○○（食材名）も足したい」など栄養やバランスを意識するようになってきた。

高等部3年1グループ「よりよい暮らしのために①～余暇の過ごし方～」※ミニ授業研究会

1 題材（単元）の目標と授業の概要

◇題材の目標 (1) 時間や金銭を有効に使うことが卒業後の豊かな生活につながる事が分かり、自分で時間や予算をやりくりして校外学習の計画を立てる。 【知 技】 (2) 現在の自分の生活とこれから自分の希望する生活を比較し、今から自分が取り組みそうなことについて考える。 【思 判 表】 (3) 卒業後の生活をシミュレーションし、これからの家庭生活で実践しようとする。 【態度】	
◇題材の概要 本題材では、自分たちで時刻表や運賃を調べて目的地に行くこと、予算内で昼食を購入し友達と一緒に食事を楽しむことを通して計画的な消費や余暇の有効な過ごし方を身に付けることをねらいとしている。また、時刻を調べる際にアプリを活用する方法についても確認し、これからの生活に生かせるようにしたい。	
☆想定される学びを生かす場面と期待される姿	
<ul style="list-style-type: none"> ・学びを生かす場面 ・休日 ・卒業後の余暇場面 	<ul style="list-style-type: none"> ・期待される姿 ・卒業後のお金の使い方や時間の有効な使い方について自分の考えをまとめる。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの手立て

◇主体的な学び

- ・目指す姿を意識できるように、題材のゴールや1単位時間ごとのゴールを提示する。
- ・実生活に生かすことができ、自分たちで解決したいと思えるような発問の工夫をする。

◇対話的な学び

- ・話し合いに参加できるように、個で考える時間を設けたり、意見交換の場を設けたりする。
- ・共通している事柄や違った考えが分かるように、出された意見を視覚化する。

◇深い学び

- ・学んだことを生かせるように、学習したことを家庭に伝えたり、家族にアンケートをとって家族のニーズを参考に授業を構成したりする。

(2) 授業実践の内容

提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題・生徒の変容等
◇主な活動 ・路線バスと電車を使った場合の時間や運賃を調べる。 ◇成果（○）と課題（●） ○個々で考える時間の確保 自分なりの考えをもつための情報の整理 ●路線図の活用の仕方 個に応じた移動方法の調べ方	◇前回からの主な改善点 ・自分に合った方法での移動方法調べ（PCやスマホアプリの活用） ◇成果（○）と課題（●） ○生徒が自分で課題に気付く導入 前回の授業内容を生かした授業設定 ●課題内容の整理 情報を得るツールの使い方とスキルアップ
☆生徒の変容等 ・自分たちで計画を立て校外学習へ行き、さらに休日の過ごし方について考える学習を設定したことで、友達同士で計画を立てて余暇を過ごすなど、余暇活動の幅が広がった。	

4 所感

校外学習の移動方法を考え、交通費や移動時間などから自分に合った移動方法を考えた。自分たちで考えた方法で実際に校外学習に行ったことで、友達と移動する楽しさや自分で公共交通機関を使って移動できることが分かり、休日の過ごし方の変化が見られるようになった。ICT活用に関する生徒の実態を把握し、個に応じた準備が整うとより効果的に指導できると思った。

高等部3年2グループ「元気になる昼ごはんを考えよう」※全校授業研究会提示授業

1 題材（単元）の目標と授業の概要

◇題材の目標	
(1) 食品は体内での働きによって三つのグループに分けられることが分かり、健康のためにはそれらを組み合わせて食べる必要があることを理解する。 【知 技】 (2) 三つのグループの食品がバランスよく含まれるようにコンビニの食品を選択したり、弁当のおかずを組み合わせる。 【思判表】 (3) バランスを考えて家族と一緒に弁当を詰めたり、自分で昼食を購入したりしようとする。 【態 度】	
◇題材の概要	
本題材では、自分の食べる物と健康に関心を持ち、三つの食品グループの視点でバランスよく食品を選択できるようにすることをねらいとしている。卒業後の自分の昼食をイメージし、コンビニの食品を選んだり、弁当のおかずを選んで組み合わせたりする活動を設定した。これらの活動や夏季休業中の実践を通して、卒業後に自ら昼食を考え用意する姿につなげていきたい。	
☆想定される学びを生かす場面と期待される姿	
学びを生かす場面 ・休日の家庭生活 ・夏季休業中、後期実習中の家庭生活	期待される姿 三つのグループの食品がバランスよく含まれるように弁当のおかずを組み合わせる。

2 授業実践について

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの手立て

◇主体的な学び

- ・三つの食品グループの分類に毎時間取り組み、知識の定着を図る。
- ・家庭科通信を通して学習のねらいや成果を家庭と共有する。

◇対話的な学び

- ・自分の考えを言葉だけでなく具体物の操作を通して友達に伝えられるようなツールを用意する。
- ・自分の考えと他者の考えを比較しやすいようにそれぞれの考えを視覚化する。

◇深い学び

- ・身に付けた知識を実際の場面で生かすことができるように、コンビニでの品物の選択や、弁当のおかず選びなどの場面を想定した学習活動を設定する。

(2) 授業実践の内容


提示授業（1回目）の成果・課題・改善案	改善授業（2回目）の成果と課題・生徒の変容等
◇主な活動 ・バランスを考えながらおかずの模型を選んで弁当箱に詰める。 ◇成果（○）と課題（●） ○生徒主体で学習の準備を行う流れ 可視化できる教材の準備 ●1日を通して食事のバランスを考える視点 「元気になる」という言葉の意味のとらえ方	◇前回からの主な改善点 ・身近な人の食事の例をもとに、1日を通して食事のバランスを考える視点を提示した。 ◇成果（○）と課題（●） ○三つの食品グループの知識を生かした実践 ●生徒の思考を深める発問 知識を応用する活動の設定
☆生徒の変容等 ・以前は主食と主菜のみであった弁当に、野菜が入るようになった。 ・実習中や長期休業中の弁当を、バランスに気を付けながら自分で用意するようになった。	


4 所感

生徒が自信をもって主体的に学習に取り組めるように、三つの食品グループの考え方にポイントを絞り、繰り返し学習したことで知識の定着を図ることができた。一方で知識を活用する学習活動では、限定的な場面の中で思考する活動が多かったため、様々な場面で知識を応用できるように、生徒主体で試行錯誤する学習活動の設定や発問の仕方を検討していく必要があると感じた。


◇単元構想図

◆**学校教育目標**◆
一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

☆めざす児童生徒像☆
健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒 

◆**生徒（保護者）の思い、願い** 

- ・家庭で生活しながら事業所に通って働きたい。
- ・自分でできることを増やしてほしい。（保護者）

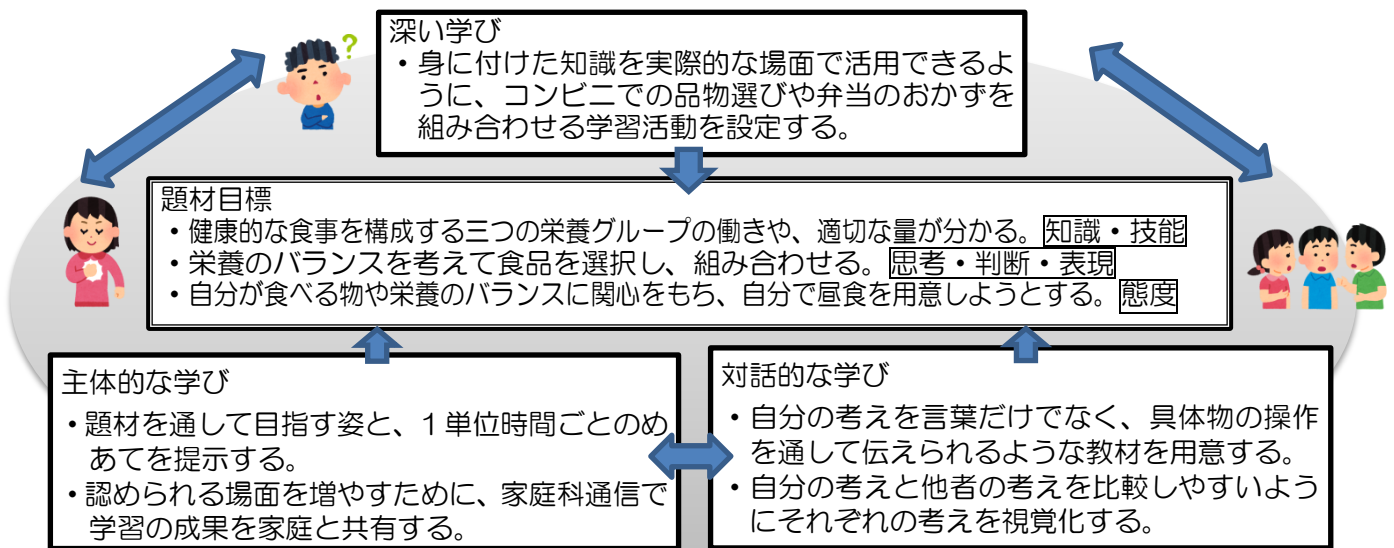
◆**教師の願い（育てたい力）** 個別の支援計画より 

- ・食事の栄養バランスや適切な量が分かり、自分で食べるものを選択できるようになってほしい。

本題材の概要
これまでの学習では、食事の役割について学んだり、簡単なみそ汁の調理実習を行ったりしてきた。本題材では卒業後の生活を考え、昼食の用意を通して適切な食事の量や栄養のバランスを学べるようにする。また、弁当の用意を通して炊飯の正しい手順や電子レンジの使い方も併せて学習する。

対象生徒	高学部3年 家庭科2グループ	指導の形態	家庭科	
題材名	「元気になる昼ごはんを考えよう」	時数	10時間	
題材計画表				
小題材名	主な目標	期待する学び	学習活動内容	時数
「食事と健康」	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な食事に必要な三つの食品グループの働きと適切な食事の量が分かる。 ・身近な食品を三つのグループに分類できるようになる。 	主 対	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の昼食を振り返り、健康的な食事の量と栄養のバランスについて考える。 ・身近な食品を三つのグループに分類する。 	3
「用意しよう①～コンビニ編～」	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスを考えてコンビニにある食品から昼食を選ぶ。 	主 対 深	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニにある食品の中から自分の昼食を選択する。 	2
「用意しよう②～弁当編～」	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスを考えて弁当のおかずを選択し、弁当箱に詰める。 ・炊飯器や電子レンジを正しく使えるようになる。 	主 対 深	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のおかずや冷凍食品、野菜などを選んで組み合わせる。 ・おかずを詰めるときのポイントを考える。 ・米の炊飯、冷凍食品の調理を行う。 	3
「家庭で実践しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・取組をグループで共有し次の実践に向けて意欲をもつ。 	主 深	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に自分で昼食を買ったり弁当作りをしたりして振り返る。 	2

目標達成に向けての支援



7 成果と課題

(1) 成果

①主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくりを通じて

7月の全校研以降、対話的な学びを単純な話し合い活動と捉えるのではなく、具体物の操作を介した学び合いが各授業の核として考えられるようになった。知識や技能をより実際場面で活用することを想定した取組が進んできている。一例として、スマートフォンやタブレット端末を活用した外出計画を立案する学習や、消費生活に関する学習で、実際の商品を比較し、どのような観点で購入するか考える学習が展開された。

以上のように、学習グループ内で具体物を操作する活動を通して、自ら考えたり、友達と意見をやりとりしたりして、学びを深めていく活動を中心に据える授業づくりが進んできている。加えて、まとめの場面も書いたり、発表したりすることに偏らず、本時に学んだ知識を基に、判断や表現する活動を展開することで、より実際的な学習のまとめを目指す授業も増えてきている。

また、「一人でやってみて→みんなで考えて→自分のものにする」という授業構成については、まず自分で学習テーマについて考えるきっかけとなる発問からスタートすることで、生徒の探求心を高める。そして、友達と学び合うことで新たな見識を得たり、考えを深めたりして、学んだことを自分の知識・技能として獲得することを目指す授業が定着しつつある。

②生徒が学びを生かす場面を明らかにした授業づくりを通じて

今年度の研究では、指導計画や学習指導案に生徒が学びを生かす場面を明確にした。このことで、生徒がどのような知識・技能を身に付け、それをどのような場面で発揮するかを具体的に想定した授業づくりができた。また、実際に家庭で学びを生かす活動に取り組む際も、生徒や家族にとって分かりやすい課題設定ができた。

一例を挙げると、家庭での昼食作りに取り組んだ学習グループでは栄養バランスのとれた食事作りを理解することを主眼においた。栄養バランスの指導では五大栄養素や献立、食事量など指導内容が多岐に渡るが、フェイスシートで生徒の実態や家庭環境を考慮した上で、家庭でどのように食事作りに取り組むことができるかを具体的に想定した。結果、三つの食品グループと量のバランスにテーマを絞った学習を学校で行うことで、それを生かした食事作りに家庭で取り組むことができるようになった。

上記のことから、生徒が生活の様々な場面で学びを生かすためには、学びを生かす場面をまず明確にした上で、各場面において生徒が学びを生かすための条件を整理するとともに、生徒の実態に応じて獲得を目指す知識・技能をクローズアップすることが有効であると考えられる。

(2) 課題

①本校高等部における「家庭科のスタンダード」の考案

前述のとおり、本校高等部は家庭科を設置してから3年目を迎える。この3年間で、様々な実践が行われてきた一方、学年間や学習グループ間での指導内容やねらい等の整理、授業づくりにおける手立てや教材等で成果のあったものの共有が必要と考える。家庭科指導内容チェック表やこれまでの家庭科の年間指導計画を整理し、系統性や連続性のある3年間を貫く家庭科の学習の在り方を探っていきたい。例えば、1年生で家庭内での役割を自覚し、2年生でその役割の定着、3年生では社会人としての家庭内の役割を担うといった、同様の題材を扱うにしても発展性が見出せる3年間の計画の必要性を感じる。このような家庭科のスタンダードを考案していきたい。

また、具体物の操作を介した学び合いなど、これまでの授業研究会での成果をまとめ、「横手のスタンダード」にも反映させたい。

②家庭科の学習に係る各種様式の見直しや再編の見直し

家庭科指導内容チェック表については、新学習指導要領に対応したものに更新し、様式もよりシンプルで見やすいものに改訂する予定である。

また、キャリアノートはこれまで職業科を中心とした内容のものが作成されていたが、それに家庭科を中心に取り上げる内容を加えて「キャリアガイド(仮称)」として再編する。これには、生徒にとって学んだことを蓄積するものであると同時に、生活のガイドブックのような役割も付与する。学校と家族にとっては評価や共通理解のツールとして、加えて、本人にとって高等部卒業後の生活に向けて期待や見直しをもつためのツールとなるように再編したい。また、目次等を生徒にとって3年間の学習の見直しをもつためのツールとする一方で、職員にとっても先に述べた「家庭科のスタンダード」として活用し、年間指導計画の作成に活用できるようなものを想定したい。

風の翼版『キャリアガイド』～1年：家庭生活編～				風の翼版『キャリアガイド』～2年：家庭生活編～				風の翼版『キャリアガイド』～3年：家庭生活編～			
ページ	テーマ	学習のポイント	チェック	ページ	テーマ	学習のポイント	チェック	ページ	テーマ	学習のポイント	チェック
	○家族の役割	・家庭にある「仕事」 ・やってみよう ～家の中の「自分の仕事」			○家族と自分	・いろいろな家族の形 ・考えてみよう ～家族の中の自分の立場とその変化			○衣服の管理	・衣服を風持ちさせる方法 ・「クリーニング」を使ってみよう	
	○家庭の食事 入門編	・食べ物の栄養素とそのはたらき ・考えてみよう ～食事の栄養バランス			○共に生きる ～いろいろな人との関わり	・高齢者や障害者との関わり方 ・考えてみよう ～安心できる関わり方			○家族のための調理	・予算や分量に応じた買い物 ・楽しく食べよう	
	○家庭の掃除 入門編	・なぜ掃除が必要なの？ ・掃除道具や洗剤の正しい使い方 ・やってみよう ～場所に合わせて掃除の仕方			○家庭生活と消費	・計画的なお金の使い方 ・やってみよう ～日用品の選択のポイント ・いろいろな買い物方、支払い方			○家庭生活と消費	・計画的なお金の使い方 ・やってみよう ～日用品の選択のポイント ・いろいろな買い物方、支払い方	
	○家庭の洗濯 入門編	・洗剤しないときどうなる？ ・やってみよう ～洗濯機や洗剤の正しい使い方 ・考えてみよう ～素材や汚れに合わせて洗濯の仕方			○健康的な食生活	・主食、主菜、副菜とは？ ・考えてみよう ～一日に必要な食事の量は？ ・考えてみよう ～一日に必要な食事の量は？			○健康的な食生活	・主食、主菜、副菜とは？ ・考えてみよう ～一日に必要な食事の量は？ ・考えてみよう ～一日に必要な食事の量は？	
	○家庭の買い物 入門編	・買い物をするときのポイントって？ ・消費トラブルの防止と対応 ・やってみよう ～自分の買い物のポイントって？			○自分らしく暮らす	・「季節感のある服装」って？ ・「TPOに合わせた服装」って？ ・衣服の正しい保管方法			○茶類のすし方	・考えてみよう ～自分の好きなこと・趣味 ・休日のすし方 ～公共交通機関を使って出かけよう ・訪ね先、茶室のマナー	
	○食事とバランス	・考えてみよう ～栄養バランスのよいメニュー ・いろいろな調理方法 ・やってみよう ～バランスのよい食事			○住まいと安全	・考えてみよう ～災害時の正しい行動の仕方 ・やってみよう ～災害などへの備え			○共に生きる ～いろいろな人との関わり	・幼児の生活 ・幼児とのかかわり方 ・やってみよう ～幼児との遊びやふれあい	
	○家庭の裁縫 入門編	・裁縫道具の正しい使い方 ・やってみよう ～縫い方、縫め方、ボタン付け ・上手な「縫い」のとり方 ・やってみよう ～レシドを考えると調理			○ミシンにチャレンジ	・ミシンの正しい使い方 ・やってみよう ～簡単な小物づくり			○生活のためのお金の使い方	・生活にかかるお金は？ ・給料の正しい使い方 ・考えてみよう ～貯金のメリット ・カードの種類と使い方 ・やってみよう ～1か月の収支を考える	
	○1年生のまとめ	・まとめよう ～自分のレベルアップポイント			○2年生のまとめ	・まとめよう ～自分の暮らしの希望			○高等部のまとめ	・まとめよう ～卒業後の自分の生活	

キャリアガイド(仮称) 家庭生活編目次(案)

參考資料

目標のステップアップシート

対象児童	小学部2年	単元名	あきが いっぱい				時数	10時間
単元目標		(1) 秋の草花や生き物に関心を持ち、それらを見付けたり、気付いたことを伝えたりする。		思考・判断・表現				
		(2) 木の実、落ち葉などの材料を使い、色や形を楽しみながら制作活動をする。		知識・技能				
		(3) 友達の様子を見てやることに気付き、まねたり工夫したりして、一緒に活動する。		態度				
月日	9/18 (水) ⑤	9/25 (水) ⑤ 9/27 (金) ⑤	10/16 (水) ⑤ 10/18 (金) ⑤	11/1 (金) ⑤ 11/6 (水) ⑤	11/20 (水) ⑤ 11/27 (水) ④	11/29 (金) ⑤	次の単元 ふゆも げんきに	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 秋の果物の名前 ブドウの味見 ブドウの壁面制作 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 学校周辺の散策 (ドングリの採取) 簡単制作遊び 秋の歌 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 学校周辺の散策 (松ぼっくりの採集) 簡単制作遊び 秋の歌 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 学校周辺の散策 (落ち葉の採集) 簡単制作遊び 秋の歌 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 木の実、落ち葉などを使った制作活動 秋の歌 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の絵本の読み聞かせ 秋の壁面制作 秋の歌 いろいろな秋の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の絵本の読み聞かせ クリスマスの飾り作り 県南の祭り 簡単制作遊び 冬の壁面制作 冬の歌 	
本時の主目標と評価	<ul style="list-style-type: none"> 秋の味覚を味わう。(○) 秋の果物が分かり、色や形を考えて作品を作る。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> ドングリの絵本に注目して見聞きし、ドングリに関心をもって探したり拾ったりする。(○) ドングリの色や形を楽しみながら、教師をまねて制作遊びをする。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 松ぼっくりの絵本に注目して見聞きし、松ぼっくりに関心をもって拾ったり友達や教師にまねたり見せたりする。(○) 松ぼっくりの色や形を楽しみながら、教師や友達をまねて制作遊びをする。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉の絵本に注目して見聞きし、紅葉した葉や落ち葉に関心をもって探したり、葉に気付いて友達や教師に伝えたりする。(○) 落ち葉の色や形に注目しながら、教師や友達をまねたり考えたりして、制作遊びをする。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたこと、楽しいことなどを言葉や身振りで教師や友達に伝えながら活動する。(○) 作りたい物をイメージし、友達を見てまねたり工夫したりして、制作活動をする。(○) 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたこと、楽しかったことなどを言葉や身振りで教師や友達に伝えたり、発表したりする。(○) 友達の様子を見て、まねたり工夫したりして、みんなと一緒に活動をする。(○) 	学級の友達、担任、地域の友達とやりとりしながら	
有効だった手立て	<ul style="list-style-type: none"> 実物のブドウを見たり、試食したりする。 ブドウの粒を見て、形を確認する。 実物のブドウの色を見て、様々な色から色を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ドングリの絵本の読み聞かせをしてから散策する。 つまんで入れるなど、できる活動を取り入れる。 マラカスを作り、まとめて身近な歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 松ぼっくりの絵本の読み聞かせをしてから散策する。 絵本と実物を見比べる。 簡単にできて、すぐ遊べるおもちゃ(けん玉)を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち葉の絵本の読み聞かせをしてから散策する。 実物と色カードの対応。 絵本と実物を見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本と同じ形のお面の台紙を準備し、イメージをもって作った。 作るお面のイラストカードを個々に配付した。 鏡を使ったことで友達との自然なやりとりが増えた。 絵本や音楽を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小单元ごとに制作したおもちゃなどを使って遊び、学習を振り返る。 授業のまとめで、次单元につながる絵本の読み聞かせをする。(秋から冬になっていく内容で、雪が降ってくるお話) 		
課題			<ul style="list-style-type: none"> 初めて見たり触れたりする物への抵抗感 	<ul style="list-style-type: none"> 作る物のイメージをもつ 参観者が気になる児童 	<ul style="list-style-type: none"> めあてのめあせ方 			
学びを発揮すると想定される(発揮してほしい) 他の場面		予想される学びを発揮する姿(教師が見取る姿)			学びを発揮している姿(エピソード記録)			
日常生活		<ul style="list-style-type: none"> 友達の様子を見てやるのが分かり、集団の中で一緒に活動する。 友達の誘いに気付いたり、受け入れたりして仲良く活動する。 天気の変化や季節の変化などに気付き、身近な人に簡単な言葉や身振りなどで伝える。 			<ul style="list-style-type: none"> 友達の様子を見て、次の活動への準備をしていることに気付き、自分から移動の準備をした。 友達に「一緒に遊ぼう」と言われて、近くに来たり、やりとりをして一緒に遊んだりした。 高等部への移動時に、「先生、葉っぱ、いっぱいだね」と地面に落ちている落ち葉に気付いて指を差し、言葉で伝えた。 雨から晴れに変わった天気の変化に気付き、「おひさま」とみんなに伝え、黒板の天気カードを貼り替えた。 			
遊びの指導		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな遊びに気付いたり、友達と同じ場所で遊んだりする。 友達の様子を見て遊び方が分かり、まねたり工夫したりして遊ぼうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> なかよしあそびで、友達が遊んでいる近くに来て様子を見たり、興味を持って玩具に触れたりした。 なかよしあそびで、友達をまねておぼけコーナーに入ったり、おいしゃさんごっこをしたりした。 			
国語		<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせで、知っている事物を見付けて指さしや言葉で伝える。 絵本の読み聞かせや教師の話に注目したり、自分の気持ちや考えを言葉や身振りなどで伝えたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせで絵を見て「ドングリ」と指さして言った。 絵本に出てくるものの名前や色を言った。 学級の図書コーナーから生単で学習内容に関連する絵本を自分で持ってきて、自分で見たり友達を誘って一緒に見たりしていた。 学級の図書コーナーで冬に関する絵本を見付け、「雪だね」「やりたいね」と言って見ている。 			
音楽		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな音や歌に出てくる特徴的な言葉に気付き、じっくり聴いたりまねて発声したりする。 季節の歌を覚え、友達と一緒に楽しく歌う。 			<ul style="list-style-type: none"> 落ち葉の絵本を見て「まっかな秋」を口ずさんだ。 「どんぐり」の言葉を聞いて、「どんぐりころころ」の歌を口ずさんだ。 音楽の授業で、新しい歌に興味をもって聴いたり、一部分をまねて楽しく歌ったりした。 			



「なりたい自分シート」

3年1組

A

【日常生活の指導】 ・ みんなに聞こえるような声であいさつする。(笑顔で) ・ 100点、毎日できたから		【生活単元学習】 ・ 読み聞かせのときにみんながにこにこしてくれるような本を選ぶ ・ 100点、よろこんでくれたから		【作業学習】 ・ お客さんがよろこんでくれるいい製品を作る ・ 100点、よい製品ができたから	
【国語】 ① ていねいに字を書けるようになる ② もっとすらすら言う ① 10点、美文字で練習してがんばっているから ② 100点、すらすら言えるようになったから		<h2>笑顔でやさしい 保育士になりたいです</h2>		【数学】 ・ わり算やかけ算をおぼえたい ・ 10点、少ししかおぼえていないから	
【音楽】 ・ おんがくにのってうたう ・ 100点、みんなとえがおでうたえたから	【体育】 ・ 元気に体をうごかす ・ 100点、ランランタイムで走ることとダンスをおどったから			【美術】 ・ 色と色がまざらないようにていねいにぬる ・ 90点、少しだけまざってしまったけどじょうずにできました	【自立活動】 ③ 物を大切にみつかう 【道徳】 ④ 家族を大切にする ③ 100点、みつかうことができたから ④ 100点、おこらないで大切にできたから



「なりたい自分シート」(後期版)

中学部3年1組

A

<ul style="list-style-type: none">・色と色がまざらないように ていねいにぬる <p>【 美術 】</p>	<ul style="list-style-type: none">・イライラしてもおこらない <p>【活単元学習】</p>	<ul style="list-style-type: none">・友達やこうはいに話しかける <p>【日常・自立】</p>
<ul style="list-style-type: none">・高等部生にむけて きれいな字を書けるようになる <p>【生単・国語】</p>	<p>すてきな高等部生に なりたい</p>	<ul style="list-style-type: none">・笑顔で学校にくる <p>【 数学 】</p>
<ul style="list-style-type: none">・「です」「ます」をつけて、 ていねいに話をする <p>【日常・国語】</p>		<ul style="list-style-type: none">・けがをしない・やすまない <p>【日常・体育】</p>

「なりたい自分シート」(後期版)

中学部1年4組 B



【学校】

【家庭】

人とのコミュニケーション能力をもっとつける。
(生活単元学習、
休み時間)

英語をペラペラ
話せるように
になりたい。(総合)

身だしなみを
もっときれいに
にしたい。
(朝起きてから)

タレントになって、
日本国民を
笑顔にしたい!

もっとあいさつを
がんばりたい。
(登下校、お客さん
に会った時)

いっぱい発言
する。
(生活単元学習、
国語、数学)

毎日、明るく
笑顔で過ごし
たい。

目標 [高等部] (家庭科) 明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。

(家庭)	家庭の役割	消費と余暇	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	家庭生活に関する事項	保育・家庭看護	
2 段 階	(1) 家庭の機能や家族の役割を理解し、楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。 1 2 3	(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。 1 2 3	(3) 家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し、安全や衛生に気を付けながら実習をする。 1 2 3	(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実践的な知識と技能を習得する。 1 2 3	(5) 保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 1 2 3	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りのこと 家庭生活の仕事の分担 ○ 家族の団らん 来客時の対応の仕方 礼儀正しい訪問の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 予算を立てる必要性の理解 計画的な預貯金 計画的な買い物 ○ 現金とクレジットカードの違い 家計の収入と支出 家庭の経済計画への協力 余暇の種類と過ごし方 	<被服、食物、住居で必要な器具の理解> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な使用方法 節水、節約 保守・点検 食品衛生や健康維持 漂白剤など消毒液の安全な取り扱い 	被服 <ul style="list-style-type: none"> 身体に合った衣服 クリーニング店利用 衣類の整理や保管方法 衣服の補修 ミシンを使った衣服の制作 食物 <ul style="list-style-type: none"> 一日に必要な食物・栄養 バランスのよい食事計画・調理 添加物 価格や鮮度を考えた材料 洗いや、切り方・味付けの仕方 盛り付けなど準備や片付け 住居 <ul style="list-style-type: none"> ゴミを減らす工夫 手順を考えた掃除 防犯ベルや火災報知器などの取扱い 地震、台風、洪水などでの行動 リサイクルの基礎知識 修理や修繕の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の発達を理解した触れ合いや関わり 疾病の症状や健康の回復の過程の理解 高齢者のリハビリテーション 食事や排泄、移動などの家庭介護 	
	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	
	1 段 階	(1) 家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。	(2) 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。	(3) 家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全・衛生に気を付けながら実習をする。	(4) 被服、食物、住居などに関する実習を通して、実践的な知識と技能を習得する。	(5) 保育や家庭看護などに関心をもつ。
		<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの処理 ○ 家族の一員としての仕事 ○ 家族の心情を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 生活用品を知る・理解する 現金の範囲内で買う 生 カード利用の仕方 レシート・領収書の読み取り 家計簿の記録 親戚や友達の家を訪問する 	<被服、食物、住居で必要な器具の理解> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた選択 ○ 正しい使用方法 保管、手入れの仕方 故障等の対応 作業環境 	被服 <ul style="list-style-type: none"> 清潔な衣服 季節などに合わせた衣服 材料や汚れに応じた洗いや 布地に合わせたアイロン仕上げ まつり縫いや返し縫い ミシンを使った小物制作 食物 <ul style="list-style-type: none"> 栄養素や働きの組み合わせ ○ 製造年月日など新鮮な食材選び 冷蔵庫・冷凍庫の使い方 簡単な調理計画 献立に応じた買い物 食材の洗いや、切り方・加熱 適切な調味料の分量 盛り付け方 準備や後片付け 外食時のメニュー注文 食事の作法 住居 <ul style="list-style-type: none"> 整理・整とん ○ 住まいの手入れ 換気や照明の仕方 日 室内の飾り付け ゴミの処理 掃除用洗剤、殺虫剤の使用法 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の生活や発達などへの興味・関心 高齢者への配慮
		<備考>	<備考>	<備考>	<備考>	<備考>

高等部 1年家庭科1G	令和元年10月17日 作成者：	<健康状態>
-------------	-----------------	--------

<p><心身機能・身体構造></p> <p>A：自分の考えを出したり、意見を出したりすることを苦手としている。</p> <p>B：自分の意見をもっているが、周りに流されてしまうことがある。</p> <p>C：思いついたことをすぐ口に出したり、否定的な言葉を言ってしまうたりする。</p> <p>D：自分の考えを文章にすることを苦手としている。</p> <p>E：間違ふことや失敗することを嫌がり、落ち込むことがある。</p> <p>F：集団の学習に参加することを苦手としている。</p> <p>G：集団の場で人前に出たり自分の意見を話したりすることを苦手としている。</p>	<p><活動>条件・制約 ～することで ～があれば</p> <p>A：選択肢を出したり、事前に意見を確認して後押しをしたりする。</p> <p>B：個人で考える時間を設定し、自分の意見をワークシートに記入する。</p> <p>C：個人で考える時間を設定し、自分の意見をワークシートに記入してから発表する。</p> <p>D：選択肢を用意して選んだり、箇条書きで記入したりする。</p> <p>E：正解や間違いのない自分の意見を発表する場面を設定したり、発表前に内容を聞いたりする。</p> <p>F：机の位置を後ろの端にする。事前に学習の流れを伝え、見通しをもてるようにする。</p> <p>G：小グループでの意見交換の場を設定したり、発表の成功場面を多く積み重ねたりする。</p>	<p><活動>できる</p> <p>A：自分で商品を選び、自信をもって発表することができる。</p> <p>B：自分で考えて商品を選ぶことができる。</p> <p>C：商品を選び、その理由を整理して発表することができる。</p> <p>D：自分が商品を選択した理由を記入しまとめることができる。</p> <p>E：自分の選んだ商品について、選んだ理由を発表することができる。</p> <p>F：授業に参加して、商品を選ぶことができる。</p> <p>G：商品を選んだ理由を自分から発表することができる。</p>	<p><目指す姿></p> <p>商品の情報を基に購入したい商品を選択する。</p> <p>A：商品の情報を基に自分が欲しい物を選ぶ。</p> <p>B：商品の情報と自分の好みや用途を踏まえて商品を選ぶ。</p> <p>C：商品の情報と自分の好みや用途を踏まえて商品を選ぶ。</p> <p>D：商品の情報と自分の好みや用途を踏まえて商品を選ぶ。</p> <p>E：商品の情報を基に自分が欲しい物を選ぶ。</p> <p>F：商品の情報を基に自分が欲しい物を選ぶ。</p> <p>G：商品の情報と自分の好みや用途を踏まえて商品を選ぶ。</p>
---	---	---	---

<p><環境因子(物的・人的環境)></p> <p>家庭生活の様子(買い物について)</p> <p>A：一人で買い物をする機会は少ないが、家族で外出した際に、お菓子などを買うことがある。</p> <p>B：買い物の機会は少ないが、旅行に行った際にお土産を購入することがある。</p> <p>C：買い物が一人でできる。自由になるお金をもらおうと、無駄遣いをしてしまうことがあった。お金について友達とトラブルになったことがある。</p> <p>D：お菓子や飲み物など自分で購入することがある。</p> <p>E：家庭では家族と買い物に出かけることはあるが、自分で商品を購入する機会は少ない。</p> <p>F：店やネット通販で商品を購入することがある。</p> <p>G：服やバッグなど自分の使う物を選んで購入することがある。</p>	<p><個人因子(性格、趣味、特技)></p> <p>A：教師との会話を好み自分から話題を振って会話を楽しもうとする。友達に自分から話しかけることは少ない。</p> <p>B：友達に優しく接することができる。友達の行動をよく見て、相手の立場に立った助言ができることがある。</p> <p>C：友達や教師と日常会話を楽しめる。人や物への対応が雑なときがある。</p> <p>D：みんなと一緒に活動することを楽しみにしている。自分から仲間に話しかけたり、一緒に行動したりする。</p> <p>E：自分の好きな話題で会話を楽しむことができる。思いついたことをすぐ口にしてしまうことがある。</p> <p>F：野球やアニメなど興味のある話題で教師や友達と会話を楽しむことができる。騒がしい場や集団の場が苦手ですその場を離れることがある。</p> <p>G：大人しい性格で、自分からコミュニケーションをとることを苦手としているが、仲良くなった友達とは関わりを楽しんでいる。</p>
---	---

<p><環境の工夫></p> <p>指導案上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物や写真などを提示する。 ・ 個人で考えた後に、小グループで意見交換を行い、その後もう一度個人で考える時間を設定する。 ・ 学んだことを家庭で実践できるように、家庭と共有したり、家庭での実践計画を立てたりする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">資料6</div>
---	---

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する。

めざす学校像

- ・あいさつが響き合う 笑顔のあふれる学校
- ・多様な教育的ニーズに応じて 一人一人の力を伸ばす学校
- ・地域に信頼され 地域に貢献できる学校

めざす児童生徒像

- ①明るく 健康で 心豊かな明るい児童生徒
- ②仲良く 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
- ③元気よく 自ら意欲をもって働く児童生徒

学部の経営目標

	小学部	中学部	高等部
①	・生活していく上で必要な基本的な生活習慣を身に付け、生活や学習の支えとなる体力づくりに進んで取り組もうとする態度を育てる。	・健康で丈夫な身体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・自ら健康の保持・増進、体力の向上に努め、たくましく思いやりの心もち、豊かな表現力と主体的に物事に取り組もうとする態度を育てる。
②	・友達や身近な人、地域の人と関わりながら仲良く学習したり、集団活動をしたりする気持ちを育てる。	・友達を大切にし、協力し合って共に向上しようとする気持ちを育てる。	・高等部生徒としての自覚と責任感を持ち協力しながら最後まで物事をやり遂げる意欲と態度を育てる。また、相手の立場や考え方の違いを認め、互いに尊重し合い、他者への思いやりの気持ちをもって行動しようとする態度を育てる。
③	・学校や家庭、地域において、周囲の物事や課題に、興味・関心を持ち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。	・学校・家庭・地域社会において自分の役割が分かり、活動に力一杯取り組もうとする意欲と態度を育てる。	・卒業後の生活に向けて、働くことの意義と、家庭や職場、社会生活において果たすべき自分の役割を理解し、主体的に実生活の中で実行しようとする意欲と態度を育てる。

横手支援学校 キャリア教育の目標

児童生徒が生涯にわたり、役割を果たしながら生きていくために必要となる資質・能力の習得を通して、地域で自分らしく生き、自己実現を果たそうとする意欲や態度、価値観を育む。



学部のキャリア教育の重点

	小学部	中学部	高等部
役割を果たす	・係活動や当番活動、手伝いなどの役割を果たし、周囲の人や地域の役に立つ喜びを感じる児童の育成。	・学校・家庭・地域社会において、自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒の育成。	・学校・家庭・地域社会において自他が果たす役割の必要性と意義を理解し、主体的に役割を果たそうとする生徒の育成。
自分らしく生きる	・周りの人と関わりながら自分の好きなこと（人、物、遊び、活動）を見つけ進んで取り組もうとする児童の育成。	・自分のよさを認め、個性を伸ばし集団生活できる生徒の育成。	・自分や相手のよさを認め、他者と折り合いをつけながら、集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒の育成。
自己実現を果たす	・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げようとする児童の育成。	・自分で決めた目標に向かって、自分で課題を解決しようとする生徒の育成。	・知識と体験を結び付け学んだことを基に、卒業後の生活や仕事について、主体的に選択・決定するための知識や技能、態度を身に付けようとする生徒の育成。

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	啓発活動
・発達の段階に応じた指導内容の検証 ・キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・改善 ・ICT活用の促進	・個別の支援計画、個別の指導計画に関する個別面談 ・連絡帳での情報共有 ・進路研修会等の開催	・地域の教育資源を活用した教育活動 (居住地校交流、学校間交流、地域貢献活動等)	・療育、教育機関、障害者支援施設、理解協力事業所等との情報交換 ・卒業後支援の実施	・学校HP、学校展の活性化 ・進路指導部通信の発行 ・PTA研修会の実施 ・来てたんせウイークの実施

キャリア教育推進に関わる各分掌部の役割（校内組織づくり）

教務部	研究部	保健体育部	支援部	図書情報教育部	総務部	生徒指導部	進路指導部
・教育課程の編成と評価・改善 ・学部・学級経営案の作成 ・個別の支援計画、個別の指導計画等の作成 ・交流活動の渉外等	・ライフキャリアの視点による授業実践と授業改善 ・授業研究会、公開研究会、職員研修会の計画、実施	・保健、体育、安全、給食に配慮した学習等の計画、実施	・校内外の教育相談及び支援 ・特別支援教育の教育活動の広報活動 ・特別支援教育に関わる物的及び人的資源の提供	・学校ホームページの更新 ・ICT活用の推進 ・学校展の開催	・保護者との連携 ・PTA研修視察等の実施 ・学校報の発行	・児童生徒会の運営や集会の計画、実施 ・学校行事や委員会活動、集会活動における役割の明確化 ・自己有用感を高めたり、お互いのよさを認め合ったりできるような集団づくり	・進路指導部通信の発行や研修会の実施等による情報提供 ・外部関係機関との連携、情報交換による進路指導・支援 ・キャリアノートの作成

H27～28年度研究主題

ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成
～地域資源を活用した授業づくりを通して～

横手支援学校

授業づくりの基礎・基本

【横手のスタンダード】

児童生徒と教師が共に成長するために…

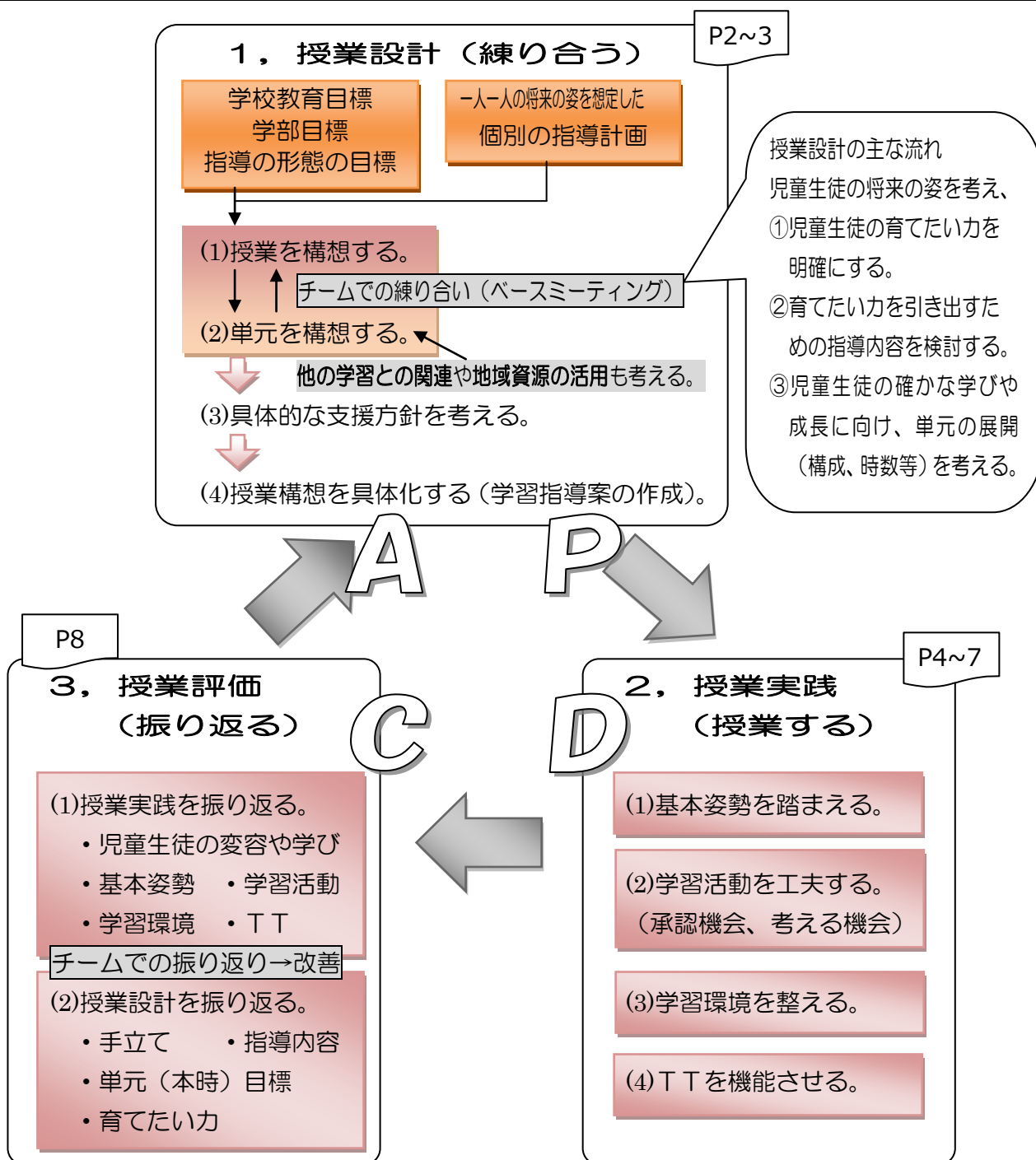


秋田県立横手支援学校

横手のスタンダード

☆この冊子には、①横手支援学校として、授業づくりにおいて大切にしたい点
②チームによる授業づくりを進めるヒント が書かれています。

◆単元スパンで「練り合う」→「授業する」→「振り返る」ことを基本とし、
チームによる授業づくりを大切にしましょう。



1 「練り合う」のスタンダード

授業改善COを活用！

－ ベースミーティングをしよう（授業者以外の教師も交えると効果的！）－

(1) 授業を構想する。

- ① 児童生徒の実態把握をする（「過去」→「現在」→「将来」の時間軸を意識して把握する）。
 - ・興味・関心、認知特性、対人関係スキル、社会性スキル、学習経験、既習事項等
 - ・本人や保護者の希望、家庭や地域での生活の様子等
 - ・今できていることや想定される将来の生活、社会的自立に向けて身に付けておきたい力
〔個別の支援計画、個別の指導計画〕
- ② 学校教育目標や学部の指導の重点、学習指導要領（各教科等における指導内容）を確認する。

◆学校教育目標◆

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして努力する児童生徒の育成

☆めざす児童生徒像☆

健康で、心豊かな明るい児童生徒 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒 自ら意欲をもって働く児童生徒

- ③ 横手支援学校キャリア教育全体計画と、その指導の重点を確認する。＊[資料1](#)
- ④ ①、②、③をすりあわせ、単元や授業で育みたい力、目指したい児童生徒の姿を明確にする。

「できる」「できない」という視点よりも「育てる」という視点を大切に！

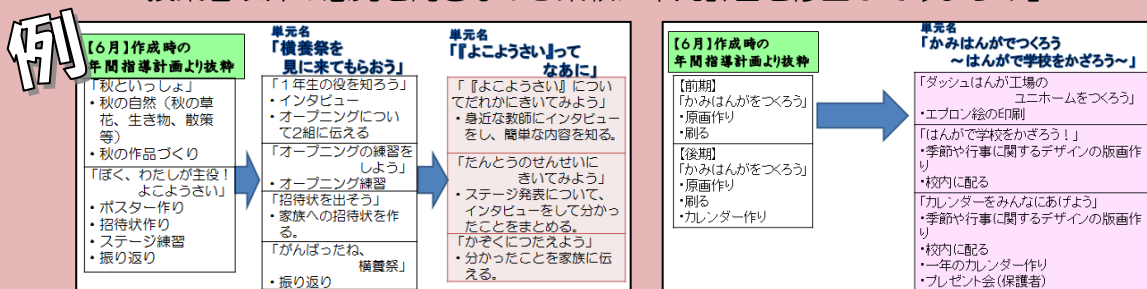
(2) 単元を構想する。

- ① 目指したい児童生徒の姿を引き出す指導内容（中心課題）を検討する。
- ② 児童生徒にとって分かりやすい流れを組む（指導内容を組織化）。
 - ・単元のクライマックス*1を検討する。
 - ・単元の時数を検討する。
- ③ 他の単元や指導の形態との関連も検討する（年間指導計画）。
- ④ 生活に結び付いたより具体的・実地的な学習活動を検討する（地域資源の活用）。

*1
児童生徒が単元のゴールとしてイメージし、最も盛り上がる学習内容を含んだもの。

児童生徒にとって、本単元の学習の意味や価値が感じられるように…

「授業者以外の意見を聞きながら柔軟に単元計画を修正してみよう！」



自閉的傾向を有する児童在籍学級の生活単元学習の修正例。
分かりやすく、見通しをもって学習に取り組めるように繰り返しの学習を設定している。

－ 授業プランをたてよう－

(3) 具体的な指導内容・支援方法を考える。〔ベースミーティングを踏まえて〕

- ① 児童生徒の思いや願い、興味・関心に基づいた単元となっている。
- ② 単元を通して育てたい力が明確になっている。
 - ・簡潔に本単元のねらいが話せる。

➡ 指導の形態の、**単元**において、**学習活動**を通して、**～の力や児童生徒の姿**を育てる。
また、～の力は、**将来の〇〇**につながる等。

- ③ 学校教育目標、学部の指導の重点、学習指導要領の内容を具現化したものとなっている。
- ④ ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」を意識したものとなっている。

授業の中で大切にしたいポイント

★学習の意味付け、価値付け、関連付け【ライフキャリアの視点：役割を果たす】

- ・児童生徒が**学習の必要性**を感じられる工夫がある。
- ・児童生徒が**学習のゴールや学習と将来との結び付き**を意識できる工夫がある。
- ・児童生徒が学習中に**学習のめあてを意識**できる工夫がある。
- ・少し難しく、**挑戦したい**と思える課題が設定されている。
- ・**学習のめあてとまとめのつながり**が見える工夫がある。

★承認機会【ライフキャリアの視点：自分らしく生きる】

- ・児童生徒が自分や周りを認める及び**認められる機会**が設定されている。

★考える機会【ライフキャリアの視点：自己実現を果たす】

- ・学習のめあてやまとめ、学習活動中に、児童生徒の**考える機会**が保障されている。
- ・児童生徒が考えたことを**表出する機会**が保障されている。

(4) 学習指導案を作る。

学習指導案・略案を作成する。＊**資料2**

- ・育てたい力、
- ・単元（本時）の目標
- ・指導内容
- ・手立て等 を簡潔に記す。

2 「授業する」のスタンダード

— 授業の前に ～日々の教育活動から行っておきたいこと！ —

学習のルールづくり

学びの構えづくり

・学習グループのみんなが気持ちよく**学習するためのルール**などは、全員（個別）で確認する機会を設けたり、視覚的に提示したりする。また、発達年齢に応じて児童生徒が話し合いの中で決めるなど、日々の教育活動の中で適宜行う。

・**人の話に注意を向ける（注意を継続する）**ことは、豊かな学びを支える一つの要素であり、社会的自立に向け大事な力といえます。学びの構えづくりとして、児童生徒が「学習が始まる」ことや「誰かが話をする」ことが分かり、自分の気持ちを調整していくための工夫を普段から行うことが大切です。

*発達の段階に応じてですが、まずは「何か楽しそうなことが始まるぞ（ワクワク）」という期待感から・・・

— 授業実践 —

(1) 基本姿勢を踏まえる。

- ① 健康・体調、安全や衛生面への配慮
- ② 明るく、落ち着いた雰囲気づくり
- ③ 児童生徒の反応や発信への気付きと受け止め
- ④ 子どもの気持ちや思考への寄り添い
- ⑤ 場に適した言葉遣いや態度

承認の機会につながります

児童生徒との関わり方の基本

児童生徒に伝わりやすい話し方

- ・目線を合わせて話す
- ・明るい表情、元気な声で話す
- ・一文で1つの指示を話す
- ・具体物を示しながら話す
（「あれ」「それ」「あちら」×）
- ・一問一答にならないように話す
- ・児童生徒の理解の程度を確認しながら話す
- ・ユーモアも入れて話す
- ・意図や内容を明確にして話す



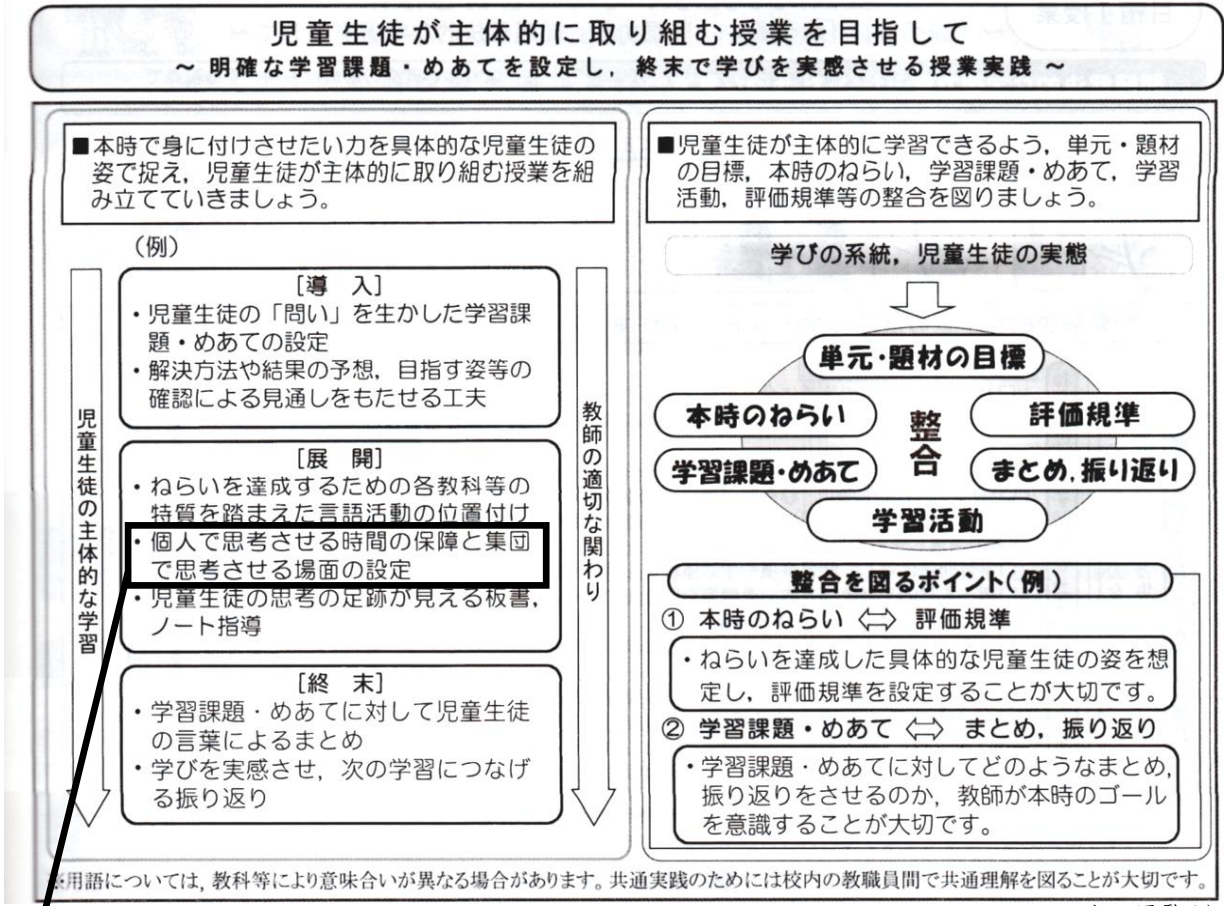
児童生徒に寄り添った話の聴き方

- ・表情をよく見て聴く
- ・受容的な雰囲気聴く
- ・話を最後まで聴く
- ・児童生徒の意見をつなぎながら聴く
- ・児童生徒の理解の程度を確かめながら聴く
- ・児童生徒の話を楽しみながら聴く
- ・あいづちをうちながら聴く

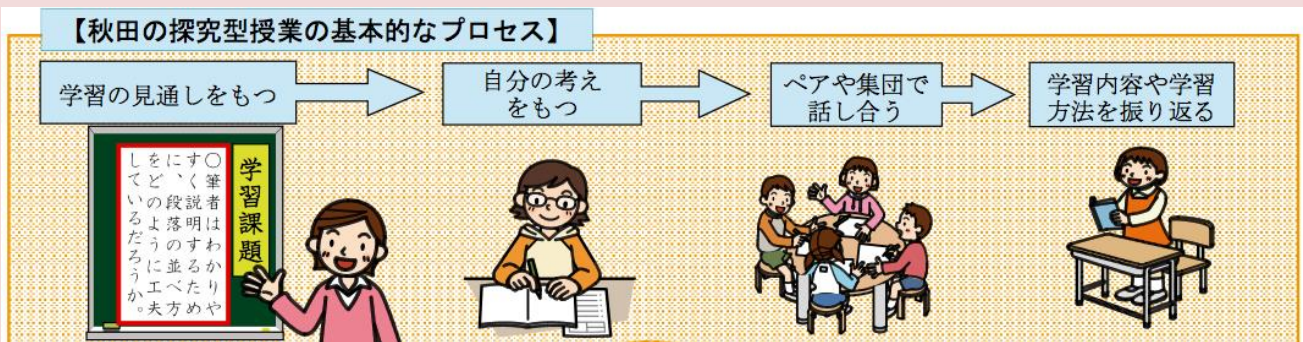


(2) 学習活動を工夫する。

- ① 導入：本時の意欲喚起、学習への見通し
- ② 展開：活動量の確保、めあてを達成するための活動
- ③ 終末：学びの実感（達成感）、次の学習への意欲喚起



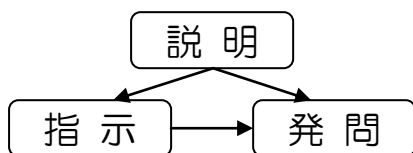
【児童生徒の学び合いと高め合うためのポイント】



「個の学び」で終わらずに、「個の学び」を「集団の学び」につなげたり、共有したりできる工夫をする。

★考える機会の保障★

教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に用い、児童生徒の考える機会を保障する。



・授業の中で、説明から指示・発問、説明から指示、そして発問など、意図的に用いる。

★承認機会の保障★

教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会を保障する。

役割を果たすことで認められる

人として認められる

・人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、周りに影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会を意図的に設定する。

(3) 学習環境を整える（構造化）。

① 「空間」の構造化

- ・児童生徒と教師の動線
- ・座席や道具の配置
- ・感覚刺激に配慮した掲示物

例



「歩く場所」が分かる



順番が分かる

② 「時間」の構造化

- ・「始め」と「終わり」の時間
- ・活動の順番



活動の手順が分かる



終了時間が分かる

③ 「活動」の構造化

- ・単元全体の計画
- ・学習の流れ「何を」「どの順番」「どれだけ？」

④ 「方法」の構造化

- ・活動の手順（マニュアル）
- ・完成品の提示



単元の流れ（学習の軌跡）が分かる

(4) TTを機能させる。

- ① 適正数及び役割分担が明確
- ② 意図のある立ち位置

TTで協力して子どもたちの
学びや変容を見取ろう！！

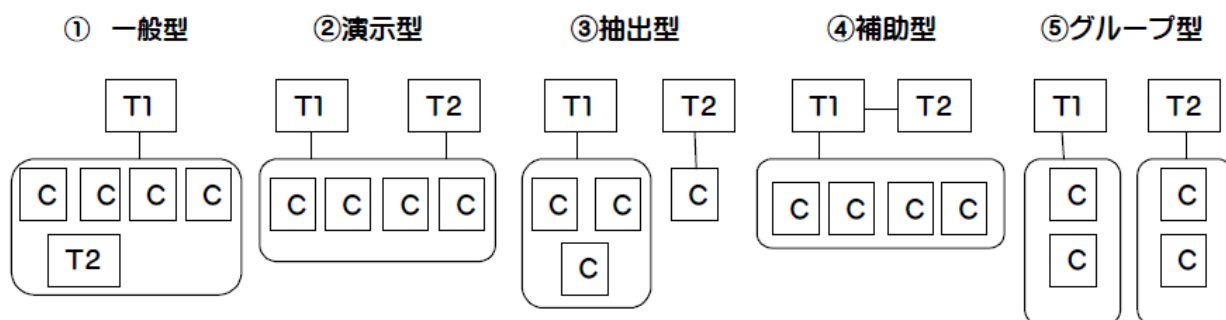


座席配置の工夫（コの字型）
と教師の立ち位置

チームティーチング（TT）では、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというわけではありません。特別支援学校ではほとんどの授業がTT方式による指導ですので、授業を行う際には、どの形式で、誰が、どのような働きかけをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

◇TT方式の形式パターン例

T:教師 C:児童生徒



3 「振り返る」のスタンダード

(1) 授業実践を振り返る。

①児童生徒の変容や学びの姿を振り返る。

- ・児童生徒一人一人の引き出した姿が見られたか。学習中の表情や行動、言動など、授業中に見られた様子を出し合う。

*意見を出し合う際には、付箋紙やホワイトボードを使い可視化する。

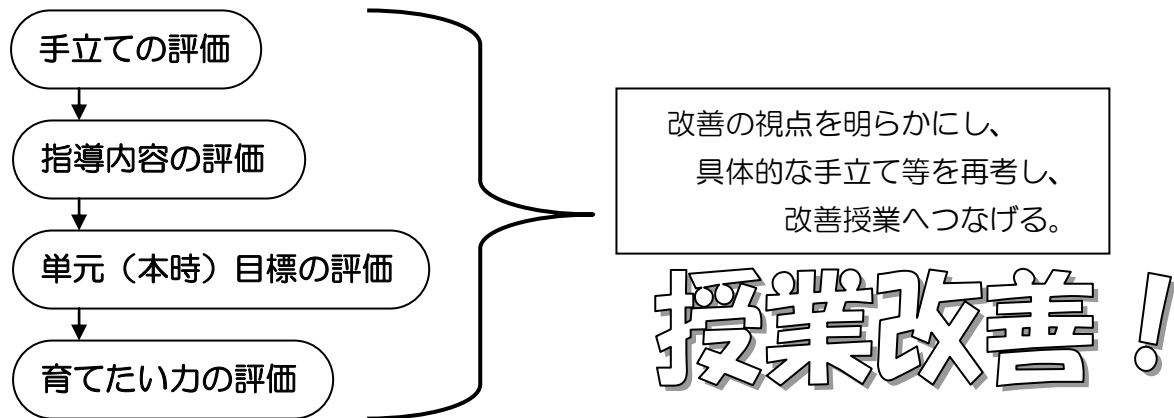
- ・本時や単元の目標が達成されたかどうかを述べ合う。

②基本姿勢、学習活動、学習環境、TTについて振り返る。

- ・授業づくり振り返りシートを活用する。*[資料3](#)
- ・特別支援教育のミニマムスタンダードのB授業実践チェックリストを活用する。

(2) 授業設計を振り返る。

◆児童生徒の変容や学びを引き出すことができたかどうかとともに、以下の点についても評価し、課題があれば修正する。



◆全校授業研究会では、「ワークショップ型協議会+全体協議」を通して改善の視点を明らかにする。
ミニ授業研では、参観者による授業参観シートと指導助言を基にして改善の視点を明らかにする。
授業者はそれを基に手立て等を再考する。

◆単元終了後に年間指導計画等へ立ち返り、次単元での授業づくりに生かす(「練り合い」へ)。

〈参考文献等〉

- ・秋田県立横手養護学校：「研究紀要第33集」
- ・特別支援教育課 総合教育センター：「特別支援教育のミニマムスタンダード」
- ・武田篤：「特別支援学校における授業づくりの新しい視点」～仲間と共につくる授業～
- ・干川隆：「特別支援教育のチームアプローチ ポラリスをさがせ」
- ・平成24年度 全校授業研究会等の指導助言、記録から
- ・平成27年度 南の要覧
- ・平成28年度 学校教育の指針

◆授業づくりの基礎固め◆(付録)

①「キャリア教育」って何？

「キャリア教育」とは

一人一人の

社会的自立
職業的自立

に向けて

必要な 基盤となる能力や態度 を育てること

を通して！

キャリア発達 を促す教育

キャリア発達とは、「社会の中で役割を果たすことを通して自分らしく生きる過程」と定義される。

【キャリア教育を解釈する上での留意事項】

①「社会的」

- ・職業的自立のみを目指したものでなく、より広義の自立を目指したものであること。

②「必要な基盤となる」

- ・能力や態度とは、就労に向けた特定の領域を示すものでなく、社会的自立のための基盤・土台となる能力や態度を意味すること。

③「能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」

- ・キャリアプランニングマトリクスで示される「4領域8能力」やキャリア答申で示された「基礎的・汎用的能力」等の育成そのものを意味するものではないということ。

つまり！

キャリア教育とは、上に例示されている能力や態度の育成を通して、キャリア発達を促すことであり、我々は皆、社会との関係性の中で生活することを踏まえると、

児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育である。

(意欲や態度、価値観)

例)

やってみたい・挑戦しよう

今やっている勉強は将来に向けて意味があるんだ。

〇〇になりたいな

できるかも…

真剣に聞いてみよう

うまくいかないときもあるさ
また、明日がんばろう

興味がある

難しそうだけど、やってみようかな



参考：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）平成23年中央教育審議会
引用：平成27年度 横手養護学校研究部報No.3

キャリア発達を促すための

② 「言語環境の整備と言語活動の充実」って何？

前項でキャリア教育とは、「児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育」とあるように、様々な物事との向き合い方は、他者に強要されるものではなく、児童生徒本人が自分で考え、判断し、納得していくことが大切です。

学習指導要領解説*の中には、「言葉は、児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。…したがって、言語能力の向上は、児童生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。」とあります。言語は、思考すること、他者とコミュニケーションをとることに加え、行動をコントロールすることにも用いられます。

キャリア発達を効果的に促すために、言語環境の整備と言語活動の充実を意識していきましょう。

*学習指導要領解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）P206

では、本校においては「言語環境の整備と言語活動の充実」とは、どんなことでしょうか？



特色の柱：本校の特色の一つである読書週間や読み聞かせ会。本に親しむという側面からも意義ある取組です。全校体制で定期的・継続的に実施されており、他学部の生徒が読み聞かせをする他学部交流の機会ともなっています。

授業実践：学習めあての視覚化や学習のまとめの言語化（児童生徒の内面の読み取り）、言語を用いた学習活動や学習中に用いる言葉の精選、内言語レベルでの子どもの気持ちの代弁や気持ちを出表するための工夫など、授業の中で言語に関わる様々なしかけが可能です。

学校生活：教師の話し言葉は元より、板書や掲示物などの視覚情報（色、レイアウトも含む）の精選や工夫、放送等の聴覚情報の言葉遣いや内容等の精選や工夫が大切です。また、儀式等での情報支援もこれにあたります。

地域資源：校内資源だけでは、具体的・実際の学習の展開に限界があります。より充実した言語環境と言語活動に向けて、活用できる地域資源は多々あります。また、家庭との連携も子どもの社会的自立に向けては大切な要素と言えます。

参考：言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫 独立行政法人教員研修センター

◆「言語環境の整備と言語活動の充実」と密接な関係にある「ことば」の指導について◆

◎ことばの指導の意義◎

児童生徒にとっては…ことばは考える力であり、行動をコントロールし、人とのやり取りをする手段となり、ことばを獲得することは、社会的自立に向けての必要な力の一つということができる。

教師にとっては……ことばの指導は、子どもの実態を把握し、様々な手段を活用しながら、伝えたいという気持ちや伝わったという経験を積み重ねていくことが大切であり、コミュニケーションは双方向のやり取りが重要となる。指導には、受け手の感性も求められ、その根幹には本来磨くべき教師としての本質があると言える。

*「ことば」とは、音声言語に加え、非音声言語、音声言語以外の補助代替手段（ACC）も含まれる。

○ことばの役割○

生活の中で重要な役割があり、
主に**自分の要求の伝達**や**他者との意思の疎通**、**指示や授業の理解**などがある。

○ことばの重要性○

ことば（言語）はコミュニケーションの手段としての役割だけでなく、**ヒトは物事をことばで考えている（思考）。また、見たい聞きたいした事柄（経験）をことばで覚えたい思い出したいしている（記憶）。さらに、ふるまい（行動）をことばで操っている。**もし、ことばの発達に問題があると、コミュニケーションが難しいだけでなく、生活場面の活動や学業の習得に影響が出ることがある。

○ことばとコミュニケーション○

コミュニケーションはことばによる言語的コミュニケーションとことばによらない非言語的コミュニケーションに分けられる。

ことばによるコミュニケーション：音声言語、視覚言語（文字、手話等）、触覚言語（点字）があり、ことばを介することで、意思や考えを広範囲にまた詳細に相互に伝達できる。

ことばによらないコミュニケーション：視線、表情、身振り、指さしなどがあり、伝達できる内容は簡単な欲求や要求（ほしいものややりたいこと）、また喜怒哀楽といった単純な情動（気持ち）に限られる。

○ことばと記憶・思考・行動○

日常生活で経験する学習内容は、ほとんどことばを介して記憶している。たいていは、音声化されないことば（内言語）によって処理して記憶する。コミュニケーションは音声化されたことば（外言語）で実現されている。ことばで処理して記憶した事柄は、目的に応じて思い出すことができる。また、思考にも深く関連している。見聞したことを区別できるのは、事柄に対してことばで名前を付けており、複数の名付けられたものの共通項を見つけ分類するからである。ことばで区別され、関係付けられているものは、ことばで操作できる。つまり、思考できることになる。人は、目の前のものだけをみて考えるのではなく、これまでの蓄積された知識と関連付け、さらに先を見越して考える。つまり、思考は現在過去、未来を関係付けて成り立っている。また、ことばは行動にも重要な役割を果たしている。日常生活で習慣になった行動は、あまりことばは用いない。新しく実行しなければならない行動や複雑な行動はことばの力が必要になる。ことばで行動の目標や計画を立てて、またはより効率的なやり方を考えて実行している。

*このように、ことばはコミュニケーション手段だけではありません。
日々の学校生活においてもことばの指導の意義を捉えて実施したいものですね。



参考：『ことばの指導 コミュニケーション能力の向上を目指して』全国特別支援学校知的障害教育校長会・編・著

キャリア発達を促すための

③ 「合理的配慮」って何？

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達を促す教育である。教員は、学校教育目標の達成と児童生徒一人一人の育てたい姿の実現に向けて、教育課程の枠の中で教育実践している。これまでも教育課程の枠の中で、一人一人の実態に応じて指導目標、指導内容の配列や時数、学習グループなどを設定し、教育実践にあたってきました。そして、一人一人に応じた配慮や手立てを講じながら行ってきましたが、平成28年4月より障害者差別解消法の施行に伴い、一人一人に応じた学びやすい環境や学びを充実させる配慮と言える「合理的配慮」の提供が義務となります。「合理的配慮」に関しては、個別の支援計画に明記することが望ましいとされており、保護者との合意形成の上で実施していくことが大切です。一人一人の学びを充実させ、効果的にキャリア発達を促していくためにも、合理的配慮についての基本的事柄を理解しておきましょう。

障害者権利条約

← あらゆる障害者（身体障害、知的障害および精神障害等）の尊厳と権利を保障するための条約

← 2013年12月4日参議院本会議
障害者基本法や障害者差別解消法の成立

日本国の**批准** → 2014年1月20日付けで国際連合事務局に**承認**

障害者権利条約

- 「第二十四条 教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容する教育制度（inclusive education system）等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる**合理的配慮**が提供されること。」を位置付けている。
- 「第二条 定義」においては、「**合理的配慮**」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

代表的な合理的配慮の例

◆知的障害◆

- ゆっくりと短いことばで話す。
- 見本や実物を提示して説明する。
- 文章を書くときは、見本や項目を提示する。
- 漢字には、ルビを振る。
- 視覚的に分かりやすい教材を使う。
- 話し合いや思考の際には、テーマや項目を絞る。

◆発達障害◆

- 物や絵を見せながら、短い言葉や文章で話す。
- 疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設ける。
- 吃音等ある場合には、話す時間を確保する。
- 感覚過敏がある場合には、教室内の音、温度、光等を調整する。

◆肢体不自由◆

- 段差のあるところは補助する。
- 板書や掲示物を見えやすい高さにする。
- 作業台や机等は、作業しやすい高さにする。
- 自筆が困難なときは、本人の意思確認をして代筆する。
- 活動することができる環境を工夫する（車いす）。

◆難病等◆

- 定期的な内服や排泄、医ケア等に配慮する。
- 体調や疲労等に配慮し、活動や休憩場所に工夫する。
- 他の児童生徒と同じように運動できない場合にも、病気等の特性を理解し、過度に排除することなく、参加するための工夫をする。

*詳細は、「合理的配慮等具体例データ集」：内閣府
「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」特総研 を参照ください。

◆基礎的環境整備と合理的配慮の関係◆

基礎的環境整備と合理的配慮配慮（中教審初中分科会報告より）

「合理的配慮」と「基礎的環境整備」
 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

基礎的環境整備

- ①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ②専門性のある指導体制の確保
- ③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④教材の確保
- ⑤施設・設備の整備
- ⑥専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧交流及び共同学習の推進

合理的配慮と基礎的環境整備の関係

学校における合理的配慮の観点

3観点11項目

- ①教育内容・方法
 - ①-1 教育内容
 - ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - ①-1-2 学習内容の変更・調整
 - ①-2 教育方法
 - ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - ①-2-2 学習機会や体験の確保
 - ①-2-3 心理面・健康面の配慮
- ②支援体制
 - ②-1 専門性のある指導体制の整備
 - ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
 - ②-3 災害時等の支援体制の整備
- ③施設・設備
 - ③-1 校内環境のバリアフリー化
 - ③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
 - ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

引用：「インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備と合理的配慮の課題」
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 藤本氏 資料より

前項に障害者権利条約の中に位置付けられている合理的配慮について、そして、合理的配慮の代表的な例を挙げました。

合理的配慮を実施する上では、合理的配慮の基礎となる**基礎的環境整備**についても理解しておければと思います。

「合理的配慮」とは、障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものです。

「基礎的環境整備」とは、この「合理的配慮」の基礎となるものであって、障害のある子供に対する支援について、法令に基づき又は財政措置等により、例えば、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、それぞれ行う教育環境の整備のことです。

また、「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定されるものであり、それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」も異なることとなります。

なお、「基礎的環境整備」についても、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課すものではないことに留意する必要があります。

加えて、学校における合理的配慮の観点（3観点11項目）についても知っておきましょう。

あ と が き

本校では、昨年度からの2年間、「様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり～『主体的・対話的で深い学び』の視点を踏まえた教科等の授業改善を通して～」を研究主題とし、研究及び実践を重ねてきました。その2年間のまとめとして、ここに研究紀要第40集を発行することができました。

本研究では、「様々な場面」を「児童生徒の成長、キャリア発達などによって、学習活動や集団、役割などが広がっていく課程での一場面のこと」、「学びを生かすこと」を「学習したことや経験したことが学びとして定着し、他の場面や状況において活用したり、応用できるようになること」ととらえ、今年度、小・中学部は「生活単元学習」、高等部は「家庭科」を対象とした授業づくりを行ってきました。

小学部では「スパイラル型の学習の設定」、中学部は「なりたい自分シートの活用」、高等部は「フェイスシートの活用」を軸とし、単元構想図や指導案の工夫等により「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を重ねてきました。全学習グループによるミニ授業研も含め、単元構想会を行ったうえで研究授業を行い、そして主体的・対話的・深い学びの視点で協議を重ね、各授業研究会後には、あらためて改善授業を提示し、協議してきました。これら一連の取組の中で、児童生徒が様々な場面で学びを生かす姿に近づけていくことができました。研究対象である、「生活単元学習」「家庭科」での成果を日々の授業実践に生かすべく、今後一層研さんを重ねていきます。なお、家庭や地域における「学びを生かす姿」の評価については、依然課題として残っており、次年度以後検証を続けて参ります。

本研究を進める中で、「指導内容チェック表」等、たくさんの資料を作成・活用してきました。研究対象の授業だけでなく、普段の日常的な授業の中に活用できるように整理し、新たな「横手のスタンダード」として、まとめる予定です。

今後、2年間の研究の成果、課題を踏まえ、教育課程の編成と授業改善の一体的取組に一層まい進し、「横手を舞台」とした魅力ある学校づくりを進めて参る所存です。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、秋田県教育庁特別支援教育課指導班 佐藤圭吾 主任指導主事、同 清水潤 主任指導主事、秋田県立角館高等学校定時制課程 大沢貴子 教諭（兼）教育専門監 から、たくさんの御指導、御助言をいただきました。また、全校授業研究会、公開研究会に御参加いただいた県内特別支援学校の皆様からもたくさんの御意見を頂戴し、授業づくり、授業改善に生かすことができました。誠にありがとうございました。

併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より、きたんのない御意見・御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭 熊谷 司

研究に携わった職員（令和元年度）

校長 松井克彦 教頭 熊谷 司 教頭 佐々木 誠

事務長 富樫一男 教育専門監 菅原 咲希子

（小学部）

谷口和江
岸英子
熊谷淳晴
高山知子
照井聖子
佐藤深雪
大川浩平（研究主任）
佐々木麗子（研究部）
森愛子
小西美穂（研究部）
菅優子
高橋由衣
高橋裕子
川越佳子
高井哉子
守屋充敬
佐藤潤也（研究部）
室井真美
小野敬子
菅原美奈子

（中学部）

高橋知希子
阿部勢津子
高橋貢
佐貫亜希子
今野洋美
小林宇文
小瀬戸実枝子
藤田亜貴子
山田育宏
会場一幸
遠山成子
池部和美（研究部）
藤谷淳一
熊谷道大（研究部）
後藤ゆり子（研究部）
内藤聖子
大沼美和子
伊藤文子
水田勝久
小椋トモ子
安達由美子
鈴木徹
時田航

（高等部）

高橋和恵
佐藤恵
朝倉知司
籠山誠
小西ゆり子
小玉智彦
小鈴木朋子
高橋静香
近亜希子
金澤めぐみ
柴田豪
青木真知子
菊池牧子（研究部）
鈴木木頭（研究部）
佐々木祐
櫻田菜保（研究部）
工藤彩智
菅原美由子
菅生真由子
小玉奈月
佐々木慶明
佐々木修文
阿部隆孝
中川浩美
佐藤優子
古関綾子
赤坂千春
妻野聖花（研究部）
須田裕一
松岡一
谷藤イツ子

発行年月日 令和2年3月 日
発行所 秋田県立横手支援学校
〒013-0064 横手市赤坂字仁坂105番地1
TEL 0182-33-4166 FAX 0182-33-4266 (小・中学部)
TEL 0182-33-4167 FAX 0182-33-4277 (高等部)
Email: yokote-s@akita-pref.ed.jp
<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp>